ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ&ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ

210019N0E
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
金曜 3限
ー
60
必修
Steven　Herder

〔科目の教育目標（Course Description）〕
This course is designed to help students efficiently read academic English prose and produce academic research papers in English.
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
Emphasis will be placed on logical and effective presentation of information in support of an argument. Students will learn the conventions of English academic writing, particularly with regard to the citation and listing of sources.
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　Introductory class
第 2 回　Outlining: outline of the first article
第 3 回　Summarizing: summary of the first article
第 4 回　Outlining: outline of the second article
第 5 回　Summarizing: summary of the second article
第 6 回　Outlining: outline of the third article
第 7 回　Summarizing: summary of the third article
第 8 回　Introduction to APA style，　Outline for Report I
第 9 回　Revision of first draft of Report I
第 10 回　Peer critique of second draft of Report I
第 11 回　Teacher conferences on Report I
第 12 回　Paper I due, Outline for Report II
第 13 回　Revision of first draft of Report II
第 14 回　Peer critique of second draft of Report II
第 15 回　Teacher conferences on Report II (Report II due the following week)

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
Students will read, outline, and summarize scholarly articles of their choice in the area of their concentration. After having written and revised several drafts, they will also submit two 5-page reports on an academic topic in their area. Students will read and critique the writing of their partners.
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
Students must do all the homework for the course, including all the drafts of the two reports
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
Classroom performance 10%, summaries 10%, Outlines 30%, Reports 50%
〔留意事項（Other Information）〕
This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

Class will be conducted in English. Students must attend regularly.
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インターンシップ

210092N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　集中
その他
ー
60
（未定）

〔科目の教育目標（Course Description）〕
英語の授業実践なので、TOEIC５００点以上が望ましい、「子どものための英語教育」か「児童英語教育」を履修済みの事が望ましい。教職課程/塾講師希望の3回生以上の学生の履修が望ましいが、2回生の履修も積極的なインターンシップ参加希望ならば問題はない。
公立小学校で教える「外国語活動」、総合的な学習の時間の中であつかう英語活動、私立小学校や（特区指定や研究指定校の）公立小学校における教科としての英語を指導する

ための必要な知識と技能を身につける。特に公立小学校での「外国語活動」の望ましい指導法をその教材作成を通して、考案・実践できるように演習を行う。その教材作成には、従来の副教材作成以外に、パワーポイント等を利用した電子黒板を利用したICT教材の作成と利用も含む。 1.2011年完全実施の学習指導要領における「外国語活動」とそれ以外の英語教育のねらいと指導実践の方法を理解し、その指導案を書くことができる。 2.「外国語活動」の模擬授業あるいはインターンシッププログラムで実際に授業ができる。 3.小学校英語指導のために必要な、正確な英語の音素の発音、クラスルームイングリッシュ、小学校英語活動・教育の中で扱う英語表現やダイアローグを習得する。 4.小学校英語授業で使われる教材とそれを使った授業を見たとき、その善し悪しが判断でき、改善案を作ることができる。 5．英語ノートに沿った教材あるいは先進的な私立小学校で開発されたデジタル教材のその作成における理論を学ぶ。理論編では、学習指導要領の小学校の外国語活動の内容を踏まえて、授業実践を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と教材作成の基礎理論を学ぶ。 次に、小学校の英語活動や外国語活動で使用する英語教育の授業で使用する副教材の作成をし、模擬授業の訓練をした上で、その作成教材を利用して、公立/私立の小学校で実際の授業実践に生かす経験をする事を目指す。 この授業で作成した教材や指導実践したアクティビティーは、中学校の教育実践にも生かせるものとしたい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕

小学校の英語活動の以下の教材作成とその活用が中心になる。 ①ストーリーテリング出来る紙芝居やピクチャーブック、エプロンシアター、英語の歌を利用した教材、チャンツ、ライム、フォニックス、様々なオーディオビジュアルエイズやカードなど。 ②個人/グループで作成した教材は、模擬授業をした上で、実際の小学校などの指導の経験に生かす。

〔授業計画〕

第 1 回　1．理論編：小学校の英語活動を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と基礎理論（橘堂担当）テキストや資料利用 、教材作成演習　学習指導要領　総合学習　英語活動 小中高の外国語

第 2 回　２学習指導用要領　英語活動と外国語活動の相違と実践

第 3 回　３.土曜日：外国語活動ワークショップ：フォニックス：大阪市立関目東小学校（ユネスコスクール）山本吉彦教諭

第 4 回　４．土曜日：外国語活動ワークショップ：チャンツやライム：大阪市立関目東小学校（ユネスコスクール）山本吉彦教諭

第 5 回　５.実践編：個人/グループの教材作成：インターンシップの指導計画

第 6 回　６.インターンシップ実施大阪市立関目東小学校の外国語活動授業見学

第 7 回　７.インターンシップの1時間目の指導案作成

第 8 回　８.インターンシップの2時間目の指導案作成

第 9 回　９.ピクチャーカードの作成

第 10 回　１０.ICT教材の作成

第 11 回　１１．インターンシップの授業のリハーサル

第 12 回　１２.大阪市立関目東小学校（ユネスコスクール）１回目のインターンシップ実施

第 13 回　インターンシップ授業実践の事後の評価と反省、2回目ののインターンシップへのフィードバックと2時間目の準備

第 14 回　１４.大阪市立関目東小学校（ユネスコスクール)2回目のインターンシップの実施

第 15 回　１５まとめと振り返り：インターンシップの授業実践の評価と反省会合評会で、この演習のフィードバックを実施する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕

①理論編：小学校の英語活動を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と基礎理論を学ぶ。 ②指導方法の理解と模擬授業 ③実践編：個人/グループの教材作成。 ④実践編：公立/私立の小学校で実際の授業実践 1. この授業のねらいと進め方、学習指導要領における英語活動の目的、指導案例 自己紹介（名前、挨拶、出身、誕生日）およびフォニックスジングルの指導の体験と英語練習 自己紹介（既習のことに加えて、好きなこと、もの、趣味など）の指導の単元構成、復習の仕方 およびチャンツと歌の活用について体験と英語練習 2.数、形、色、朝食（昼食）のメニュー、文化比較や自己表現と絡めて このトピックと指導に必要な英語表現の練習、教材の収集と加工 3.絵本の活用と実習、教材の作成と提示 これまでにでてきた、指導方法の実習、指導に必要な英語の練習 4.1時間の指導の組み立て方、指導者と指導形態、マルチメディア教材およびICTの活用法 5.指導に必要な教案作成、模擬授業準備 6.サンプル授業視聴、模擬授業準備　色やそれにからめたもの（動物、食べ物，衣服他）の学習を含む授業 模擬授業　朝食もしくは昼食のメニューについての学習を含む授業 模擬授業　読みきかせの学習を含む授業 模擬授業　時刻やスケジュールの学習を含む授業 模擬授業　動作動詞（スポーツ、お手伝い、一日の行動）の学習を含む授業 模擬授業　数字や方向の学習を含む授業 模擬授業　季節と季節の行事の学習を含む授業 模擬授業　文字の指導とフォニックスの学習を含む授業 まとめと課題ディスカッション、

〇スクールインターンシップ授業終了後に、反省会合評会で、模擬授業実施学生と公立小学校の担当教員を交えて実施して、演習のフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕

毎回の授業における教材の作成＋指導案＋模擬授業の準備等

公立小学校スクールインターンシップは、相手先の小学校のスケジュール等で授業計画通りに進まない場合が有る。外国語活動のワークショップを土曜日や日曜日に実施し（出席を要する。）インターンシップの授業準備に充てる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
TOEIC５００点以上が望ましい、前提科目として「子供の為の英語教育」か「児童英語教育」を履修済みの事。
１．積極的な授業への参加（１０％）
２．教材の作成＋指導案＋模擬授業（３０％）
４．公立/私立の小学校で実際の授業実践と事後の評価と反省（３０％）
５.教材作成や授業実践に対する積極的な態度（３０％）などの総合評価
〔留意事項（Other Information）〕
特に、作成教材を利用した公立/私立の小学校での授業実践の際には、ご迷惑の無いようにしながら、教材作成、模擬授業、特に授業実践では、楽しみながら真剣に取り組んで欲しい。給食を児童とる場合は、給食代金300円程度必要になる、(学生課で傷害保険500円程度加入必要：教育実習、介護等体験、総合演習等で既に加入している場合は不必要）橘堂の関わるNPO法人JAE主催の産学連携「ドリカムスクール」インターンシップや、特に教育委員会主催のスクールインターンシップにも、積極的に参加して、教育現場を説教的に経験してもらいたいと思っています。 他にも、以下の英文学科の英語教育領域の開講科目： 公立小学校の英語活動科目：「子どものための英語」や塾やホームティーチャー用の「児童英語教育」も履修することが望ましい。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『 小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング集ー 』/樋口編著、橘堂、金山/教育出版//
『ONE WORLD Kids， アントコース，バードコース』/樋口編著、橘堂/、教育出版//
『 小学校英語活動実践の手引き』//文部科学省：開隆堂//
『小学校からの外国語教育 』/樋口編著/研究社//
『英語教育のフロンティア』/青木昭六編著、橘堂/保育出版社//
Hi, Friends!Ⅰ・Ⅱ, 英語ノートⅠ・Ⅱ、小学校からの外国語教育（研究社）小学校英語活動実践の手引き（文部科学省：開隆堂） 小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング集ー （教育出版） 小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング集ー （教育出版） 実践編：ONE WORLD Kids，アントコース，バードコース、（教育出版）小学校英語教育の進め方 岡秀夫・金森強（成美堂）
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101A0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
必修
大川　淳

〔科目の教育目標（Course Description）〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101B0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
必修
小山　哲春

〔科目の教育目標（Course Description)〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101C0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
必修
須川　いずみ

〔科目の教育目標（Course Description)〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101F0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
必修
東郷　多津

〔科目の教育目標（Course Description）〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101G0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
必修
Steven　Herder

〔科目の教育目標（Course Description）〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。
〔留意事項（Other Information）〕
0

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

映像芸術

210246N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
金曜 4限
ー
90
須川　いずみ

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　英語圏の映画を取り上げ、聴解力を高めるなど英語運用力の養成を図ると同時に映画と文学との関係に注目し研究を行いたい。誕生からわずか一世紀にして人間文化の優れた表現を実現するに至った映画の中でも名作として歴史に名を留める小説の脚色をもとに作られた作品を取り上げ、原作となった小説の正確な読解を基礎に原作と映画との比較を行い、文学的表現と映像表現との関係の研究を目指したい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
(1)　映画という映像メディアの把握
(2)　原作を読む英語力の育成
(3)　文学作品を読み解く能力の養成
(4)　クリティシズムの扱い方
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　『ダブリン市民』”Araby”を読む
第 3 回　”Araby”の映像を観て比較研究
第 4 回　“A Painful Case”の前半３分の１を読む
第 5 回　“A Painful Case”の３分の２まで読む
第 6 回　“A Painful Case”の後半３分の１を読む
第 7 回　“A Painful Case”の映画を見て比較研究
第 8 回　ジョイスと初期映画
第 9 回　ジョイスとエイゼンシュタイン
第 10 回　マックス・ランデー、アンドラ・ディード、チャップリン
第 11 回　A Handful of Dustを観る
第 12 回　イヴリン・ウオーの作品研究
第 13 回　文学と映画学を考える
第 14 回　クリティシズムを読む
第 15 回　まとめ等
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
(1)　原作を読んでから映画を観る
(2)　積極的授業の参加を求める
(3)　発表、レポートあり
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
(1）原作の精読
(2)アノテーションやグローサリー等での学習
(3)発表原稿の作成
(4)レポート執筆
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
平常点（４０％)、発表（３０％)、レポート（３０％）で総合的に判断する。
〔留意事項（Other Information)〕
学生の研究分野やレベルによって中身の変更がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
プリント
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『Ulysses』/James Joyce/The Bodley Head/2001/
『Joyce Annotated』/Don Gifford/U.California Press/1982/
『Engendered Trope in Joyce’s Dubliners』/Earl G. Ingersoll/South Illinois Univ. Press/1996/809320169
『Dubliners’ Dozen』/Gerald Doterty/F. Dickinson Press/2004/
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語プレゼンテーション

210016N0E
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
火曜 3限
ー
60
集中
York　Weatherford

〔科目の教育目標（Course Description）〕
The goal of this course is to introduce you to the basic theories and practice of public speaking focusing on general academic presentations and help you improve your speech/presentation skills in English with technology while enhancing critical thinking skills. You will learn how to formulate specific purpose statements, how to analyze and adapt to audiences, how to organize ideas and construct outlines, how to assess evidence and reasoning, and how to use language effectively.
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・ Attend classes regularly.
・ Read the weekly reading assignment and complete the assigned homework.
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　Introduction to Oral Presentation
第 2 回　Modern Presentations; Self-Introduction Presentation
第 3 回　Selection a Topic and Purpose
第 4 回　Analyzing the Audience
第 5 回　Gathering Materials
第 6 回　Supporting Your Ideas
第 7 回　Organizing the Speech
第 8 回　Design: Importance of Simplicity
第 9 回　Design Principles and Techniques
第 10 回　Usual Visuals: Images and Text
第 11 回　Using Language Effectively
第 12 回　Delivery Basics
第 13 回　Connecting with the Audience
第 14 回　Final Presentation Workshop
第 15 回　Final Presentations
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
The lecturer will provide a blended teaching/autonomous learning style to cover the content in class and beyond the class. Students are expected to complete the weekly reading assignment and homework while being ready for planned presentations after doing research on a chosen topic.

Feedback methods:
Students will receive oral commentary from the instructor in class after each presentation. In addition, students will receive written evaluations for each presentation.
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1. Read the assigned textbook chapters
2. Complete critical reading assignments
3. Prepare speeches/presentations
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
Assignments (35%)
Individual/Small Group Presentations (15% x 3 = 45%)
PowerPoint files (20% x 1 = 20%)
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
Presentation Zen: Simple Ideas on Presentation Design and Delivery (3rd Edition)/Garr Reynolds/Voices That Matter/2019/0135800919/学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語教育学特論Ⅰ(Language Pedagogy)

210234N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　前期
その他
ー
90
集中
（未定）

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本特論では、”Principles of Language Learning and Teaching” H. Douglas Brownのテキストをベースに、英語教育学の基礎になる理論や教育学の基礎を学んだ後、児童/生徒に合わせた個別対応型教育の為に生まれた授業研究法（アクション・リサーチ）等も学びたい。また学んだ理論を教育現場にどう生かすかについて、中・高校における英語教育の実践例をもとに、演習形式で考察したい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
　特に最終段階では、英語教育関連のレポートか、小・中・高校における英語教育の事例や各自の課題等を、量的に、質的に、あるいはアクション・リサーチの手法を用いて、どう教育実践の改善に応用するかを考察したい。 以下のテキストは、皆で読み進めたい。
　①「英語教育研究入門」（大修館）
　②「アクション・リサーチのすすめ　－新しい英語授業研究－」 佐野正之（大修館）
　③「Principles of Language Learning and Teaching」 H. Douglas Brown (Prentice Hall Regents)
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　英語教育学を基礎に、それを教育実践の改善にいかに応用するかの考察とオリエンテーション
第 2 回　基礎理論の概論
第 3 回　英語教育学の基礎
第 4 回　量的・質的研究
第 5 回　マスタリーラーニングとアクションリサーチ
第 6 回　統計的考え方の基礎
第 7 回　統計的仮説の検定と推定
第 8 回　実証的研究の手順
第 9 回　実験研究の種類と調査の進め方
第 10 回　研究論文の読み方
第 11 回　母語の習得：Principles of Language Learning and Teaching
第 12 回　第二言語習得：Principles of Language Learning and Teaching
第 13 回　中間言語：Principles of Language Learning and Teaching
第 14 回　学習者要因：Principles of Language Learning and Teaching
第 15 回　まとめと振り返り
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本特論では、”Principles of Language Learning and Teaching” H. Douglas Brownのテキストをベースに、英語教育学の基礎になる理論や教育学の基礎を学び、それを基礎に、量的研究、質的研究、授業研究法（アクション・リサーチ）についての基本的な調査・研究の方法論の紹介を、参加者の発表形式で文献研究していく。その中で教育実践への応用を考えたい。必要な資料は、原則的にプリントして配付する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
基本文献を読み進めながら，参加者による発表形式で議論考察するので、その準備を整える。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　課題発表、レポート：７０％
　授業中の積極的態度など：３０％
〔留意事項（Other Information)〕
　演習のテーマに関連する以下の研究会/学会への参加を奨励する。文部省研究指定校：「小学校における教科としての英語教育」 指導実施実験校、英語授業の実践に関連する研究会、学会（日本児童英語教育学会 （JASTEC)， 英語授業研究学会等）への参加と、小学校の英語活動・外国語活動を目指すものは、学部のスクールインターンシップを伴う「英語教材作成演習」の履修を推奨する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『英語教育研究入門』//大修館///学内販売予定
『アクション・リサーチのすすめ－新しい英語授業研究－』/佐野正之/大修館///学内販売予定
『Principles of Language Learning and Teaching』/H. Douglas Brown/Prentice Hall Regents///学内販売予定
『DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTICS』//LONGMAN///学内販売予定

『英語教育のフロンティア』/青木昭六編著、橘堂/保育出版社///学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『英語教育のアクション・リサーチ』//研究社//
『第二言語習得研究の現在』/小池生夫、他/大修館//
『リフレクティブ・アプローチによる英語教師の養成』//金星堂//
『はじめてのアクションリサーチ』/佐野正之/大修館//
各分野の文献リストを配布するので、各自の研究の際、利用して欲しい。
①TESOL Quarterly, Applied Linguistics, Language Learning 等の専門誌
②ロングマン応用言語学辞典（南雲堂）
③英語教育用語辞典（大修館）
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語教育学特論Ⅲ(Classroom Research)

210236N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
木曜 4限
ー
60
集中
東郷　多津

〔科目の教育目標（Course Description)〕
授業は学習者を含めた相互行為の結果でもある。したがって、同じ授業者が、同じ教材、同じ授業法を使用しても再現できない現象である。本科目では，授業実践者が自らの実践を研究する授業実践研究に立脚し、授業分析研究の視点を踏まえながら，「よい授業とは？」への回答を追求してみたい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1. 授業実践研究についての知識・理解を深める
2. 授業分析についての知識・理解を深める
3. 授業分析結果を授業改善へと繋げる方途を検討する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業実践研究について全く説明できない。	テキストを参照しながらだと、授業実践研究が何かを説明できる。	テキストを見ずに、授業実践研究が何か自分の言葉で説明することができる。	授業実践研究が何かを自分の言葉で説明することができ、自身の研究について研究法を適用できる。

〔授業計画〕
第 1 回　授業実践研究と授業分析研究についてのオリエンテーション
第 2 回　2: Introduction to Part One: The Historical and Conceptual Background to Researching Practice
第 3 回　3: From Research to Practitioner Research: Setting Exploratory Practice in Context.
第 4 回　4: Perspectives on the ‘Family’ of Practitioner Research.- Chapter
第 5 回　5: The Evolution of the Exploratory Practice Framework
第 6 回　6: Puzzles, Puzzling and Puzzlement.- PART II
第 7 回　7: Introduction to Part Two: Developing Understanding from Practice
第 8 回　8: Understanding from Practice: Integrating Research and Pedagogy
第 9 回　9: Understanding from Practice: Collegial Working
第 10 回　10: Understanding from Practice: Continuing Personal and Professional Development.- PART III
第 11 回　11: Introduction to Part Three: Understanding for Practice
第 12 回　12: Understanding for Practice: Puzzles, Puzzling and Trust
第 13 回　13: Understanding for Practice: PEPAs, Culture and Identit
第 14 回　14: Conclusions.- PART IV: Resources.
事例研究：観察と評価（３）
第 15 回　授業実践研究まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．授業方法
(1) テキストを中心とした主要文献の講読と演習
(2) 実際の授業（またはビデオの視聴）の分析方法についての演習
２．研究方法
(1) 授業実践研究関連の文献読解
(2) 授業分析方法の習得
(3) 授業分析結果の授業改善・改革への応用
レポートに関するフィードバックは、必要に応じて、直接またはweb上で、個人または全体に対して行います。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
課題がある場合は、授業前に必ず文献を読んで授業に臨むこと。
また、授業内に質問やディスカッションができるよう、あらかじめ、関連する情報について調べておくこと。
必要であれば、指定箇所以外の箇所も積極的に取り組む姿勢が求められる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
25

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は，平常点（授業内ディスカッション）50% とレポート（課題とまとめ）50% により，総合的に行う。
〔留意事項（Other Information）〕
受講生の経験やニーズにより、進度、内容の優先度および順番が換わる可能性がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
Exploratory Practice in Language Teaching: Puzzling About Principles and Practices (Research and Practice in Applied Linguistics) / Judith Hanks/ Palgrave Macmillan/ 2017/ 978-1137457110/

その他、必要に応じてプリントを配布する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
学習開発研究所『「教える」から「学ぶ」への変革：学習投資への道　学習開発シリーズ』[Kindle版], 2014
金田道和編『英語の授業分析』大修館書店．1986.
高梨庸雄『英語の「授業力」を高めるために』三省堂，2005.
Lynch, T. Communication in the Language Classroom. Oxford U.P.
1996.
Tajino, A, Stewart, T, Dalsky, D(ed.) Team Teaching and Team Learning in the Language Classroom: Collaboration for innovation in ELT. Routledge.2015
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英米文学作品研究ｃ

210243N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　前期
月曜 5限
ー
90
大川　淳

〔科目の教育目標（Course Description）〕
Herman Melvilleの作品を読み、文学における英語表現を正確に精読し、考察することを目標とする。アメリカン・ルネッサンス期の時代背景やMelvilleの伝記的背景を理解し、批評する能力を涵養することも目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
難解なMelville文学を読むにあたって、一語一句分析する姿勢を身につける必要がある。
また、文学批評を行うにあたって、作品の先行研究などを渉猟することも求められる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーションおよびMelville文学について
第 2 回　”The Bell-Tower” 精読および分析（p.174~177第２段落）
第 3 回　”The Bell-Tower” 精読および分析（~p.180第３段落）
第 4 回　”The Bell-Tower” 精読および分析（~p.183第１段落）
第 5 回　”The Bell-Tower” 精読および分析（~p.186第１段落）
第 6 回　”The Bell-Tower” 精読および分析（~p.187）
第 7 回　”The Apple-Tree Table” 精読および分析（p.378~p.381第１段落）
第 8 回　”The Apple-Tree Table” 精読および分析（~p.383第２段落）
第 9 回　”The Apple-Tree Table” 精読および分析（~p.385）
第 10 回　”The Apple-Tree Table” 精読および分析 (~p.388第１段落)
第 11 回　”The Apple-Tree Table” 精読および分析（~p.390第２段落）
第 12 回　”The Apple-Tree Table” 精読および分析（~p.392）
第 13 回　”The Apple-Tree Table” 精読および分析 (~p.394)
第 14 回　”The Apple-Tree Table” 精読および分析 (~p.396)
第 15 回　”The Apple-Tree Table” 精読および分析 (~p.397)
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・テクストの精読（辞書を引き、表面的な意味にとらわれず多角的な視点からに読むこと）
・テクスト分析（受動的に読むのではなく、能動的にテクストに意味を見出すこと）
・リサーチ（先行研究を把握すること）
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
準備学習としてテクストの精読を求める。その際、不明な箇所や、解釈に関するコメントを事前に明確にしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
平常点　４０％（準備学習および授業でのコメントの評価）
レポート　６０％
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
配布プリント
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
Melville, Herman. The Piazza Tales and Other Prose Pieces 1839-1860. Ed. Harrison Hayford, Alma A. MacDougall, and G. Thomas Tanselle. Evanston: Northwestern UP and The Newberry Library, 1987.
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英米文学作品研究ｄ

210244N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　前期
その他
ー
90
（未定）

〔科目の教育目標（Course Description）〕
小説を研究するうえで基礎的な知識を身につけるための授業です。テキストで解説されている事項や作品例を正しく理解するとともに、その知識を他の作品を読むときに応用するトレーニングを積むことで、Readingのスキルを向上させることを目標とします。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
学んだ知識は、それを自分で使ってみることで、初めて生きた知識になります。小説を読むための知識を、そのような生きた知識に変えるには、多くの小説に接すること、そして問題意識を持って考えながら読むことが必要です。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション（授業の概要を説明します）
第 2 回　Point of View（テキストの第6章）
第 3 回　Point of View　応用篇
第 4 回　The Stream of Consciousness（テキストの第9章）
第 5 回　The Stream of Consciousness　応用篇
第 6 回　Defamiliarization（テキストの第11章）
第 7 回　Defamiliarization　応用篇
第 8 回　Time-Shift（テキストの第16章）
第 9 回　Time-Shift　応用篇
第 10 回　Intertextuality（テキストの第21章）
第 11 回　Intertextuality　応用篇
第 12 回　The Unreliable Narrator（テキストの第34章）
第 13 回　The Unreliable Narrator　応用篇
第 14 回　Metafiction（テキストの第46章）
第 15 回　Metafiction　応用篇
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
授業は、１つのテーマ（テキストでは１章分）について、著者が解説している事項や作品例を理解するための回と、それを他の作品に応用してみる回との、２回分でセットになっています。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業で扱われる章を必ず事前に読んでくること。応用篇では、他の作品例を自分で探してくること。その際に、その作品からの引用と、それに対するコメントを、A4で1~2枚にまとめて準備してくること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業中の提出課題を含む平常点100%で評価します。
〔留意事項（Other Information）〕
特になし。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『The Art of Fiction』/David Lodge/Vintage Books/2011/978-0099554240/
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に適宜配布します。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

応用英語研究方法論

210020N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　前期
金曜 5限
ー
60
必修
Steven　Herder　大川　淳　木島　菜菜子　須川　いずみ　小山　哲春　東郷　多津　York　Weatherford

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本授業は、応用英語専攻修士１回生を対象に、大学院レベルでの研究・学問の基礎的な方法論を教授することを目的とする。受講者は、大学院レベルで期待される研究の質を理解し、その達成のために必要とされる履修計画、研究計画、研究方法論、時間管理能力などを習得する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
具体的な個別課題として、以下の四つを掲げる：
(1)大学院での研究の目的、意義、および期待される質を理解する
(2)大学院での研究を計画し、遂行するための能力を養成する
(3)大学院レベルでの一般的な研究方法論を理解し、習得する
(4)各学問領域における特定の研究方法論を概観する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　大学院における研究の質と意義、心構え／ 研究の具体的な進め方（共通）
第 2 回　文学・文化研究方法論 総論（共通）
第 3 回　社会科学研究方法論 総説（共通）
第 4 回　Academic Integrity（共通）
第 5 回　Methods of Reading Academic Articles（共通）
第 6 回　イギリス文学　研究方法論総説／英語教育学（第二言語習得論の目標と分析対象）
第 7 回　イギリス文学　Flannery O'Connor 作品講読／英語教育学（教育工学研究方法論）
第 8 回　イギリス文学　Flannery O'Connor 作品分析／英語教育学（教授法研究の目標と分析対象）
第 9 回　イギリス文化論 / 英語教育学（教授法研究方法論）
第 10 回　アメリカ文学　研究方法論総説／英語教育学（応用言語学の目標と分析対象）
第 11 回　アメリカ文学　Nathaniel Hawthorn 作品講読／英語教育学（応用言語学研究方法論）
第 12 回　アメリカ文学　Nathaniel Hawthorn 作品分析／言語学（理論言語学の目標と分析対象）
第 13 回　アメリカ文化論／言語学（研究方法論）
第 14 回　Academic Paper & Academic Presentation（共通）
第 15 回　研究計画書執筆に向けて（総括）（共通）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本授業は、主に以下のような構成となる：
第１～４週 一般的な研究方法論に関する講義
第４～14週 Reading assignmentに基づく講義、解説、討論
第15週 全体のまとめ、および質疑応答
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
Reading Assignment
第4～14週の授業に際しては、受講者は、前もって課されたReading Assignment （各授業につき、Journal article, Book chapter, etc.）を熟読し、授業中の討論に参加する。

Short Paper:
第4～14週の授業では各教員が指定するトピックでのShort Paper (500 words～)が課され、これを指定の期日までに提出する。

Proposal
最終課題として、各種方法論を学習した上での「研究計画書（Proposal)」を執筆する。

各種課題の詳細については授業中に指示する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
Short Paper 60%
Proposal 40%
〔留意事項（Other Information)〕
本科目は原則として、文学・文化領域、英語教育・コミュニケーション・言語学領域の２クラスに分かれて授業を行う。なお、領域共通の授業回に関しては合同のクラスで授業を行う。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『研究法ハンドブック』/高橋順一・渡辺文夫・大渕憲一 編著/ナカニシヤ出版///学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
適宜指示
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

応用言語学

210013N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　前期
月曜 3限
ー
60
（未定）

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本授業では、応用言語学の諸領域に関する論文・文献の購読を通じて、応用言語学で扱われる種々の分野を総論的に扱う。社会言語学で扱われる諸問題より始め、言語習得にまつわる問題、言語と脳の問題、外国語教授法などの諸分野を俯瞰し、現在の日本の教育現場において英語教育実践を考える際に必要な専門的知識の習得を目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
本授業では，応用言語学の諸領域に関する論文購読を通じて、以下の諸点についての理解を深める
１．言語と文化、言語と社会、言語とジェンダーなどの社会言語学的観点
２．母語習得と第二言語習得
３．言語と脳
４．外国語教授法
５．日本の初等・中等教育における英語教育の現状と課題
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　授業方法についての説明と応用言語学についての導入
第 2 回　World Englishes（ENL・ESL・EFL）について
第 3 回　言語と思考
第 4 回　言語政策と国家権力
第 5 回　言語と社会
第 6 回　言語と文化
第 7 回　世界の言語と消滅危機言語について
第 8 回　英語帝国主義と英語の未来
第 9 回　世界の外国語教育
第 10 回　母語習得と第二言語習得
第 11 回　外国語教授法ー文法訳読法・オーディオリンガル・メソッド・コミュニカティブ・アプローチー
第 12 回　言語と脳
第 13 回　小学校における英語教育
第 14 回　バイリンガル教育、イマージョン、CBI、及びCLILについて
第 15 回　日本の初等・中等教育における英語教育の現状と課題
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本授業は，テキスト以外にも「応用言語学と英語教育」に関連した文献（プリント配布）の講読を中心として進める。教員がテーマを導入し，解説を加える。受講生は輪番で課題文献の要約を発表し，全員で討議する。また、受講生は指示された内容について、レポートの提出が個別に求められる。これらの課題・レポートに関しては、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各授業の準備段階においては、課題論文を熟読し内容をよく理解した上で授業に臨むことが求められる。また、授業で扱われる各テーマに関して自分なりの問題意識と自らの研究テーマにどのように生かしていくのかを考えたうえで出席すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加及び平常レポート 60%，期末レポート課題 40%
〔留意事項（Other Information）〕
受講者のニーズ、人数などにより、受講者と相談の上、授業予定を変更することがある。
必要に応じて課題プリントを配布する予定。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『言語教育学入門ー応用言語学を言語教育に活かすー』/山内進（編著）/大修館書店/2003/9784469244892/学内販売有り
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『The Routledge Applied Linguistics Reader』/Li Wei (Ed.)/Routledge/2011/9780415566209
『Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics 4th Edition』/Jack C. Richards & Richard Schmidt/

Routledge/2010/9781408204603
『Approaches and Methods in Language Teaching』/J. C. Richards & T. S. Rodgers/Cambridge University Press/2015/9781316617977
ハンドアウト、雑誌・論文など必要に応じてその都度配布予定
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

言語コミュニケーション

210253N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
水曜 2限
ー
60
小山　哲春

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本講義の目標は、言語による発話意図伝達の仕組みを理論的に理解し、実際に言語データを分析する手法を習得することである。具体的な目的は以下の２点：
(1) 語用論（Pragmatics）のうち特に会話の含意／推論を扱った諸理論を理解し、これらを用いて言語現象の分析を行う技術を習得すること
(2) 言語メッセージが持つ対人効果を検証する研究方法論（実験デザインと計測法）を習得すること
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
(1) 会話におけるNon-Literal / Non-Directな意味とその伝達に関する理論的モデルの批判的概観
(2) 具体的な言語データ分析手法の習得
(3) 言語メッセージの対人的影響計測方法の習得
(4) 実験デザインの理解と遂行技術の獲得
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　Oirgins and Domains of Pragmatics
第 2 回　Presupposition and Entailment
第 3 回　Speech Act Theory
第 4 回　Literal, Non-Literal, Direct, and Indirect Meanings
第 5 回　Conversational Implicature (1): Gricean Theory
第 6 回　Conversational Implicature (2): Neo-Gricean Theory
第 7 回　Conversational Implicature (3): Relevance Theory
第 8 回　Conversational Implicature (4): Socio-Cognitive Model
第 9 回　Facework & Politeness
第 10 回　Cross-cultural Pragmatics
第 11 回　Utterance Meaning & Message Effect
第 12 回　Message Effect Research Methods (1): Design
第 13 回　Message Effect Research Methods (2): Measurement
第 14 回　Message Effect Research Methods (3): Reporeting the Results
第 15 回　Review & Presentation of a Mini Research Project
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
(1) 本科目は主に講義及びディスカッションで構成され、それぞれ事前に課されるリーディングを基に行われる。
(2) 授業内または外の課題として実際に言語データを分析する演習を行い、理論的な理解の確認と増強を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
事前に課されるReading Materialsを批判的に読んだ上で講義、ディスカッションに望むこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
(1) 授業内演習（ディスカッション、データ分析演習、他）: 30%
(2) 理論に関するプレゼンテーション（２回）:　30%
(3) Final Paper： 40%
〔留意事項（Other Information)〕
この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『The Oxford Handbook of Pragmatics』/Huang, Y. (Ed.)/Oxford U.P./2017/9780199697960
『Pragmatics: A Multidisciplinary Perspective』/Cummings, Louise/Edinburgh U.P./2005/0748616829
『Origins of Human Communication』/Tomasello, Michael/A Bradford Book/2010/0262515202
〔参考URL(URL for Reference)〕
0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

言語研究デザインと統計

210047N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　前期
水曜 2限
ー
60
小山　哲春

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目では社会科学的方法論に基づいた言語研究のデザインと基礎的な統計分析を扱う。ただし、ここでいう「言語研究」は狭い範囲での言語現象のみを扱った研究を指すのではなく、人間の言語活動に関わる広範囲の現象を扱った研究（例えば英語学・英語教育学・コミュニケーション学・言語人類学等）を含む。 本コース終了時に以下の３つの能力を習得していることが目標となる。 (1)他の研究者が行った言語研究の報告を読み、理解し、かつ適切に評価する能力　(2)自らの言語研究を計画し遂行する能力　(3)質的・量的な言語データを適切に分析し、その分析結果を他人に報告する能力

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
(1) 社会科学（言語研究を含む）の定義、科学哲学、認識論
(2) 社会科学的研究の方法論
(3) 実験研究・調査研究・フィールド研究の基礎的デザイン
(4) 記述統計
(5) 推論統計の基礎

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　Introduction / Philosophy of Science
第 2 回　Scientific Reasoning / Hypothesis Testing
第 3 回　Research Elements
第 4 回　Measurement (1): Scale Development
第 5 回　Measurement (2): Validity and Reliability / Sampling
第 6 回　Research Design
第 7 回　Review & Midterm Exam
第 8 回　Descriptive Statistics (1): Central Tendency
第 9 回　Descriptive Statistics (2): Variance and Standard Error
第 10 回　Logic of Inferential Statistics & Hypothesis Testing
第 11 回　Comparing Means (t-test)
第 12 回　Analysis of Variance (1): One-way ANOVA
第 13 回　Analysis of Variance (2): Factorial ANOVA
第 14 回　Correlation / Simple Regression
第 15 回　Comparing Proportions (chi-square)

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
課題(1)～(3)に関してはテキスト、資料、参考文献に基づいた講義・ディスカッションを行う。また、ここで得た理解・知識を基に、修士論文の研究計画作成の練習を行う。課題(4)～(5)に関しては、テキスト、資料基づいた講義を行い、さらに実際のデータを扱った演習を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
指摘テキストの精読、統計データの事前分析、等

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
(1)試験（２回を予定）50％　(2)（模擬）研究計画　30％
(3)統計分析の演習　20％

〔留意事項（Other Information)〕
いたって入門的・基礎的な内容を予定しているので、履修時点で基礎的な統計の知識や高度な数学の知識を有している必要はない（四則計算ができれば十分！）。ただし、英語での専門用語に習熟するため、そして個々の英語力の鍛錬のため、多数の英語文献を使用する。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『Research Methods for the Behavioral Sciences』/Stangor, C/Houghton　Mifflin/1998//学内販売予定
『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』/森敏昭・吉田寿夫/北大路書房/1990//学内販売予定
『英語教師のための教育データ分析入門』/三浦省吾　監修/大修館書店/2004//学内販売予定
『SPSSとAMOSによる心理･調査データ解析』/小塩真司/東京図書/2004//学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0

〔参考URL(URL for Reference) 〕
授業用HP
http://www.notredame.ac.jp/~tkoyama/Design/

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

専門演習

210091A0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
大川　淳

〔科目の教育目標（Course Description)〕
１９世紀アメリカ文学を代表する作家の一人Herman Melvilleの作品を読む。テクストの難解さは、Melville作品の特徴の一つであるが、それは複雑な英語の構造だけではなく、哲学的領域を含めた考察を読者に求める作風に起因している。そこで、本科目の教育目標として、英語を読む力を養うとともに、テクストの分析力を向上させることも目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
Herman Melvilleの作品の”Benito Cereno”を取り上げ、精読と分析を行う。テクストの細部にこだわりながら一語一句分析し、多角的な視点から考察することが課題となる。また、１９世紀の時代背景や、文化的知識などの涵養も必須であり文献研究も多岐にわたる必要がある。本科目を通じて、分析する上での独自の切り口を修得し、修士論文で扱う主題の基礎を築くことも課題となる。

学期の最後にPaperの提出を課すが、そこでは自身の分析に加え、先行研究の把握、論文の構成力が課題となる。そのため、授業時間外の十分な学習時間の確保も受講者に求められるところである。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション：Herman Melvilleの紹介、授業の進め方
第 2 回　”Benito Cereno”の精読(pp.46-51)
第 3 回　”Benito Cereno”の精読(pp.52-57)
第 4 回　”Benito Cereno”の精読(pp.58-63)
第 5 回　”Benito Cereno”の精読(pp.64-69)
第 6 回　”Benito Cereno”rの精読(pp.70-75)
第 7 回　”Benito Cereno”の精読(pp.76-81)
第 8 回　”Benito Cereno”の精読(pp.82-87)
第 9 回　”Benito Cereno”の精読(pp.88-93)
第 10 回　”Benito Cereno”の精読(pp.94-99)
第 11 回　”Benito Cereno”の精読(pp.100-105)
第 12 回　”Benito Cereno”の精読(pp.106-11)
第 13 回　”Benito Cereno”の精読(pp.112-117)
第 14 回　Review,　文献研究, Final Paperの準備
第 15 回　Review,　文献研究, Final Paperの準備
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
毎回の授業で指定された範囲のテクストの精読を行う。
重要だと思われる箇所に関して、コメントを求めることもある。
学期の最後に、Final Paperの提出を課す。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
毎回、指定された範囲の精読を課す。精読の方法としては以下の点を留意すること
１）テクスト内の文法構造を理解すること
２）テクスト内の固有名詞などをリサーチすること
３）２）で調べた固有名詞が、なぜ言及されているかを考察すること
４）テクストを分析し、重要な箇所についてコメントする準備をしておくこと
５）以上に関して、理解できなかった箇所を授業で確認できるよう明確にしておくこと
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
平常点 (予習等)４０％
Final Paper ６０％
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
”The Piazza Tales” / Herman Melville / The Northwestern UP / 2000 / 0-8101-1467-4 / 学内販売無し
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091D0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
小山　哲春

〔科目の教育目標（Course Description）〕
コミュニケーションとは、言語・文化・認知など様々な要素が複雑に絡み合って織り成す相互的な人間行動である。本演習では、各要素が特に異文化間でのメッセージの産出や解釈にどのような影響を与えるかを先行研究を通して考察し、それらを土台として独自の研究(修士論文）を行うための能力を養成する。具体的に対象とするトピックは、対人コミュニケーション、異文化コミュニケーション、語用論、コミュニケーション能力研究、等となる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．関連領域の基盤的知識（語用論、対人コミュニケーション論、社会心理学等）の獲得 ２．先行研究の概観と課題の探索 ３．修士論文のテーマ(研究課題）の絞込み ４．修士論文のProposal：最初の数章（先行研究、研究課題／研究仮説の特定、方法論）の完成
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　Orientation
第 2 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #01 (on Definitions of Communication)
第 3 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #02 (on Code Model of Communication)
第 4 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #03 (on Inference Model of Communication)
第 5 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #04 (on Message Effects)
第 6 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #05 (Cognition and Communication)
第 7 回　Interim Report
第 8 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #06 (on Interpersonal Communication)
第 9 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #07 (on Message Design Logic)
第 10 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #08 (on Cognitive Complexity and Communication)
第 11 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #09 (on Empathy and Perspective Taking)
第 12 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #10 (on Persuasive Communication)
第 13 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #11 (on Intercultural Communication)
第 14 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #12 (on Communication Competence)
第 15 回　Proposal Meeting
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
１．各授業は、各週のReading Assignmentについての(1)院生からの批判的報告、(2)担当教員からの解説、(3)担当教員と院生とのディスカッション、によって構成される。15週間という限られた時間内に関連領域の知識をつけ、また修士論文のテーマを絞り込む必要性から、各週のReading Assignmentsを深く読み込んでいくことが重要となる。
２．学期末までに、修士論文のProposalを完成する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各週のReading Assignmentを精読し、ディスカッションの準備を行う。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
１．各週のReading Assignmentsの批判的報告およびディスカッション （50%） ２．修士論文Proposal （50%）
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
なし
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
修士論文のトピック等を考慮し、１週間に１～２本程度の論文／Book ChapterをReading Assignmentsとする。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

専門演習

210091E0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
須川　いずみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕
文学で修士論文を書こうと思っている院生が自分で作品を読みこなし、研究書をどう扱うのかを教えるクラスである。わたしの専門がジェイムズ・ジョイスなので、専門演習では好むと好まざるにかかわらず『ユリシーズ』の一部を読む。またそれ以外のジョイスの作品やその他その周辺のアイルランドの文学、イギリスの小説、カルチュラル・スタディーズなど受講者の希望によって内容を変更し、個人指導をする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（１）修士論文を書くに当たっての研究方法の習得
（２）原作及び資料、批評書を読むための英語力の向上
（３）原作の精読の習得
（４）先行論文の把握
（５）研究テーマの確定

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　今までの研究課題発表
第 3 回　ジョイスの”The Boarding House”前半２分の１までの精読
第 4 回　ジョイスの”The Boarding House”前半までの精読
第 5 回　ジョイスの”The Boarding House”後半２分の１までの精読
第 6 回　ジョイスの”The Boarding House”最後までの精読
第 7 回　クリティシズムの紹介とディスカッション
第 8 回　Ulysses第１挿話を読む
第 9 回　Ulysses第３挿話を読む
第 10 回　Ulysses第８挿話を読む
第 11 回　Ulysses第13挿話を読む
第 12 回　Ulysses第15挿話を読む
第 13 回　Ulyssesのビデオ鑑賞
第 14 回　クリティシズムの紹介とディスカッション
第 15 回　まとめとその他

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
（１）文学･映画テキストの精読
（２）先行論文の紹介
（３）研究テーマの紹介
（４）ディスカッション
（５）レポート提出
（６）発表
（７）授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
大変少人数で行うクラスであるので、それぞれが課題教材をしっかり読んでまとめてくる必要がある。必ず指定の参考書や資料も読み、担当箇所の配布資料を準備してくることが求められている。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
平常点（５０％）、提出物（３０％）、発表（２０％）で総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕
各の学生の研究テーマによって内容を変更する。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
プリント

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『Ulysses Annotated』/Don Gifford/Univ.of Califorrnia Press /1974年/9.780520253971E12
『James Joyce’s Ulysses』/Harold Bloom/Chelses House/1987年/1555460216

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091F0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
田口　茂樹

〔科目の教育目標（Course Description）〕
データを収集して一般化を行い、それをもとに仮説を立て、それを検証・修正していく方法論を学ぶ。これを繰り返して提案を行うという理論言語学の方法論を実践し、論文にまとめることを最終目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. 理論言語学の方法論をきちんと身につける。
2. 言語学の方法論を実践する。
3. 修士論文に執筆を念頭に、関連した小論文を作成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　理論言語学の方法論
・理論言語学の方法論をおさらいします。
・より学究的なレベルでの方法論を導入します。
第 2 回　事前インタビュー
・学生がどのようなテーマに興味を持っているか尋ねます。
・テーマに応じて先行研究の紹介をします。
第 3 回　トピックの決定と先行研究の紹介
・トピックの決定と先行研究の紹介をします。
・先行研究の探し方を学びます。
第 4 回　先行研究の読み方1（受講者数により回数調整）
・先行研究がどのような意義や波及効果をもたらしたかを議論します。
・データや分析を鵜呑みにするのでは無く、批判的に読んでいく手法を学びます。
第 5 回　先行研究の読み方2（受講者数により回数調整）
・先行研究がどのような意義や波及効果をもたらしたかを議論します。
・データや分析を鵜呑みにするのでは無く、批判的に読んでいく手法を学びます。
第 6 回　先行研究の読み方3（受講者数により回数調整）
・先行研究がどのような意義や波及効果をもたらしたかを議論します。
・データや分析を鵜呑みにするのでは無く、批判的に読んでいく手法を学びます。
第 7 回　データの収集
・先行研究で提示されたデータ、及び関連するデータの反例を探します。
・最小対によるデータベースを作成します。
・文法性判断を知人、友人などに依頼します。
第 8 回　中間発表
・現時点での進捗状況を報告し合うことで、学生がお互いを刺激することにつながります。
第 9 回　アウトライン
・修士論文のアウトラインを作成し、大まかな構想を立てます。
第 10 回　データの分析と一般化
・集めたデータの文法性判断を整理し、一般化を行います。
第 11 回　仮説を立ててみよう
・一般化から仮説を立てます。
第 12 回　仮説の検証
・仮説が正しいかどうか、を検証します。
第 13 回　分析と提案
・仮説をもとにデータを分析します。
・選んだアプローチに対してどのような帰結や意義、波及効果があるかをまとめます。
第 14 回　修士論文の提案書作成1（受講者数により回数調整）
・修士論文の提案書を作成します。
・修士論文執筆に関する最後のアドバイスを行います。
第 15 回　修士論文の提案書作成2（受講者数により回数調整）
・修士論文の提案書を作成します。
・修士論文執筆に関する最後のアドバイスを行います。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
・修士論文の提案書を提出してもらいます。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・読む習慣、書く習慣を身につけましょう。
・周りの言語表現に絶えず気を配り、メモを取る習慣をつけましょう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・授業参加はもちろん、授業外でも担当教員と連絡を取り、関連文献を探しましょう。特に、手に入らない文献については、必ず担当教員に相談して下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
・授業参加（ディスカッションや質疑応答など）：50%
・修士論文の提案書：50%
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
・先行研究や参考文献を適宜紹介していきます。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091H0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
東郷　多津

〔科目の教育目標（Course Description）〕
受講生各自が選んだ研究テーマについて、それを深化・発展させて、修士論文につなげていくための個別指導を行う。本授業で扱う英語教育の領域は、シラバス・教材開発、授業設計、授業分析のほか、自律学習、協調学習、DBR(Design-based Research)といったテーマについても指導する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．研究テーマに関連する先行研究の読解と整理
２．研究テーマの絞り込み
３．研究仮説 / Research Questionsの設定
４．研究計画（Research Proposal）作成
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　関連テーマについての概論的講義
第 2 回　関連テーマについての資料の収集方法
第 3 回　関連テーマについての資料の読解方法
第 4 回　関連テーマについての資料の読解演習
第 5 回　関連テーマについての資料の読解と整理
第 6 回　研究テーマを絞り込むための先行研究の整理
第 7 回　研究テーマを絞り込むための先行研究の選択
第 8 回　研究テーマを絞り込むための先行研究の考察
第 9 回　研究テーマを絞り込むための先行研究の再整理
第 10 回　研究テーマを絞り込むための追加資料の収集
第 11 回　研究テーマを絞り込むための追加資料の整理
第 12 回　研究テーマを絞り込むための追加資料の考察
第 13 回　修士論文の構成
第 14 回　研究計画の作成
第 15 回　修士論文の研究計画書（Research Proposal）の作成
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
１．授業方法
(1) 研究論文や実践報告書の講読と演習
(2) 研究テーマや研究計画の発表とそれに対する助言
２．研究方法
(1) 研究テーマに関係する先行研究の把握
(2) 研究仮説の検討
(3) 研究計画の作成
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業予定を把握し、資料をあらかじめ準備する。そのうえで、必ず授業までに資料を読んで、授業に臨む。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
50
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
発表や報告に基づく授業参加点（40％）と修士論文プロポーザル（60％）に基づき総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
毎回与えられる課題を必ずこなして，修士論文執筆の基礎固めを確実に達成すること。
関連学会への参加、出席を奨励する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
John Furlong and Alis Oancea (2005) ”Assessing Quality in Applied and Practice-based Educational Research : A Framework for Discussion”
The Design-Based Research Collective (2003) ”Design-Based Research: An Emerging Paradigm for Educational Inquiry”
教員が準備したプリント
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『ロングマン応用言語学辞典』//南雲堂//
『英語教育用語辞典』//大修館/最新刊/

『Longman Dictionary of Applied Linguistics and Language Teaching』/Richards, J. and R. Schmidt/Longman/2010/
『英語教育学大系 第1巻 大学英語教育学』/森住衛編さん/大修館書店/2010/
『英語教育学大系 第11巻 英語授業デザイン—学習空間づくりの教授法と実践』/山岸信義, 鈴木 政浩, 高橋 貞雄 (編)/大修館書店/2010/
海外学術雑誌（Applied Linguistics. TESOL Quarterly, ELT Journalなど）と国内学会紀要（ARELE, JACET Journal, SELTなど），研究書などからの関連論考
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091I0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
York　Weatherford

〔科目の教育目標（Course Description)〕
The course will focus on second language acquisition (SLA) and how languages are learned and taught. Students will also gain an understanding of how second language learning compares to first language acquisition. The course will help students better understand the processes and strategies involved in learning an additional language and the methods employed in teaching second-language learners. Students will also develop the ability to do original research for a master's thesis in the area of second language learning and teaching.
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1. Acquisition of basic knowledge of second language acquisition and teaching
2. Overview of previous research and issues
3. Narrow down the topic of the master's thesis
4. Master's thesis proposal: Completion of the first few chapters (previous research, research subject /research hypothesis, and methodology)
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　Introduction to Second Language Acquisition
第 2 回　Native Language Influences
第 3 回　The Linguistic Environment
第 4 回　Universal Grammar
第 5 回　Cognition
第 6 回　Intelligence and Aptitude
第 7 回　Motivation and Attitudes
第 8 回　Personality
第 9 回　Learning Styles and Strategies
第 10 回　Age and the Critical Period
第 11 回　Learner Language
第 12 回　Social Dimensions
第 13 回　Second Language Teaching
第 14 回　Teacher-Student Interactions
第 15 回　Classroom Research and Teaching
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
1. Each lesson consists of (1) a critical review of the week's reading assignments by the student (2) commentary from the instructor, and (3) a discussion between the instructor and the student about the reading assignments. It is important to read each week's assignments thoroughly in order to narrow down the topic of the master's thesis within the limited time of 15 weeks.
2. By the end of the term, complete the master's thesis proposal.

Feedback methods:
1. For in-class reports, students will receive feedback in class in the form of oral commentary.
2. For written reports, students will receive written feedback within one week of submission.
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
1. Read the assigned materials.
2. Prepare a critical review of the assigned reading.
3. Send e-mail to the instructor in case of questions.
4. Write a thesis proposal.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
1. Critical review and discussion of each week's reading assignments (50%)
2. Master's thesis proposal (50%)
〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
References to current research and practices will be provided.
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
Weekly reading assignments will include one or two articles based on the topic of the master's thesis.
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091B0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
Steven　Herder

〔科目の教育目標（Course Description)〕
This course will explore a core set of topics related to the theory and practice of teaching and learning within the EFL context. Within the framework of ongoing professional development, these topics all relate closely to how teachers teach and how students learn best and can be explored and developed over a long career. There are a myriad of skills and strategies that effective teachers carry with them at all times. This course will introduce some of the most important issues to begin to focus on.
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1. Address important issues in teaching and learning English.
2. Identify personal opinions about critical issues in the English classroom.
3. Develop a voice in expressing and debating issues related to teaching and learning.
4. Master's thesis proposal - Choose a narrow topic, outline a dissertation, and begin to work on selected parts of the thesis.
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力: Understand lesson contents; Know personal weak areas; Choose areas to improve;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
創造・発信力: Creative Ability; Ability to brainstorm ideas; Ability to express your ideas; Ability to think outside the box	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕
第 1 回　Course Introduction
Discuss options for interacting with the material from presentations, discussions, debates to written summaries, mind maps, and essays.
第 2 回　Teacher-centered, Student-centered, and Learning centered
Understand the differences and choose an approach for specific contexts.
第 3 回　Complexity, Accuracy, and Fluency (CAF)
Explore these three constructs by which learning gains can be measured. Understand the place they occupy in any classroom.
第 4 回　The Balance of Input and Output
Create a framework for input and output based on the level of the learning community as well as the context within which learners will work.
第 5 回　Grammar vs. Meaning
What is the role of grammar in the learning process? How does it interact with meaning?
第 6 回　Vocabulary Acquisition
What does it mean to know a word? How is vocabulary best learned. Is all vocabulary equal?
第 7 回　Extensive Reading, Writing, Listening, and Speaking
An extensive approach to the four skills has grown in popularity within EFL contexts. Why is this and how do ESL and EFL differences support extensive learning.
第 8 回　Interim Report
An Interim Report will be made through a pre-chosen method.
第 9 回　Context, Level, and Group Dynamics
Not only are students different, but each and every class can be different based on level, context, and group dynamics
第 10 回　Classroom Management and Interaction
What are the five types of interaction that occur in the classroom? What classroom management skills are needed to not only survive but to also thrive?

第 11 回　Motivational Strategies
What does Dornyei teach us about motivational strategies in the classroom? How important is motivation in your approach?
第 12 回　Motivation 3.0
The latest in motivational theory claims that ”the carrot and the stick” is ineffective. A new approach based on autonomy, relatedness, and mastery will be explored.
第 13 回　Action Research
The Action Research model is an effective way to pursue ongoing professional development. Why is that, and how can one best employ action research?
第 14 回　Reflective Teaching
The reflective teaching model is an exceptional way to improve teaching in a significant way. The goal is to attain ongoing, incremental gains.
第 15 回　Proposal Meeting
A dissertation project will have been chosen and this session will review all that has been completed, as well as refining further steps in the process.
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
1. Each lesson consists of (1) a critical review of the week’s reading assignments by the student (2) commentary from the instructor, and (3) a discussion between the instructor and the student about the reading assignments. It is important to read each week’s assignments thoroughly in order to narrow down the topic of the master’s thesis within the limited time of 15 weeks.
2. By the end of the term, complete the master’s thesis proposal. Students will complete ongoing oral reports and a written dissertation proposal.
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
1. Read the assigned materials.
2. Prepare a critical review of the assigned reading.
3. Use LINE or e-mail to communicate with the instructor in case of questions.
4. Write a thesis proposal.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
1. Critical review and discussion of each week’s reading assignments (50%)
2. Master’s thesis proposal (50%)
〔留意事項（Other Information)〕
This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
No assigned textbooks
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
PDF handouts will be used
〔参考URL(URL for Reference) 〕
Online readings will be available as well
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091C0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
ー
90
木島　菜菜子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
〔授業計画〕
第 1 回
第 2 回
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日英語比較分析 a

210251N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
月曜 4限
ー
60
三原　健一

〔科目の教育目標（Course Description）〕
現代言語学の考え方を背景とした、意味論（Semantics)と統語論（Syntax)の基礎概念とその応用について、英語教育（や日本語教育）に役立つ言語観を身に付けることを目標とします。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
授業では、まず、（１）意味の捉え方に関する幾つかの考え方を学び、（２）意味と統語のインターフェイスの問題を見た後、（３）言語の統語構造に話を進めます。言語のその他の側面（音声、語彙、談話など）についても、ハンドアウトの<Coffee Break>のコーナーで取り上げます。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　言語の地平へ：Introduction
第 2 回　意味の捉え方（１）：文の意味とは何だろう？
第 3 回　意味の捉え方（２）：語を作り上げる成分
第 4 回　意味の捉え方（３）：日本語学と文法
第 5 回　見えないものを見る言語表現
第 6 回　比喩から見る世界の姿
第 7 回　学校文法と理論文法
第 8 回　意味と構造のインターフェイス（１）：主要部
第 9 回　意味と構造のインターフェイス（２）：意味役割
第 10 回　動詞から見る日本語と英語（１）：動詞分類とアスペクト
第 11 回　動詞から見る日本語と英語（２）：移動表現を巡って
第 12 回　動詞から見る日本語と英語（３）：二重目的語構文
第 13 回　動詞から見る日本語と英語（４）：結果構文
第 14 回　活用を考える
第 15 回　科学的な言語研究：総括
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中の質問やディスカッションを歓迎し、Active Learningの観点からの成果を期待しています。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
ハンドアウト（プリント）は、第一回目の授業の後に全15回分を配信しますので、次回の授業分に目を通し、不明な箇所や興味のあるトピックについて、予め考えてきて下さい。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業中の質疑応答とセメスター末のレポートで評価します。なお，レポートは，評点とコメントを付けてPCにファイルを送ります。
〔留意事項（Other Information）〕
現代言語学に関する基礎知識はとりあえず必要ありません。受講生の履修レベルを勘案して授業内容を調整します。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
ハンドアウト（プリント）を配布します。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に適宜紹介します。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日英語比較分析 b

210252N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
金曜 3限
ー
60
田口　茂樹

〔科目の教育目標（Course Description）〕
ミニマリストプログラムにおける統語論の基本概念と、それにもとづく日本語と英語の構文研究を行う。修士論文のテーマ設定と論文作成を目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. 学部時代に学んだ方法論を用いて、口頭発表・論文発表を行う。

2. 文献収集によって修士論文のテーマ設定と論文作成を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回　分量の多い論文を書くに当たって
・ハンドアウトや短い論文と、修士論文の違い
・学部時代の文献収集と、修士課程における文献収集の違い
・ミニマリストプログラムの最近の動向

第 2 回　変形、構造構築の変遷
・顕在的移動の解説をします。
・非顕在的移動の解説をします。
・素性移動の解説をします。
・移動と併合の解説をします。
・素性継承の解説をします。

第 3 回　フェイズ理論
・Chomsky (2000)以降のフェイズ理論を概観します。

第 4 回　補文標識句（節）の構造1
・日本語と英語のカートグラフィー統語論（節レベル）について議論します。

第 5 回　補文標識句（節）の構造2
・日本語と英語のカートグラフィー統語論（節レベル）について議論します。

第 6 回　名詞句（限定詞句）の構造1
・日本語と英語のカートグラフィー統語論（名詞句レベル）について議論します。

第 7 回　名詞句（限定詞句）の構造2
・日本語と英語のカートグラフィー統語論（名詞句レベル）について議論します。

第 8 回　名詞句（限定詞句）の構造2
・日本語と英語のカートグラフィー統語論（名詞句レベル）について議論します。
・日本語の主格／属格交替構文の研究史を概観し、先行研究を紹介します。

第 9 回　中間発表
・どのようなアプローチに興味を持ち、それをもとにどのようなデータを収集する予定かを発表し、ディスカッションを行います。

第 10 回　例外的格標示構文
・日本語と英語の例外的格標示構文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。

第 11 回　使役文
・日本語の使役文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。

第 12 回　主格／属格交替構文
・日本語の主格／属格交替構文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。

第 13 回　主格／対格交替構文
・日本語の主格／対格交替構文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。
・アイスランド語などの主格／与格交替構文にも言及します。

第 14 回　受動文
・日本語と英語の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。

第 15 回　まとめと相談
・授業のまとめをします。
・修士論文の執筆に関する相談に乗ります。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

・修士論文に関連したレポートを提出してもらいます。

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕

・授業中に紹介した参考文献以外にも、興味がある文献は紹介しますので、遠慮なく尋ねて下さい。。
・類例や反例に絶えず気を配って下さい。
・内容が濃くなってくるので、分からないところがあれば、メールなどで随時質問して下さい。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕

・授業中に紹介した参考文献は、きちんと読んできて下さい。
・必要に応じて練習問題を課題とする場合があるので、きちんと授業内容を理解できるように工夫して下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕

発表：30 %
課題：30 %
修士論文に関連したレポート：40%

〔留意事項（Other Information)〕

・学部時代に「ことばのしくみ」、「英語英文学演習I」、「英語英文学演習II」を履修済みの学生が対象です。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・授業で紹介する文献を読んできてもらいます。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の進度に応じて適宜紹介します。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ケアマネージメント特論

260123N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
火曜 7限
ー
90
三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
住み慣れた地域で自立した生活を送るためには地域の様々な社会資源をはじめとするサービスの有効活用が大事になる。同時に地域の理解や協力が重要となる。これらを地域社会全体で支え高めて守っていくこと、共生を目標とすることをケアマネジメント学習の中心としていく。よって現代社会の要請に応じた対人援助能力、実践的問題解決能力を身につけた生活者を支援する人材として育てる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
ケアマネジメントの意義と目的を理解する。
ケアマネジメントの方法と実践について学ぶ。
ケアマネジメントの課題と展望について学ぶ。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ケアマネジメントを意識できない	ケアマネジメントの目標を考える	ケアマネジメント実践者に必要な力量を考える	ケアマネジメント実践者として援助の担い手になることを考える
知識・理解力	ケアマネジメント実践についての理解がない	ケアマネジメントの役割、業務について理解できる	ケアマネジメントの領域細部での業務の理解ができる	さまざまな場面状況でのケアマネジメントの方法が展開できる
言語力	ケアマネジメント実践での専門用語が理解できない	ケアマネジメントの専門用語と内容について理解する	ケアマネジメント事例のロールプレイが行える	ケアマネジメントの難解な事例のロールプレイが行える
思考・解決力	教わったこと以上は考えようとしない	ケアマネジメントの支援活動の必要に思いをはせていく	ケアマネジメントの支援活動の重要性に向けてイメージを作る	ケアマネジメントの実践に向き合い対処できる技術をもつ
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献を参考にしながらケアマネジメントの重要を考える	考えた結果を他者と共有し、さらに自分の考えで深める	レベル3に加えてケアマネメント知識を技術に活用する
創造・発信力	自分で勝手に判断や想像した内容を発信する	周囲の状況をしっかりと見極めてケアマネジメントの情報収集ができる	幅広いケアマネジメント支援により課題解決を考える	レベル3に加えて関連する援助技術も活用して解決を考える

〔授業計画〕
第 1 回　ケアマネジメントの意義と目的
第 2 回　ケアマネジメントと自律、自立
第 3 回　ケアマネジメントとチームアプローチ
第 4 回　ケアマネジメントプロセス
第 5 回　インテーク、アセスメント、ケアプラン
第 6 回　ケアプランの実施、仲介、モニタリングと終結
第 7 回　社会資源の開発と改善
第 8 回　ケアマネジメント過程での倫理
第 9 回　人権擁護、主体性、中立性、公平性
第 10 回　ケアマネジメント過程での基本姿勢
第 11 回　自立支援、きめ細やかなアセスメント、チームアプローチ、苦情処理
第 12 回　利用者と家族への権利擁護
第 13 回　利用者の視点とサービスの展開および苦情解決の方法
第 14 回　ケアマネジメントの課題分析
第 15 回　ケアマネジメントの総括と今後の展望
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。レポートを課す
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
ケアマネジメントの実践事例の紹介と検討が中心となる。またこの事例をもとにしてのディスカッションも行い、ケアマネジメントの機能の有効性や課題についても学びを深めていくが、授業最終でこれまでのまとめについてのフィードバックを行い、理解を自身のものにしていく。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
次週のテーマについて事例等を手渡すので熟読して、指示に従って作業を行い、持参する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度(30％)発表(20％)レポート(50％)
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
配布、印刷資料を中心とする

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
適宜、授業中に指示する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
現場実務経験によりケアマネジメントを担う介護支援専門員資格を有している

ソーシャルワークスーパービジョン特論

260057N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　集中
その他
ー
90
小山　隆

〔科目の教育目標（Course Description）〕
大学院の科目は毎年受講生数、各自の背景となる学部教育、経歴などの差が大きいため、固定的カリキュラムが効果的とは限らないというのが、本講義の担当者の思いである。したがって、基本的には受講生の関心や現時点でもつ専門的知識などに応じて、授業開始時に具体的なカリキュラムを策定していきたいと思う。　上記のような理由で、その内容は一部変更されうるが、担当者としては以下のような目標をもっている。　１．ソーシャルワークを医療や司法、教育などと並ぶ対人援助専門職の一環として解する。　２．ソーシャルワークを社会福祉学全体の中に位置づける。
３．対人援助におけるスーパービジョンの意味を学ぶ。
４．事例研究を通してスーパービジョン、コンサルテーションを体験する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（1） 対人援助専門職の共通性と個別性
（2） 援助関係において留意すべきこと
（3） ソーシャルワークの価値と倫理
（4） スーパービジョンの意義
（5） 事例研究を通してのケースの見方、スーパービジョン体験
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回
オリエンテーション
第 2 回
ソーシャルワークと社会福祉
第 3 回
ソーシャルワークと対人援助
第 4 回
専門職の固有性と共通性
第 5 回
ソーシャルワークの価値と倫理
第 6 回
スーパービジョンとソーシャルワークの原則－関連性と相違点－
第 7 回
スーパービジョンとソーシャルワーク
第 8 回
スーパービジョンとコンサルテーション
第 9 回
スーパービジョンの定義
第 10 回
スーパービジョンのタイプ
第 11 回
事例研究（児童）
第 12 回
事例研究（障害）
第 13 回
事例研究（高齢）
第 14 回
事例研究（在宅）
第 15 回
総括
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
（1） 授業方法：講義と演習を組み合わせた形式で授業を進める。
（2） 教材：議論の具体的課題を含む参考文献は必要に応じてプリント教材として配布する。

フィードバックについては、授業時に行う。又必要に応じて公開する担当者のメールアドレスを用いる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
演習については各自に、事例等の課題を与えて発表に備えることを求める。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業中の議論への参加度や発表の内容(60%)と、適宜課す レポート（40%）を総合評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業予定はあくまでも仮である。受講生人数や受講生の実践経験の有無等によって、内容は変わってくる。受講生と話し合って詳細は決定する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
利用しない。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
必要に応じて授業中に指示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ソーシャルワーク思想特論

260060N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
水曜 3限
ー
60
室田　保夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
１．現代のソーシャルワーク（社会福祉実践）の基盤となっている理念について、その根底にある思想、価値観、歴史的意義などについて理解する。
２．社会福祉事業の思想的意義、歴史的背景や、社会福祉の先覚者の思想についても理解を働きやについても検討し、現状の社会福祉の目指すべき方向やあり方を展望する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１． 社会福祉思想の歴史的背景、その成立過程
２．現代のソーシャルワーク実践理念の思想的背景について
３． 社会福祉の先覚者たちの事業と実践思想
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　授業のオリエンテーション(授業のねらい、授業方法など）
第 2 回　キリスト教と福祉思想の関係
第 3 回　岩橋武夫について
第 4 回　岩橋武夫とキリスト教(1)キリスト教入信をめぐって
第 5 回　岩橋武夫とキリスト教(2)岩橋とクエーカー
第 6 回　ヘレン・ケラーと日本(1)ヘレン・ケラーとは
第 7 回　ヘレン・ケラーと日本(2)岩橋とヘレン・ケラーとの出会い
第 8 回　ヘレン・ケラーと日本(3)一回目の日本訪問
第 9 回　ヘレン・ケラーと日本(4)二回目の日本訪問
第 10 回　ヘレン・ケラーと日本(5)三回目の日本訪問
第 11 回　ヘレン・ケラーと日本(6)岩橋とヘレン・ケラー
第 12 回　留岡幸助について
第 13 回　石井十次について
第 14 回　山室軍平について
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
１．担当教員の講義によるソーシャルワーク実践思想の理解を深める。
２．各自の研究や実践思想に関する発表とそれにもとづく討議を中心に進める。
３．レポート提出後に適宜指導を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
関心のある分野で、人間観、社会観、世界観を深く問うように心がけて、世界の思想家の書物に挑戦してください。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　評価は主としてレポートによって行うが、発表や討議の内容を加味して総合的に行う。
〔留意事項（Other Information）〕
１．授業の曜日や時間は履修登録者と担当教員の協議により変更する場合がある。
２．履修登録者数によって各自の発表回数や授業の運営の仕方を変更する場合がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
授業中に適宜指示する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に適宜指示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習

260119A0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
金曜 5限
ー
30
佐藤　純　石井　浩子　三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本実習では、ソーシャルワーク特論等において習得した知識・技術・価値観を実際の場面で深め、より高度な専門的援助の展開を可能にすることを目標とする。各学生は実習先、実習テーマを含めた実習計画を教員と相談の上事前に決定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
本実習では、下記のことを実習を通じて習得する。
１．各自が選択した分野におけるソーシャルワークの実際についての理解
２．各自が選択した現場の仕事内容・職員構成・連携についての理解
３．援助者としての自己覚知に関する理解
４．高度な専門的直接援助・間接援助技術の理解
５．利用者へのサービスの有効性に関する評価方法の理解
６．実習生自身の高度な専門的訓練
７．援助者の倫理に関する理解
〔授業計画〕
各学生は実習先、実習テーマを含めた実習計画を教員と相談の上事前に実習先を決定する。学生の希望する実習先に応じて担当する教員が異なる。担当する教員は実習指導の事前指導・実習中指導・実習事後指導のすべてを担当指導する。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
実習の前に事前指導を行う。実習生は実習期間中に現場指導担当職員と教員からのスーパービジョンを、また教員から事後指導を受ける。適宜口頭で指導する。実習報告レポートについては返却し、授業中に適宜フィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業・実習先で示された文献・書籍等を熟読し、実習に臨むこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
成績評価は、実習施設の実習担当指導者と本実習担当教員の連携指導のもとに、総合評価する。その内訳は以下の通りである：
①実習受け入れ先のスーパーバイザーによる評価基準に基づく評価40％
②担当教員による事前・事後指導および実習中のスーパービジョンにおける評価40％
③実習報告レポート20％
〔留意事項（Other Information）〕
本実習科目を履修する条件は以下のとおりである：
１）原則として、学部等で、社会福祉士、精神保健福祉士、あるいは保育士の現場実習を履修した者
２）社会福祉運営管理特論、子どもの健康福祉特論、精神保健福祉特論の何れかを受講していること（もちろんソーシャルワーク実習と同時に履修することも可能）
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
なし
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に示す。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
授業中に示す。
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫三好明夫：実務経験あり　社会福祉士として高齢者福祉施設での勤務経験あり
佐藤純　　精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。
石井浩子：　有資格者として保育園での勤務経験あり

ソーシャルワーク特論

260056N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
金曜 5限
ー
90
桐野　由美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本特論ではまず、ソーシャルワーク全般の構成要素・実践過程・目標・価値・倫理に関する普遍性および現在にいたるまでの歴史的展開を思考する。第２に、ミクロ（直接援助）・メゾ・マクロ（間接援助）の各レベルにおけるジェネラリスト・ソーシャルワーク実践の役割に関する特性を思考し、問題解決プロセスに応用する。第3に、児童家庭・精神保健・学校ソーシャルワーク・高齢者福祉等の現場における現在の課題を学生自ら提示し、その解決策を提案する。本科目の具体的目標は、学生が（１）ソーシャルワークの歴史的展開を把握し、今後の課題を指摘できること、（２）ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるジェネラリスト・ソーシャルワーク実践を思考し、問題解決策を提示できること、（３）現場での課題を自ら発見し、解決案を実行し、その結果を検証する力を持つことにある。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（１）ソーシャルワークの理論及び実践の歴史的展開を思考する

（２)ソーシャルワークの構成要素･実践過程･目標を思考する
（３）ソーシャルワークの価値と倫理を思考し、課題を提示し、解決策を提案する
（４）ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク実践を行い、問題解決に導く
（５）分野別ソーシャルワーク実践における諸課題を提示し、その解決策を提案する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ソーシャルワークの歴史的展開・今後の課題	ソーシャルワークの歴史的展開を把握できず、今後の課題も指摘できない	ソーシャルワークの歴史的展開を把握し、今後の課題を模索する	ソーシャルワークの歴史的展開を把握し、今後の課題を提示し、その提示に関する他者の意見を取り入れ、課題に対する解決策を提示する	レベル３に加えて、確固とした先行文献を基盤にした調査研究を行う
ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるジェネラリスト・ソーシャルワーク実践・問題解決策	ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるジェネラリスト・ソーシャルワーク実践を思考し、問題解決策を提案することができない	ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるジェネラリスト・ソーシャルワーク実践を思考し、問題解決策を提案することができる	ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるジェネラリスト・ソーシャルワーク実践を思考し、問題解決策を提案し、その解決案を試みる	レベル３に加えて、解決策実施後にその成果の効果測定を実施する
現場での課題・解決案・実行・成果の検証	ソーシャルワークの現場での課題を発見し、その課題の解決案を提案し・その解決策を実行し、その成果の検証をすることができない	ソーシャルワークの現場での課題を発見し、その課題の解決案を提案し・その解決策を実行することができる	ソーシャルワークの現場での課題を発見し、その課題の解決案を提案し・その解決策を実行し、その成果の検証をすることができる	レベル３に加えて、成果が著しくない場合には再度アセスメント・プラニング・インターベンション・エヴァリュエーションのプロセスを実施する

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　ソーシャルワークの理論及び実践の歴史的展開
第 3 回　ソーシャルワークの構成要素・実践過程・目標
第 4 回　ソーシャルワークの価値と倫理に関する現場でのジレンマ
第 5 回　個人・家族・小集団を対象とするミクロレベルのソーシャルワーク・メソッド
第 6 回　地域と社会福祉サービス提供機関において行われるメゾレベルのソーシャルワーク・メソッド
第 7 回　自治体及び国の政策立案・実施と評価・社会サービスの管理・運営を行うマクロレベルのソーシャルワーク・メソッド
第 8 回　児童家庭分野のソーシャルワーク実践における課題と展望
第 9 回　精神保健福祉分野のソーシャルワーク実践における課題と展望
第 10 回　スクールソーシャルワーク分野の実践における課題と展望
第 11 回　医療福祉分野のソーシャルワーク実践における課題と展望
第 12 回　高齢者福祉分野のソーシャルワーク実践における課題と展望
第 13 回　障害者福祉分野のソーシャルワーク実践における課題と展望
第 14 回　各学生が提出したレポートに基づく発表とディスカッション
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕

講義と演習を組み合わせた形式で授業を進める。視聴覚教材を適宜活用する。参考文献（邦文と英文）をクラスで読み、議論する。議論の具体的課題を含む参考文献は必要に応じてプリント教材として事前に配布する。フィードバックとして最終ペーパーを返却し、コメントを解説する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕

①各テーマの参考文献は前もって配布されるので、学生は授業予定に従って予習をを行い、授業でのディスカッションに備えておく。
②授業に平行して、担当教員と相談しながら、自分で選んだレベル（ミクロ・メゾ・マクロ）におけるソーシャルワーク実践の役割に関するテーマにそって、最終ペーパーの用意を主体的に行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕

本科目では、授業参加度（30%）、授業中のディスカッション参加状況（30%）、最終ペーパー（40%）を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕
授業内で資料を随時配布する。
実際の授業の状況に応じて、学生に周知した上で授業予定を変更する場合もある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
テキストは特にない。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業時に資料を配布し、参考文献等を適宜提示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
授業時に適宜提示する。
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫ソーシャルワーク特論などの科目について

ソーシャルワーカーとして米国公的機関での勤務経験あり。

プロジェクト課題研究

260152N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
6単位　集中
その他
ー
180
必修
萩原　暢子　加藤　佐千子　中村　久美　酒井　久美子　竹原　広実　佐藤　純　畠山　寛　石井　浩子　三好　明夫　牛田　好美　矢島　雅子　植田　恵理子　藤原　智子　青木　加奈子　安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
この科目は、学生が生活福祉文化学の各領域の枠を払ったいくつかの「プロジェクトチーム」のひとつに参加してプロジェクト学習方式(Project Based Learning)を学ぶ演習科目である。これにより学生と教員の関心が実践的な課題によって結ばれ、学生のより主体的な学修を促すことができる。生活福祉文化学という実践科学は現場の問題解決志向性とその理論的・方法的基礎づけという２方向により成り立つ。この２方向の志向性を現実化するのが「プロジェクト課題研究」である。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1) プロジェクト課題研究の意義と目的 (2) プロジェクト課題研究の方法
(3) プロジェクト課題研究の課題設定 (4) 研究チームの結成
(5) 研究の進行管理 (6) 研究報告
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	プロジェクト課題研究がイメージできない	プロジェクト課題研究がイメージできる	プロジェクト課題研究をより深くイメージして現実に当てはめられる	L3に加えて研究結果を周囲に発表できる
知識・理解力	プロジェクト課題研究の意味が理解できない	プロジェクト課題研究の意味が理解できる	プロジェクト課題研究でさらに知識を伸ばし、より深く理解し、積極的に広く興味がわいてくる	L3に加えて研究に関する知識を広く理解し発展させようとする
言語力	プロジェクト課題研究の意味や使用言語が理解できない	プロジェクト課題研究の意味が理解できる	現状に当てはめより深く掘り下げて考えようとする	L3に加えてプロジェクト課題研究の周辺で使用される言語も含めて広く知識を広めようとする
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしない	現実の状況に当てはめて考えようとする	プロジェクト課題研究と周辺領域の使用言語を理解できる	L3に加えて関連用語を駆使し研究を発表できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかり聞いて考える	考えた結果を周囲の人達と共有する	L3に加えて得られた結果についてさらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発信できる	新しいアイデアを組み込んで研究を進めることができる	L3に加えて研究を進めて周囲に発信できる

〔授業計画〕
第 1 回　(履修登録、科目の説明)
履修登録および科目の説明を行う（担当：萩原）
第 2 回　(プロジェクト課題研究の意義と目的)
プロジェクト課題研究の意義と目的について詳述する。（担当：萩原）
第 3 回　(研究倫理について)
研究倫理については、例年、研究倫理委員会主催で、大学院生・教員向けの講座が開かれるので、院生が授業の一環として参加する。(担当：佐藤）
第 4 回　(プロジェクト課題研究の方法①研究課題の決定)
各自の興味関心を探る（担当：萩原）

第 5 回 (プロジェクト課題研究の方法②研究課題の決定)
共通するテーマを見つける（担当：萩原）
第 6 回 (プロジェクト課題研究の課題設定)
プロジェクト課題研究の課題を設定する（担当：萩原）
第 7 回 (発表および質疑応答の方法)
発表および質疑応答の方法を学ぶ（担当：全員）
第 8 回 (プロジェクト課題研究の構想発表とチームの結成)
プロジェクト課題研究の構想発表とチームの結成を行う（担当：全員）
第 9 回 (プロジェクトチームによる検討会①)
テーマ・研究方法について検討する（担当：チームに選抜された教員）
第 10 回 (プロジェクト課題研究中間発表会)
プロジェクト課題研究中間発表会を行う（担当：全員）
第 11 回 (プロジェクトチームによる検討会②)
具体的な内容に踏み込んで対策を検討する（担当：チームに選抜された教員）
第 12 回 (プロジェクトチームによる検討会③)
結果について検討する（担当：チームに選抜された教員）
第 13 回 (プロジェクトチームによる検討会④)
最終発表の準備をする（担当：チームに選抜された教員）
第 14 回 (プロジェクト課題研究発表会)
プロジェクト課題研究発表会を行う（担当：全員）
第 15 回 (研究およびプレゼンテーションの省察)
研究およびプレゼンテーションの省察を行う（担当：全員）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
(1) 学生が研究課題に取り組むチームを立ち上げる。 (2) 各チームに指導担当教員を置く。
(3) 前期は主として課題設定、後期は課題研究を行う。
(4) 前期 1 回、後期 2 回 研究集会を開催し、課題の紹介、中間発表、研究発表等を行う。
(5) 研究発表終了後に課題についてのレポートを課し、指導教員による評価によってフィード
バックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
毎回、授業の中で行われるディスカッションに注目し、話題となっている内容について、把握するように努めること。具体的には、関連著書や論文、インターネットなどを駆使し、新しい情報を得るようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
90

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究発表の状況及び研究終了後に提出するプロジェクト課題レポートにより評価する。
1.3回の発表について：内容、質疑応答について （各10%、合計30%）
2.課題レポートの評価基準：内容（構成を含む）、論述の仕方、引用文献の取り扱い方 （60%）
3.態度・取り組み度・成長度について （10%）

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員のオムニバスで運営している。

衣環境学特論

260142N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
水曜 2限
ー
90
安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
健康で快適な衣環境を創出するため、衣服材料の性質、衣服機能の回復方法、衣服の付加価値、識別のための機能加工・染色加工、繊維製品の品質管理などについて専門的知識の修得する。
現在の衣環境にある問題点や改善点を洞察し、解決できる能力を修得し、社会人として生活していくための創造性や自己管理能力を身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
講義の理解や知識の修得だけでなく、実験やレポート作成、発表なども行い、論理的に組み立てる能力、丁寧な調査、人へ的確に伝達するなどの実践的な能力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	衣環境に関する内容が理解できていない。	衣環境に関する知識について基本的な理解がある。	衣環境に関する知識について応用的な理解がある。	衣生活全体における衣環境の位置付けと知識が結びつ

				き、応用的な理解がある。
思考・解決力	科学的な思考ができていない。	衣環境の内容をベースに科学的な思考ができる。	衣環境の内容をベースに科学的な思考や問題解決力がある。	応用力のある科学的な思考や問題解決力がある。
創造・発信力	内容を客観的に把握できていない。発表する力に乏しい。	衣環境の基本的内容を客観的に把握し、発表できる。	衣環境の内容を客観的に把握し、発表して議論できる	衣環境の内容を客観的に把握し、創造性のある発信や議論ができる

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　繊維の構造と性質
第 3 回　糸・布の性質（撚り・太さ・厚み）
第 4 回　繊維物性と衣環境
第 5 回　天然染料の染色
第 6 回　合成染料の染色
第 7 回　染色加工と染色助剤
第 8 回　洗浄・洗濯
第 9 回　界面活性剤の性質
第 10 回　柔軟・糊つけ・漂白・蛍光増白
第 11 回　風合い評価・新素材
第 12 回　染色堅ろう度試験
第 13 回　繊維製品の品質管理
第 14 回　課題の発表
第 15 回　講義のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義(実験を含む)、論文講読を行い、実践的に知識を深める。適宜必要資料を配布する。必要に応じてビデオなどを観る。フィードバックとして レポートの提出や発表後にコメントを返却する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
講義前は配布資料や論文を熟読しておくこと。
講義後はレポートを出すので、講義後は復習しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
レポート・課題（50%）、課題の発表(40%)、学習意欲の有無(10%)により総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『衣の科学シリーズ　衣服材料の科学　[第3版]』/島崎恒蔵編著/建帛社/2009/978-4-7679-1049-9
『衣の科学シリーズ　衣服管理の科学』/片山倫子/建帛社/2012/978-4-7679-1048-2
『「染色」って何?—やさしい染色の化学』/上甲恭平/繊維社/2012/978-4990258047
新訂（第3版）繊維製品の基礎知識シリーズ 3分冊
TES（繊維製品品質管理士）の試験を受ける予定の人は必ず買うこと。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
（企業における工学系開発業務）

衣生活学特論

260038N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
木曜 4限
ー
90
牛田　好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
装いの身体的・生理的機能と社会的・心理的機能の両面から考え、心身の健康や快適性を追求し、現代の衣生活への具体的な提案を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．人はなぜ装うのか
２．環境と装い
３．ファッションの変遷
４．装いと健康
５．身体と装い
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	衣分野における知識がなく、理解しようとする姿勢もみられない。	衣分野における全般的な知識をもち、専門的な知識を得ようと努力がみられる。	衣分野における専門的な知識を身につけ、日常に活かす努力をしている。	衣分野における知識を他分野と結び付け、人間の生活を豊かにする提案ができる。
思考・解決力	日常生活に問題意識をもたないようにみられる。	日常生活の問題点を整理して、何が必要かを考えることができる。	日常生活の問題点を整理して、必要と考えられることを実践に移すことができる。	問題解決について、計画、実行、検討ができる。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　ガイダンス
第 2 回　衣服の起源
　　人はなぜ装うのか
第 3 回　人間と環境①
　　環境と装い①　気候風土と装い
第 4 回　人間と環境②
　　環境と装い②　民族服
第 5 回　服飾の歴史①
　　ファッションの変遷①　西洋
第 6 回　服飾の歴史②
　　ファッションの変遷②　日本
第 7 回　身体と衣服
　　身体と衣服　平面構成と立体構成
第 8 回　装いと健康①
　　健康と快適性
第 9 回　装いと健康②
　　ボディイメージ
第 10 回　装いの機能①
　　身体的・生理的機能
第 11 回　装いの機能②
　　社会的・心理的機能
第 12 回　装いと自己
　　装いが自己に与える影響
第 13 回　装いと他者
　　装いが他者に与える影響
第 14 回　授業内試験、課題提出
　　授業内試験を行い、課題を提出する
第 15 回　まとめ
　　試験返却と解説、課題の合評を行う。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
主に講義形式で行うが、時には、演習・実習的授業も行う。必要に応じて、資料を配布する。また、テーマにより発表、ディスカッションの時期も設ける。
最終授業において、試験の返却および解説を行い、課題については合評を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
日常の生活の中で、被服や化粧の働きを意識すること。また、日常生活に関心を持ち、新聞やニュースを見る習慣をつけること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度30％、授業時の課題20％、レポート50％で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家族関係学特論

260143N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
金曜 2限
ー
90
青木　加奈子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本授業では、福祉国家論の基礎的テキストであるエスピン-アンデルセンの『福祉資本主義の三つの世界』（1990=2001）を読み、福祉や家族に対する国家のスタンスの違いから引き起こる家族のあり方・考え方の違いを理解したうえで、日本社会の事情について相対的・批判的に考えられるようになることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・福祉レジーム論とそこで行われている福祉政策の違いを理解する。
・家族政策のあり方が、家族のあり方・考え方に影響することを学ぶ。
・欧米の事情を通じて、日本を中心としたアジアの家族政策や家族のあり方を相対的・批判的に論じられるようになる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	設問に対する回答がなされていない. 誤字や脱字多い.	多少の誤字はあるものの、主語と述語がクリアで、設問に対して適切に回答している.	適切な表現を用いながら、簡潔に回答している.	レベル３に加えて、論理的に回答している.
思考・解決力	テキストの内容を理解していない.	テキストの内容を理解しており、自らの研究と関連づけて解釈している.	レベル2を論理的に論じている.	レベル3に加えて、テキストの内容を批判的に検討している..

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　授業の説明、テキスト担当回の決定
第 2 回　デンマーク社会と家族
　　講義と討論
第 3 回　北欧社会におけるデンマーク家族政策の特徴

講義と討論
第 4 回　１章　福祉国家をめぐる三つの政治経済学
発表と討論
第 5 回　２章　脱商品化と社会政策
発表と討論
第 6 回　３章　階層化のシステムとしての福祉国家
発表と討論
第 7 回　４章　年金レジームの形成における国家と市場
発表と討論
第 8 回　５章　権力構造における分配体制
発表と討論
第 9 回　６章　福祉国家と労働市場のレジーム
発表と討論
第 10 回　７章　完全雇用のための制度調整
発表と討論
第 11 回　８章　ポスト工業化と雇用の三つの軌跡
発表と討論
第 12 回　９章　ポスト工業化構造の下における福祉国家レジーム
発表と討論
第 13 回　日本型福祉レジームと家族政策
発表と討論
第 14 回　アジアの家族と家族政策 －中国・大連市と台湾・台北市の事例から－
講義・討論
第 15 回　まとめ：社会変動と福祉国家の今後

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する（期末レポート）

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
担当教員による講義と、受講者によるテキスト内容の報告・討議で行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1. 授業までにテキストや資料を読み込んでおく。
2. 報告担当者は、テキストの内容をまとめること、討論の話題を提起することを報告準備として行う。
3. 提出された期末レポートは、後日コメントをつけて返却する。適宜修正をしたり、教員に質問等をするなどして、より深い理解に努めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業への参加度（積極性、報告など）40%、レポート60%

〔留意事項（Other Information）〕
・受講生の人数や関心によって、授業内容を変更する場合がある。そのため第１回目の授業には必ず出席すること。出席できない場合は、事前に青木まで連絡をすること。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『福祉資本主義の三つの世界』/イェスタ・エスピン-アンデルセン/ミネルヴァ書房/2001/978-4623033232/学内販売をしない予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
必要に応じて授業内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

京都生活論特論

260141N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
金曜 3限
一
90
鳥居本　幸代

〔科目の教育目標（Course Description）〕
京都は平安京遷都以来、文化の発信地となり、現在に至っている。京都の気候風土にあった衣生活、食生活、住生活のルーツを平安貴族の生活から探求し、その影響と変遷を知ることによって、今日の京都独自の生活文化を明らかにする。学内外のフィールドワークを積極的に行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.京都の衣生活としては、平安貴族のファッションの概要、さらに地場産業として発展した西陣織のルーツについて述べ、フィールドワークによって体感する。
2.京都の食生活としては、平安貴族の食生活からはじめ、京都で発展した精進料理、京野菜、茶道と京菓子、京料理などについて述べる。
3.京都の住生活としては、寝殿造から京町家にいたる経緯、伝統建築などについて述べるとともにフィールドワークを行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　平安貴族のファッションの概説
第 2 回　フィールドワーク①
風俗博物館見学
第 3 回　有職織物と西陣織
有職織物と西陣織

第 4 回　フィールドワーク②
　　織成館見学
第 5 回　京都の織物産業の現状
第 6 回　平安貴族の食生活と食環境
第 7 回　精進料理と京野菜
　　精進料理と京野菜
第 8 回　京料理の背景
第 9 回　菓子の歴史
　　-京菓子をめぐって-
第 10 回　フィールドワーク④ 京菓子資料館見学
　　フィールドワーク④
　　京菓子資料館見学
第 11 回　平安貴族の都市計画
　　-現代に残る条坊制-
第 12 回　寝殿造という住宅設計および別業の誕生
第 13 回　茶室建築と町家
第 14 回　フィールドワーク⑤　茶室建築の体験
　　フィールドワーク⑥　町家探訪
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
レポートの提出を求める

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義で得た知識をフィールドワークによって体感して作成されたレポートは、返却時に所感をそえるとともに、15回目の授業においてディスカッションを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
事前に与えた課題によって、予備知識を得ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
衣生活、食生活、住生活ごとにレポートの提出を求める。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『千年の都　平安京のくらし』/鳥居本幸代/春秋社/2014年//

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『平安朝のファッション文化』/鳥居本幸代/春秋社/2003年/
『和食に恋して　和食文化論』/鳥居本幸代/春秋社/2015年/
『精進料理と日本人』/鳥居本幸代/春秋社/2006年/

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

健康栄養学特論

260113N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
90
中田　理恵子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
日本における国民の健康・栄養状態の現状と食生活の関わりを理解したうえで、栄養素の種類とその生理機能・代謝について学び、健康の維持・増進や疾病予防における食事からの栄養素摂取の重要性について理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・食品中に含まれる栄養素の種類とその機能を理解する。
・食品中の栄養素がどのように体内に取り込まれ機能を発揮するか理解する。
・食による健康維持増進について考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分の食生活や健康に関心をもつ	現代社会における健康問題について考えることができる	健康社会の実現に向け、何をするべきか考えることができる	健康社会の実現に貢献するための知識や能力を身につけている
知識・理解力	食生活と健康の関わりについて知ろうとする	日本の健康・栄養状態の現状と食生活の関わりについて理解している	食品中に含まれる栄養素の種類とその生理機能・代謝について理解している	健康の維持・増進や疾病予防における食生活の重要性を理解できる専門知識が身についている
言語力	人に迷惑をかけないようにする	教員にわからないことを問う	他者と講義内容や課題を相談する	相談した内容を相互に評価するとともに、さらに議論を深める
思考・解決力	食生活に関心をもつ	食生活のあり方や課題の本質を探るため、食に関する専門知識が身についている	身につけた専門知識を活用して、食生活の課題を探ることができる	食生活に関心を持ち、身につけた知識を、食生活の課題を解決するために活用できる

共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする	他者とも一緒に学ぼうとする	課題を一緒に解決しようとする	周りと協力しながら、特定のテーマについて共同発表ができる
創造・発信力	レポートを作成する	レポート課題について、情報収集ができる	レポート内容に創造性を加える	身につけた専門的知識を活かし、より良い食生活の創造に関して自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

第 1 回　食生活と健康：日本における国民の健康・栄養状態の現状と食生活の関わり
国民健康・栄養調査の結果をもとに、現代社会の食生活の課題について考える。

第 2 回　栄養素の消化と吸収
摂取した栄養素がどのように体内に取り込まれるかを理解する。
消化と吸収に関わる臓器の構造を理解する

第 3 回　炭水化物の栄養：炭水化物の種類と機能
炭水化物の種類と各々の生理機能について理解する。

第 4 回　炭水化物の栄養：炭水化物の消化吸収、体内動態と健康維持
炭水化物の消化吸収・体内動態について理解するとともに、食後と空腹時の代謝の変化について理解する。さらに、健康維持のための炭水化物摂取の重要性を理解する。

第 5 回　脂質の栄養：脂質の種類と機能
脂質の種類と各々の生理機能について理解する。

第 6 回　脂質の栄養：脂質の消化吸収、体内動態と健康維持
脂質の消化吸収・体内動態について理解するとともに、食後と空腹時の代謝の変化について理解する。さらに、健康維持のための脂質摂取の重要性を理解する。

第 7 回　タンパク質の栄養：タンパク質の種類と機能、および消化吸収
タンパク質の種類と各々の生理機能について理解する。さらに、タンパク質の消化吸収・体内動態について理解するとともに、食後と空腹時の代謝の変化について理解する。

第 8 回　タンパク質の栄養：タンパク質の栄養価と健康維持
摂取するタンパク質の量と質の評価を理解するとともに、タンパク質摂取の重要性について理解する。

第 9 回　ビタミンの栄養：脂溶性ビタミンの種類と機能
脂溶性ビタミンの種類と各々の生理機能（欠乏症・過剰症）について理解する。

第 10 回　ビタミンの栄養：水溶性ビタミンの種類と機能
水溶性ビタミンの種類と各々の生理機能（欠乏症・過剰症）について理解する。

第 11 回　ミネラルの栄養：多量ミネラルの種類と機能
多量ミネラルの種類と各々の生理機能（欠乏症・過剰症）について理解する。

第 12 回　ミネラルの栄養：微量ミネラルの種類と生理機能
微量ミネラルの種類と各々の生理機能（欠乏症・過剰症）について理解する。

第 13 回　水分代謝
体内の水の分布と出納について、その構成と役割を理解する。

第 14 回　食品機能成分とその生理機能
食品機能成分の種類と健康維持効果について理解する。

第 15 回　食による健康維持増進
各栄養素の生理機能をまとめ、健康の維持・増進や疾病予防における食生活の重要性を理解する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

教育・学習の方法：講義
最終授業で、全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

教科書の指定箇所を読んでおく。
復習で疑問に思ったことは、次回授業時に質問する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

5

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（50%）と小テスト・レポート（50%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

授業内で指示する。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

授業内で指示する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

研究方法論

260010N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
1単位　通年
金曜 6限
ー
30
必修
竹原　広実　萩原　暢子　加藤　佐千子　中村　久美　酒井　久美子　佐藤　純　畠山　寛　石井　浩子　三好　明夫　牛田　好美　矢島　雅子　植田　恵理子　藤原　智子　青木　加奈子　安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活科学、健康科学、生活文化、社会福祉など生活関連領域における研究を進めていく上で必要な基礎となる研究方法論を学ぶものである。これらの領域において用いられる代表的な研究手法について、前半は各手法を常用する教員から講義を受ける。後半は実際に行われた研究事例を取り上げ、より実践的に研究手法を体験し学ぶ機会を提供する。以上を通じて研究課題の定め方、研究計画の立て方、研究手法の選び方、分析方法などについての学びを深めることを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
生活科学、健康科学、生活文化、社会福祉の領域における研究手法について理解を深める。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション 竹原
第 2 回　量的研究法　加藤
第 3 回　質的研究法　　佐藤
第 4 回　関連分野における研究動向・研究方法論　　藤原
第 5 回　関連分野における研究動向・研究方法論　　中村
第 6 回　関連分野における研究動向・研究方法論　　牛田
第 7 回　関連分野における研究動向・研究方法論　　三好
第 8 回　関連分野における研究動向・研究方法論　　石井
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
複数教員によるオムニバス形式で行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各回でとりあげる研究動向、研究手法について、事前に図書館の文献などで予習し知識を持っておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業への参加度を軸とし講義担当教員が評価する
〔留意事項（Other Information）〕
いずれかの回で、外部講師を招き特別講義を実施する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
各回授業で適宜資料を配布する
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

子どもの健康福祉学特論

260131N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
金曜 3限
ー
90
石井　浩子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
子どもたちの健全な発育・発達を保障するための「生活」と「活動」に関する内容や「生体リズム」に関する内容について、また、今日の社会の変化による影響から子どもの心身の異変の状況について学び、その問題点を分析したり、大人たちが果たすべき役割について考える。
さらに、少子高齢化社会の進行にともなう家庭環境の変化や地域社会の変容、女性の社会進出にともなう子育て支援の必要性、国や地方自治体の母子保健・児童福祉サービス、子どもに関する諸問題を検討し、子どもたちの健全育成のために、家庭や学校、施設、地域社会、行政などの果たす役割や今後の展望を探る。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1)子どもの発育・発達や基本的生活習慣を理解する。
(2)子どもたちの抱える健康上の問題を探る。
(3)子どもの心とからだの健全育成のための視点を理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもの発育・発達や基本的生活習慣を理解できない	子どもの発育・発達や基本的生活習慣を理解できる	子どもの発育・発達や基本的生活習慣に関する内容を学び、より深く理解できる	子どもの発育・発達や基本的生活習慣に関する内容について調べ、より広い知識を理解できる
知識・理解力	子どもの健康管理上の問題について理解できない	子どもの健康管理上の問題について、内容を理解できる	子どもの健康管理上の問題について内容を理解し、その要因を検討する	子どもの健康管理上の問題について理解し、その要因を検討して、改善点を提案できる
言語力	子どもの健康福祉学に関する専門用語が理解できない	子どもの健康福祉学に関する専門用語を理解できる	子どもの健康福祉学を学び、専門用語を理解して使用できる	子どもの健康福祉学を学び、専門用語を理解し、自分の意見をまとめる際に使用してまとめることができる
思考・解決力	子どもたちの抱える健康上の問題がわからない	子どもたちの抱える健康上の問題を考える	子どもたちの抱える健康上の問題となる要因を考える	子どもたちの抱える健康上の問題となる要因を考え、有効な改善案を考える
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかり聞いて考える	周囲の人と知識や考えを共有し、さらに高度な知識を得ようとする	レベル３に加え、周囲の人たちにより行動な知識を広めようとする
創造・発信力	子どもの心とからだの健全育成について、自分勝手な知識を発信する	子どもの心とからだの健全育成について理解し、自分の意見をまとめる	子どもの心とからだの健全育成について理解し、自分の意見をまとめて発信できる	子どもの心とからだの健全育成について自分の意見をまとめ、情報モラルも加味しながら、発信できる

〔授業計画〕
第 1 回　子どもを取り巻く社会環境や家庭環境、教育環境の変化
第 2 回　子どもの発育・発達や基本的生活習慣
第 3 回　子どもの生活習慣やそのリズムの実態
①生活リズム　②体温
第 4 回　子どもの心やからだの異変とその原因
第 5 回　少子高齢化社会における児童福祉ニーズ
第 6 回　子どもの心とからだの健全育成
①栄養・休養・運動
第 7 回　子どもの心とからだの健全育成
②自然とのかかわりと心の育ち
第 8 回　子どもの心とからだの健全育成
③保育者や教師、親（家庭）地域、行政の役割
第 9 回　子どもの心とからだの健全育成
④生活リズム向上戦略
第 10 回　子どもの心とからだの健全育成
⑤健全育成・健康づくりに関する子どもの行事
第 11 回　子ども家庭福祉関連の行政機関や施設
第 12 回　子どもを取り巻く大人の問題と課題
第 13 回　育児疲労と育児支援
①育児疲労の実態
第 14 回　育児疲労と育児支援
②育児支援の基本と援助者の心構え、具体的な支援
第 15 回　子どもの健康福祉の今後の課題と展望
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・毎回のテーマに沿って用意した資料をもとに、講義及びディスカッションを行う。
・毎回の授業の最後に、レポート課題を出す。
・提出されたレポート課題の講評や解説を翌週の授業中に行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・前回授業の配布資料を基に、授業の最後に出されたレポート課題について調べたことや自分の意見をまとめ、次回授業に提出する。
・授業予定の内容について、関連する新聞記事や書籍など見て、予備知識を得ておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度（発表やディスカッションへの参加）40％、課題提出（20％）、レポート提出（40％）から、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『健康福祉学概論ー健やかでいきいきとした暮らしづくりー』/前橋　明/朝倉書店/2008/9784254640359
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

子どもの表現活動特論

260135N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
木曜 2限
ー
90
植田　恵理子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
子どもの表現活動がどのような意味を持ち、どのような環境の中で発展していくのかについて、保育現場での他者とのかかわり、主体性、協同性、学びに向かう力等、様々な側面から検討し、文献講読、音楽表現・身体表現（ごっこ遊び、劇遊び）活動の観察(ビデオ)、音楽活動の体験を通して考える。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・子どもの表現活動を引き出す環境・条件・要因について理解を深める。
・表現活動と子どもの育ちの関連性について考察する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもの表現活動の意味、必要な環境について理解していない。	子どもの表現活動の意味、必要な環境について資料を基に理解する。	子どもの表現活動を引き出す活動の具体的方法、条件、その要因、環境の設定について、レポートにまとめる。	レベル３に加え、子どもの育ちとの関連性についてレポートにまとめる力を身に着ける。
知識・理解力	表現活動で培われる、主体性、協同性、学びに向かう力などについて調べることに消極的である。	主体性、協同性、学びに向かう力について、文献検索・購読を行う。	レベル２に加え、調べたことを基に、レポートにまとめ、理解を深める。	表現活動で育まれる力と、３つの柱、10の姿との関連性について理解し、レポートにまとめる力を身に着ける。
言語力	表現活動の観察等についての発言を行うことに消極的である。	表現活動の観察等についての発言を行う。	表現活動の観察等について、様々な側面から分析し、まとめる。	まとめたものを基に、口頭発表を行う。
思考・解決力	体験を通して、子どもの表現活動の在り方を探ろうとする意欲に欠ける。	体験を通して、子どもの表現活動の在り方を探ろうとする。	体験で得た知見を、自分なりの着目点を定めてまとめる。	まとめたものから、子どもの表現活動の課題を探り、それを基に、よりよい活動方法を考え、実践する。
共生・協働する力	子どもの表現活動と他者とのかかわりについて理解していない。	子どもの表現活動と他者とのかかわりについて理解しようとする。	他者とのかかわりについて、自分なりの着目点を定めてまとめる。	レベル３を含め、まとめたものを基に、環境、条件、方法について考え、レポートにまとめる力を身に着ける。
創造・発信力	プロジェクト型の表現活動、参加型絵本の読み聞かせ等について理解しようとしない。	プロジェクト型の表現活動、参加型絵本の読み聞かせ等について理解しようとする。	様々な形の子どもの表現活動を創り、実践して、課題をまとめる。	レベル３を踏まえ、子どもの表現活動をテーマにしたプレゼンテーションを行う。

〔授業計画〕
第 1 回　子どもと表現
第 2 回　遊びと表現
第 3 回　表現が生まれる環境
第 4 回　表現が発展する環境
第 5 回　表現活動における他者とのかかわり１　主体性
第 6 回　表現活動における他者とのかかわり２　協同性
第 7 回　表現活動における他者とのかかわり３　学びに向かう力
第 8 回　生活の中から生まれる音楽表現・身体表現１　気づき

第 9 回　生活の中から生まれる音楽表現・身体表現２　活動の発展
第 10 回　生活の中から生まれる音楽表現・身体表現３　協同的な活動
第 11 回　様々な表現活動1　プロジェクト型の表現活動
第 12 回　様々な表現活動２　参加型読み聞かせ
第 13 回　様々な表現活動３　音楽表現活動
第 14 回　課題発表のための準備（資料作成）
第 15 回　課題発表会　子どもの表現活動をテーマにしたプレゼンテーション

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・講義とゼミ形式を組み合わせて授業を行う。
・表現活動の実践と、実践体験を基にした課題発表を行う。課題発表修了後に、学生の表現活動に対して講評を行い、模範例を実演する方法で、フィードバックを行う。提出物については、個別にコメントして返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
配布された資料や、指定されたテキストには必ず目を通し、まとめておくこと。
表現活動の実践を行った際は、その意義についてまとめておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度（30％）　提出物（30％）　課題発表（40％）

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　講師として、幼稚園、保育園、こども園における、表現指導（園児・保育者・教員対象）の実務経験あり。

社会調査法特論

260124N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
金曜 4限
ー
90
平尾　良治

〔科目の教育目標（Course Description）〕
社会福祉は生活問題対策の一つであることから、国民の生活問題の実態を解明することは福祉研究においては不可欠の営みである。しかしその多くは官庁統計（行政報告）に依存せざるを得ない側面もある。そうしたデータをどのように加工し、活用するかが問われている。また必要なデータが「ない」場合は、自ら実証的に明らかにする必要がある。その際の技術やポイントを共有することを目標にしている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・社会福祉調査の理解（理論・操作概念・作業仮説）
・社会福祉調査の手順（調査方法・サンプリング・現地調査）
・調査票の設計と作成、点検と集計のポイント
・人口・労働と統計（将来人口・少子高齢化・失業・不安定雇用・労働時間・賃金）
・生活・福祉と統計（所得分布・国民生活基礎調査・所得再分配調査・家計調査）

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　社会福祉調査とは何か・・・社会科学としての社会福祉調査の特徴
第 2 回　量的調査と質的調査の意義・・・統計的調査と事例研究
第 3 回　社会福祉調査の進め方・・・調査の企画、調査の流れ、「問い」の基本
第 4 回　調査票の企画と構成・・・統計資料、統計的調査、ワーディング、選択肢、順序
第 5 回　調査実施とデータ集計・分析・・・現地調査、点検、コーディング、クリーニング
第 6 回　人口・労働と統計１・・・将来人口、少子高齢化、失業・不安定雇用
第 7 回　人口・労働と統計２・・・労働時間、賃金
第 8 回　生活・福祉と統計１・・・所得分布、国民生活基礎調査、所得再配分調査、家計調査
第 9 回　生活・福祉と統計２・・・年金制度と格差、医療保険と保険者間格差、高齢者医療
第 10 回　生活・福祉と統計３・・・国際比較でみる日本の社会保障
第 11 回　雇用労働者の増加と生活問題・・・生活問題をみる枠組み、雇用労働者の推移
第 12 回

くらしの現実と生活問題１・・・住民の階層構成、世帯構成、就業者構成
第 13 回　くらしの現実と生活問題２・・・生活の困りごと、家計支出構造、健康状態
第 14 回　社会保障・社会福祉の課題・・・社会手当、生活保護、福祉施設・サービス、財源
第 15 回　総合的体系的な社会的保障制度を実現する条件
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
授業はテキスト・補足資料・データをもとに、小グループでの討議、実務作業を通して、福祉調査の概要をつかむ。その上で量的データ処理・加工方法について習熟する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
テキストを事前に読了し、授業終了後に設定する課題に取り組んでください（教科書のドリル、配布課題、PCによる集計)。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
2
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、作業・討論への参加状況（20%)、小レポート・課題ドリル（30%)、期末レポート（50%）により総合的に行う。なお取り組んだレポート・課題ドリルの内容について授業内で解説を行う。
〔留意事項（Other Information)〕
事前に配付する資料に目を通し予習課題をおこなうこと。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『社会調査法入門』/盛山和夫/有斐閣/2004/4-641-18305-8/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』/志藤・平尾・藤井・安井/高菅出版/2014年/978-4-901793-68-1
『格差社会の統計分析』/岩井・福島・菊地・藤江/北海道大学出版会/2009/978-4-8329-6704-5
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

障がい者問題特論

260133N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
月曜 4限
ー
90
矢島　雅子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
障がいは、社会的環境によってつくり出されている。社会的環境は、物的環境、人的環境、社会的意識、制度的環境のことを指している。障がいのある人の自立と社会参加を阻む社会的障壁とは何か。また、通常の豊かな暮らしを継続できる社会の仕組をいかに構築していくべきか提言することができることを目指す。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.障がい者福祉の思想、理念について説明することができる。
2.障がい者権利条約をはじめ差別解消法が制定された背景や意義を学ぶ。
3.障がいのある人の暮らしの実態を知り、必要とされる福祉サービスの現状を学ぶ。
4.障がいのある人への就労支援の実態を知り、必要とされる支援の在り方を説明することができる。
5.障害のある人のソーシャルアクションの現状と課題について学ぶ。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	思想や理念、制度やサービスについて説明することができない。	思想や理念、制度やサービスの経緯について説明することができる。	思想や理念、制度やサービスの内容について説明することができる。	思想や理念、制度やサービスの位置づけと内容、必要性について具体的に説明することができる。
表現力・考察力	生活問題の具体的内容や背景について考察することができない。	生活問題の具体的内容について考察することができる。	生活問題の背景について考察することができる。	生活問題の具体的内容や背景について具体的に考察することができる。
思考・解決力	必要な支援内容や方法を調べることができない。	必要な支援内容や方法を調べることはできる。	必要な支援内容や方法を提案することができる。	必要な支援内容や方法を具体的に提案し、支援の意義を説明することができる。

ディスカッション力	発言や傾聴をしない。	意見を発言することはできる。	意見を発言するとともに、他者の意見を傾聴することができる。	意見を明確に発言し、他者の意見も傾聴し、意見の共通点や相違点を説明することができる。

〔授業計画〕
第 1 回　生活問題の理解
　　障がいのある人が抱えている生活問題
第 2 回　障害者福祉の思想・理念①
　　ノーマライゼーションの理念
第 3 回　障害者福祉の思想・理念②
　　リハビリテーションの発展と限界
第 4 回　障害者福祉の思想・理念③
　　エンパワメントの実際
第 5 回　障害者福祉の思想・理念④
　　自己決定の意義
第 6 回　障害者権利条約の理念
　　障がい者権利条約が目指すもの
第 7 回　障害者権利条約の内容
　　社会的障壁と合理的配慮の実際
第 8 回　特性の理解
　　障がい特性の理解
第 9 回　入所施設における支援
　　入所施設の実態と今後の在り方
第 10 回　地域生活の支援
　　地域生活支援の歩み
第 11 回　就労の支援
　　就労支援の現状と課題
第 12 回　自立生活の支援
　　自立生活運動の歴史
第 13 回　ソーシャルアクション
　　ソーシャルアクションの意義
第 14 回　意思決定支援
　　意思決定支援の課題
第 15 回　総括
　　今後の障がい者福祉の展望
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
定期試験に替わるレポートを実施する。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
・障がいのある人が抱えている実際の生活問題を調べ、発表を行う。
・必要とされる福祉サービスや支援の在り方についてディスカッションを行う。
・最新の福祉サービス等に関する情報を提示し、講義を行う。
・各回のワークシートは次回授業で個別にフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
・配付されたワークシートの予習・復習の課題に取り組む。
・指定された図書や論文等を読み、概要をまとめておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、授業参加度（30％）、レポート（50％）、ワークシート（20％）に基づいて総合的に行う。
〔留意事項（Other Information)〕
・障がいのある人や家族、支援者の声に耳を傾け、その代弁者となって研究を進めていく必要がある。
・必要に応じてフィールドワークを実施する。
・授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
授業内で資料を配付する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『よくわかる障害者福祉』/小澤温/ミネルヴァ書房/2016/9784623076444
『共生社会を切り開く－障碍者福祉改革の羅針盤－』/佐藤久夫/有斐閣/2015/9784641174092
『ケアからエンパワーメントへ　人を支援することは意思決定を支援すること』/北野誠一/ミネルヴァ書房/2015/978-4-623-07333-7
『社会福祉研究のフロンティア』/岩崎晋也・岩間伸之・原田正樹/有斐閣/2014/978-4-641-17399-6
授業内で参考文献一覧を配付する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食品学特論

260033N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
－
90
髙村　仁知

〔科目の教育目標（Course Description)〕
食に関するさまざまな話題に関して、調査、討議することで食品に関する造詣を深める。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
食品成分と食品分析、食品表示と法律、機能性食品、各種食品の性質、食品加工
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	食品について知ろうとする	食品について理解しようとする	食品について知識を深めようとする	食品について考えを深めようとする
知識・理解力	食品の名称について知る	食品の分類について知る	食品の性質について知る	食品の機能について知る
思考・解決力	食品について考える	食品の摂り方について考える	食品の安全性について考える	食品のあり方について考える
創造・発信力	授業を受ける	プレゼンテーションが作成できる	プレゼンテーションの内容に創造性を加える	食品について情報発信を行う

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
　　本授業の目的について説明する。
第 2 回　食品成分表
　　食品成分表の内容について説明する。
第 3 回　食品の分析
　　食品の分析について説明する。
第 4 回　食品表示法
　　食品表示法について説明する。
第 5 回　食品表示基準
　　食品表示基準について説明する。
第 6 回　栄養機能食品
　　栄養機能食品について説明する。
第 7 回　特定保健用食品と機能性表示食品
　　特定保健用食品と機能性表示食品について説明する。
第 8 回　植物性食品の性質
　　植物性食品の性質について説明する。
第 9 回　動物性食品の性質
　　動物性食品の性質について説明する。
第 10 回　食品の冷蔵・冷凍
　　食品の冷蔵・冷凍について説明する。
第 11 回　食品と酵素
　　食品と酵素について説明する。
第 12 回　食品の包装
　　食品の包装について説明する。
第 13 回　食品と添加物
　　食品と添加物について説明する。
第 14 回　食品と放射線
　　食品と放射線について説明する。
第 15 回　まとめ
　　本授業のまとめを行う。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各回の話題についてあらかじめ調査し、発表・討議することで理解を深める。これに対し、適宜口頭でフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
各回の話題について書籍やインターネット等であらかじめ調査する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
口頭発表および授業への参加度100%
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
なし
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
学部生の時に用いた「食品学」に関する教科書を持参のこと。日本食品標準成分表2015も持参すること。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生活文化学特論

260011N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
木曜 2限
一
60
中村　久美　牛田　好美　藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　生活に関わる文化をヒトとモノ、コトとの相互関係の構築ととらえ、それを歴史や風土、社会的背景の追求から解明することで、よりよい人間の生活のあり方を考えていくものである。本特論ではこの生活文化の諸相を衣生活、食生活、住生活の各側面から明らかにする。現代の衣食住の生活側面を文化の視点で評価し、よりよいあり方について論じることができることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・ 洋服が日本に導入されて以降の、衣文化について考察する。(牛田)
・ 米をテーマに日本型食生活と食文化について考察する。(藤原)
・ 住様式を歴史的、あるいは比較文化の視点から考える。(中村)
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己の研究との関係からみた本科目に対する理解や思	生活文化という概念、および衣食住に関わる文化的視点についてま	授業内で得た衣食住の生活文化の話題については大体理	授業の理解をさらに深めるために、教員に質問したり	自己の研究の立場からみた衣食住の生活文化の意味や価値を考える

考、探求意欲・態度	だよくわからない	解できている	関連する文献を読む	と同時に、自己の研究過程にその知識や理解を活かそうとする

〔授業計画〕
第 1 回　衣からみた生活文化論　牛田
第 2 回　衣における日本文化と西洋文化の比較　牛田
第 3 回　20世紀の日本のファッション史　牛田
第 4 回　制服と日本文化　牛田
第 5 回　コスプレと日本文化　牛田
第 6 回　食からみた生活文化論　　藤原
第 7 回　米の歴史　　藤原
第 8 回　米の栄養と調理性　　藤原
第 9 回　飯と食文化　　藤原
第 10 回　酒と食文化　　藤原
第 11 回　住からみた生活文化論　　中村
第 12 回　風土性から読み解く空間論、建築論　　中村
第 13 回　歴史性から読み解く空間論、建築論　　中村
第 14 回　日本の風土と生活様式、住様式　　中村
第 15 回　文化的視点からみた生活様式、住様式　　中村
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・ゼミ形式で、資料をもとに課題を設定し議論をする。(牛田）
・主に講義形式を取るが、授業の中で予め提示した課題についてはゼミ方式で行う。　（藤原）
・ゼミ形式でテーマにそって資料を読み解きながら議論をする。（中村）
なお、各担当教員からの課題レポートについては評価後、担当者より講評を通知する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
事前配布の資料や文献指定ページなどには必ず目を通すこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
・授業参加度（50％）、レポート(50％）に基づいて総合的に行う。（牛田）　・授業参加度(40％)、レポート(60％)に基づいて総合的に行う（藤原）　・議論への参加の様子(50％)、レポート(50％)に基づいて総合的に行う（中村）　・ 担当教員３名の評価の平均によって決定する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
適宜、授業で資料等、配布する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

調理科学特論

260115N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
月曜 3限
ー
90
藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
調理という行為が、人の生存を支えるという科学的側面と、生活を創造するという文化的側面を持つことを理解し、調理の役割について、俯瞰的視点から論ずることができる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. 調理の科学的側面について理解する。
2. 調理の生活文化的側面について理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
科学的思考力	調理操作や食素材の調理特性について、科学的根拠を示して説明できない	調理操作や食素材の調理特性について、科学的根拠を示して説明できる	レベル2に加えて、日本の伝統的な調理技法について、自然的背景や歴史的背景をふまえた上で科学的な考察ができる	レベル3に加えて、世界的な視点で、現代社会における調理の意味を捉え、調理が担うべき役割と課題について論ずることができる

〔授業計画〕
第 1 回　調理の起源と発達
第 2 回　おいしさの化学的要因・物理的要因
第 3 回　調理操作（湿式加熱）
第 4 回　調理操作（乾式加熱）
第 5 回　調理操作（誘電加熱・誘導加熱・非加熱）
第 6 回　調味（物質の拡散と浸透）
第 7 回　食素材の調理特性と食品としての広がり①米
第 8 回　食素材の調理特性と食品としての広がり②小麦粉
第 9 回　食素材の調理特性と食品としての広がり③いも類・豆類
第 10 回　食素材の調理特性と食品としての広がり④魚・肉
第 11 回　食素材の調理特性と食品としての広がり⑤野菜・果物
第 12 回　食素材の調理特性と食品としての広がり⑥卵・牛乳
第 13 回　食素材の調理特性と食品としての広がり⑦砂糖・油脂・ゲル化剤
第 14 回　食素材の調理特性と食品としての広がり⑧ゲル化剤

第 15 回　口頭発表・ディスカッション、まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
主に講義形式を取るが、授業の中で予め提示した内容についてはゼミ形式で行う。
授業のまとめとして、提示した課題の中から各々が選んだテーマについて口頭発表を求める。
さらに口頭発表に対してのディスカッションをふまえてまとめたレポートを、指定した期日までに指定した方法で提出することとする。レポートは後日コメントを添えて返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業の中で指示した課題について、文献等により最新の知見を収集する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度（30％）、口頭発表（20％）、レポート（50％）に基づいて総合的に行う。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に適宜、紹介あるいは配付する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

260155A0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
青木　加奈子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

260155B0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
石井　浩子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

260155C0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
植田　恵理子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

特別研究Ⅰ

260155D0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
牛田　好美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

260155E0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
加藤　佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

260155G0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
佐藤　純

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

260155H0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
竹原　広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

特別研究Ⅰ

260155I0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
中村　久美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

260155J0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
萩原　暢子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

260155K0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
畠山　寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　医師として病院等での診療経験あり。

特別研究Ⅰ

260155L0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

260155M0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	特別研究がイメージできない	特別研究がイメージできる	特別研究をさらに探求しイメージを現実化できる	L3に加えて特別研究の結果を発表できる
知識・理解力	特別研究の意味を理解できない	特別研究の意味を理解できる	特別研究でさらに知識を高め、理解を深めて積極性を増すことができる	L3に加えて特別研究に関する知識の理解度を高め発展させることができる

言語力	特別研究における使用言語や専門用語が理解できない	特別研究における使用言語や専門用語が理解できる	現状にあてはめてさらなる探求を行うことができる	L3に加えて特別研究の関連領域で使用される言語も含めて知識の探求ができる
思考・解決力	教授されたこと以外は考えようとしない	現状把握を行い、状況にあてはめた思考ができる	特別研究の周辺領域の使用言語を理解することができる	L3に加えて特別研究の専門用語を駆使して発表できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見に耳を傾けて聴いて理解する	思考した結果を周囲の人たちに伝え共有できる	L3に加えて得られた結果を他者と協働しさらなる考察を加えることができる
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を勘案して自分の考えを発信できる	特別研究の進展に必要な創造力を発揮して展開できる	L3に加えて研究内容の精度を高めて関係者に公表、発信できる

〔授業計画〕
授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅰ

260155N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
矢島　雅子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

260155O0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

260155F0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
酒井　久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

260156A0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
青木　加奈子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

260156B0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
石井　浩子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

260156C0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
植田　恵理子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

特別研究 II

260156D0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
牛田　好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

260156E0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
加藤　佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

260156G0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
佐藤　純

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

260156H0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
竹原　広実

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

特別研究 II

260156I0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
中村　久美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

260156J0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
萩原　暢子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

260156K0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
畠山　寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　医師として病院等での診療経験あり。

特別研究 II

260156L0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

260156M0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	特別研究がイメージできない	特別研究がイメージできる	特別研究をさらに探求しイメージを現実化できる	L3に加えて特別研究の結果を発表できる
知識・理解力	特別研究の意味を理解できない	特別研究の意味を理解できる	特別研究でさらに知識を高め、理解を深めて積極性を増すことができる	L3に加えて特別研究に関する知識の理解度を高め発展させることができる
言語力	特別研究における使用言語や専門用語が理解できない	特別研究における使用言語や専門用語が理解できる	現状にあてはめてさらなる探求を行うことができる	L3に加えて特別研究の関連領域で使用される言語も含めて知識の探求ができる
思考・解決力	教授されたこと以外は考えようとしない	現状把握を行い、状況にあてはめた思考ができる	特別研究の周辺領域の使用言語を理解することができる	L3に加えて特別研究の専門用語を駆使して発表できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見に耳を傾けて聴いて理解する	思考した結果を周囲の人たちに伝え共有できる	L3に加えて得られた結果を他者と協働しさらなる考察を加えることができる
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を勘案して自分の考えを発信できる	特別研究の進展に必要な創造力を発揮して展開できる	L3に加えて研究内容の精度を高めて関係者に公表、発信できる

〔授業計画〕
授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 II

260156N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
矢島　雅子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

0

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

0

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

260156O0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

260156F0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
酒井　久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅲ

260157A0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
青木　加奈子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

260157B0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
石井　浩子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅲ

260157C0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
植田　恵理子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

特別研究Ⅲ

260157D0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
牛田　好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅲ

260157E0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
加藤　佐千子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

260157G0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
佐藤　純

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅲ

260157H0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
竹原　広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

特別研究Ⅲ

260157I0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
中村　久美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅲ

260157J0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
萩原　暢子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

260157K0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
畠山　寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　医師として病院等での診療経験あり。

特別研究Ⅲ

260157L0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅲ

260157M0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	特別研究がイメージできない	特別研究がイメージできる	特別研究をさらに探求しイメージを現実化できる	L3に加えて特別研究の結果を発表できる
知識・理解力	特別研究の意味を理解できない	特別研究の意味を理解できる	特別研究でさらに知識を高め、理解を深めて積極性を増すことができる	L3に加えて特別研究に関する知識の理解度を高め発展させることができる
言語力	特別研究における使用言語や専門用語が理解できない	特別研究における使用言語や専門用語が理解できる	現状にあてはめてさらなる探求を行うことができる	L3に加えて特別研究の関連領域で使用される言語も含めて知識の探求ができる
思考・解決力	教授されたこと以外は考えようとしない	現状把握を行い、状況にあてはめた思考ができる	特別研究の周辺領域の使用言語を理解することができる	L3に加えて特別研究の専門用語を駆使して発表できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見に耳を傾けて聴いて理解する	思考した結果を周囲の人たちに伝え共有できる	L3に加えて得られた結果を他者と協働しさらなる考察を加えることができる
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を勘案して自分の考えを発信できる	特別研究の進展に必要な創造力を発揮して展開できる	L3に加えて研究内容の精度を高めて関係者に公表、発信できる

〔授業計画〕
授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
矢島　雅子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれから

の人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅲ

260157O0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

0

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

0

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

0

〔参考URL(URL for Reference) 〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

特別研究III

260157F0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
酒井　久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

0

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

0

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

0

〔参考URL(URL for Reference) 〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

特別研究Ⅳ

260158A0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
青木　加奈子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

260158B0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
石井　浩子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

260158C0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
植田　恵理子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

特別研究Ⅳ

260158D0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
牛田　好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

260158E0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
加藤　佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

260158G0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
佐藤　純

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

260158H0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
竹原　広実

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

特別研究Ⅳ

260158I0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
中村　久美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

260158J0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
萩原　暢子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

260158K0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
畠山　寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　医師として病院等での診療経験あり。

特別研究Ⅳ

260158L0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

260158M0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	特別研究がイメージできない	特別研究がイメージできる	特別研究をさらに探求しイメージを現実化できる	L3に加えて特別研究の結果を発表できる
知識・理解力	特別研究の意味を理解できない	特別研究の意味を理解できる	特別研究でさらに知識を高め、理解を深めて積極性を増すことができる	L3に加えて特別研究に関する知識の理解度を高め発展させることができる
言語力	特別研究における使用言語や専門用語が理解できない	特別研究における使用言語や専門用語が理解できる	現状にあてはめてさらなる探求を行うことができる	L3に加えて特別研究の関連領域で使用される言語も含めて知識の探求ができる
思考・解決力	教授されたこと以外は考えようとしない	現状把握を行い、状況にあてはめた思考ができる	特別研究の周辺領域の使用言語を理解することができる	L3に加えて特別研究の専門用語を駆使して発表できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見に耳を傾けて聴いて理解する	思考した結果を周囲の人たちに伝え共有できる	L3に加えて得られた結果を他者と協働しさらなる考察を加えることができる
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を勘案して自分の考えを発信できる	特別研究の進展に必要な創造力を発揮して展開できる	L3に加えて研究内容の精度を高めて関係者に公表、発信できる

〔授業計画〕
授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と

関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
矢島　雅子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0

〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

260158O0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

260158F0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
酒井　久美子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

保健福祉行政特論

260116N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
火曜 5限
ー
90
金森　雅夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
来るべき超高齢社会super-aged societyに迎えて現在の保健施策を検討する。具体的には、①健康日本21を中心としたヘルスプロモーション施策、特に長寿と運動を中心に学習する。②2019年発表された認知症施策推進大綱の「予防と共生」について学習する。その際、認知症の医学知識、アルツハイマー病の病理について紹介し、最近の認知症予防の科学的先端的知識に触れる。③国連の目標であるSustainable Development Goals（持続可能な開発目標)について学習し、WHOの生活習慣予防戦略を紹介する。この３つの枠組みからどのようなプロセスによって、疾病の予防や健康増進が可能かを科学的に推論し、施策立案の研究能力を培う(リスクファクター、システマティックレビュー)。さらに、ある保健福祉上のテーマからエビデンスの収集を通じて保健行政の課題解決のためのフローチャート・ロードマップを作成し、科学的健康施策立案能力を養う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
①健康日本21（第二次）の参考文献を読んで、生活習慣と疾病の関連を深く理解する。特に長寿と運動習慣について、どのような運動が必要かにつて体得する。②認知症を予防する視点から青年から老年までのライフステージごとのリスクをまとめ、早期認知症、介護予防、認知刺激療法の実際に触れ、認知症予防と共生について総合的に把握する分析力を培う。③国連の貧困、健康格差の是正、気候変動の健康への影響、WHOの施策を読んで世界の地域での取り組みの現状を分析し、各自がどうのような行動が可能かについて論理的に意見を展開できる能力を培う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				資料を整理しまとめることができる。
知識・理解力統計を読む力ファクトネスについて調べまとめる。				統計を読む力でファクトネスについて指摘することができる。
言語力テーマについて、資料を				まとめた資料を論理的に説明する

基に根拠を示し説明する力				ことができ、質問に対して的確に答えることができる。
思考・解決力文献、統計表グラフについて、要点をまとめる力とまとめた要点から文献調査を行い、解決するためのストラテジーについて、「問」を投げかけられる。				健康増進について、自らたてた目標に向かって的確に文献・資料をあつめ、要点をまとめることができる。
共生・協働する力自分の考えと他のメンバーとの共通点、相違点を分析し、共通の目標に向かって探求する姿勢を培う。				共通の目標に向かって追求できる。
創造・発信力認知症の介護予防の課題や地球上の健康課題について、要点をまとめ、視覚化する力を培い、その作成した図表から新たな課題を発信できる力を培う。				具体的な1つの地球上の課題についてまとめた図表が科学的根拠に基づいて、課題を解決するための道筋を述べることができる。

〔授業計画〕

第 1 回　ヘルスプロモ―ション
第1回　講義の目標　健康の定義　オタワ憲章、ヘルスプロモーション　グローバルヘルス　健康の危機管理

第 2 回　健康日本21を中心としたヘルスプロモーション施策
第2回　健康日本21　人口構造の変化　人口の転換点　超高齢社会

第 3 回　要介護の要因
第3回　死亡　要介護の要因　フレイル　サルコペニア　骨そしょう症　長寿の要因

第 4 回　長寿と運動
第4回　健康づくりの運動　有酸素運動　レジスタンス運動　バランス機能　最大酸素摂取量　アメリカスポーツ医学会　スポーツ・運動の健康・疾病予防効果

第 5 回　認知症予防　ライフステージ別リスク
第5回　認知症　早期認知症（軽度認知症）アルツハイマー病　Aβ　ライフステージ別リスク　リスク比

第 6 回　認知症予防　栄養・運動の効果
第6回　認知症予防　運動と栄養　記憶　実行機能　3オメガ

第 7 回　認知症予防　認知刺激療法と学習
第7回　認知刺激療法の実際　認知症患者のケースレポート

第 8 回　認知症予防　多職種介入
第8回　パーソンセンタードケア　多職種介入

第 9 回　認知症予防　住居環境と地域環境
第9回　地域包括ケア　欧米の施設ケア　認知症カフェ　共生　終末期

第 10 回　科学的根拠エビデンス
第10回　科学的根拠エビデンス（Evidence Based Medicine）とはなにか？google scholar など文献情報の方法　情報の整理・評価(iPad及び資料のPDF化）システマティックレビュー

第 11 回　Sustainable Development Goals
第11回　Sustainable Development Goals

第 12 回　フローチャート・ロードマップ
第12回　WHOの転倒予防施策のレポートから、転倒予防の具体的なアプローチを学んで、フローチャート・ロードマップ作りを参考例として学ぶ。

第 13 回　課題テーマの選択
第13回　運動などのヘルスプロモーション、認知症予防、Sustainable Development Goalsの講義内容を参考に自らのテーマを選択する。

第 14 回　文献調査と内容紹介
第14回　文献調査を行い、内容を解析する。

第 15 回　課題テーマの発表
第15回　課題テーマについて発表する。他のグループの発表を評価し、意見を述べる。（ローチャート・ロードマップの完成）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕

①文検索能力。②基本的な統計能力。③認知症の病態生理、④生活習慣病のリスクファクターと国民衛生の動向についての情報検索能力。⑤自らの課題テーマに基づて、資料文献を系統的まとめる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
認知症の病態生理については講義で詳しく説明するが、①地域でどのような連携（地域パス）があるのか、②介護予防の実践例を調べることが望ましい。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60時間
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　①　課題解決レポート(60%)　②発表、討論などルーブリックのレベル評価（40%)
〔留意事項（Other Information)〕
資料はその都度提示するの講義を聞いてノートテイクすること。できれば1冊のノートに書くほうがベター。認知症は医学知識を教授するので復習をして、不明なことは調べたり、後日質問をすること。地域での認知症予防での実践例など新聞、コミュニティ雑誌、役所の広報で興味を持って調べることが望ましい。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
その都度紹介する。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『WHOグローバルレポート：高齢者の転倒予防』/鈴木みずえ・金森雅夫・中川経子/クオリティケア出版/2010/978-4-904363
『社会・環境と健康』/国立健康・栄養研究所監修/南江堂/2010/4-524-23691-0
WHOグローバルレポート：高齢者の転倒予防は、高齢者での介護予防を計画する際の重要な政策課題の骨組みを紹介しています。認知症・介護予防の参考書はその都度紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
認知症施策推進大綱
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000076236_00002.html
WHO グローバルヘルス
https://www.who.int/
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
・学校医（産業医）の経験から健康管理学、予防医学
・国立公衆衛生院統計室長としての公衆衛生施策　難病の統計、ヘルスマンパワー計画、地域リハビリテーション数、看護師数の必要数の算定など多数。
・1995　WHO主催「神経と公衆衛生」東京専門家会議事務局長、副編集長
・JICA　専門家派遣「タイ国のプライマリーヘルスケア」マヒドン大学アセアンセンター

アラブ・イスラーム文化史演習

280118N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
水曜 3限
ー
60
選択必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
今年度はイスラームの聖典コーランについての理解を深めることを目標とする。コーランは神が西暦７世紀にアラビア語で人類に下した啓示をそのまま書きとめたものであると信じられている。また、現在私たちの手元にあるコーランは、預言者ムハンマドが受けた啓示が人々によって記憶され、後に第3代カリフ、ウスマーンのときに集録されたものである。関連文献資料を参考にしながら、コーランの幾章かを日本語訳で読み解いていく。それらによって、ムスリムの生活と思考の根幹となっているコーラン的規範を探求する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．歴史的背景
２．コーランの構成
３．コーランの内容
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、自分のものとしようとする	学習したことを理解し、自分のものとする	学習したことを完全に理解した上で、応用につなげる
言語力	関連テーマの文献を読む	関連テーマの文献を読んでノートにまとめていく	関連テーマの文献（日・英語）を読んでノートにまとめていく	関連テーマの文献（日・英語）を読んで自分の研究に役立てる
思考・解決力	宿題、課題や試験に取り組む	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	できなかった問題を再度やってみる	自ら課題を考え解決する

共生・協働する力	研究仲間とグループワークをやろうとする	研究仲間とグループワークを行う	誰とでも積極的にグループワークを行う	誰とでも積極的にグループワークを行うことで、他のメンバーを伸ばす

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　時代背景
第 3 回　預言者ムハンマド
第 4 回　コーランの構成
第 5 回　神観念
第 6 回　神の唯一性
第 7 回　天地創造
第 8 回　アダムの創造と楽園追放
第 9 回　人類の歴史と神の支配
第 10 回　終末
第 11 回　天国と地獄
第 12 回　礼拝・断食
第 13 回　巡礼・タブー
第 14 回　婚姻・離婚
第 15 回　発表とまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
１．テクスト読解
２．文献読解（日本語・英語）
３．発表と討論
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の要約
３．発表のレジュメ作成
４．発表のパワーポイント資料作成
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度10％、発表30％、学期末レポート60％により評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
ゲスト講師による授業を行うこともある。
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
授業で必要な資料を配布する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
参考文献は適宜、授業で提示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラブ・イスラーム文化特論

280032N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
火曜 4限
ー
60
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
アラブ文化とイスラーム文化についての知識と理解を深めることを目的とする。まず「アラブ」とは何か、「イスラーム」とは何かという定義付けの検証から行う。次にアラブとイスラームの人々の生活、宗教、歴史、芸術、文学にかかわる代表的な文化的要素（例：コーラン、アラビア書道、アルハンブラ宮殿）をとりあげて検討し、それらにまつわる歴史的背景や地域の独自性なども明らかにしていく。また、文献を読むことに加えて、映像や実物を目にすることで、その文化において人々が実際にどのような生活をしているのかをかいまみる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．アラブ・イスラーム文化の共通性
２．アラブ・イスラーム文化の多様性
３．文献（日本語と英語）講読とそれに関する発表
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、自分のものにしようとする	学習したことを理解し、自分のものにする	学習したことを完全に理解した上で、応用につなげる
言語力	関連テーマの文献を読む	関連テーマの文献を読んでノートにまとめていく	関連テーマの文献（日・英語）を読んでノートにまとめていく	関連テーマの文献（日・英語）を読んで自分の研究に役立てる
思考・解決力	宿題、課題や試験に取り組む	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	できなかった問題に再度取り組む	自ら課題を考え解決する
共生・協働する力	研究仲間とグループワークをやろうとする	研究仲間とグループワークを行う	誰とでも積極的に組んでグループ	誰とでも積極的に組んでグループワークを行

			ワークを行う	うことで、他のメンバーを伸ばす

〔授業計画〕
第 1 回　アラブとイスラームの定義の検証
第 2 回　イスラームの興り
第 3 回　イスラームの発展
第 4 回　コーランとは
第 5 回　コーランの内容
第 6 回　アラブ文学（詩）
第 7 回　アラブ文学（散文）
第 8 回　アラビア書道
第 9 回　アルハンブラ宮殿
第 10 回　イスラーム女性信者のヴェール
第 11 回　アラブのメディア（新聞）
第 12 回　アラブのメディア（テレビ・ラジオ）
第 13 回　もてなしの心
第 14 回　結婚と離婚
第 15 回　最終発表とまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．講義と受講生の発表によって授業をすすめる。
２．受講生は各授業で決められたテーマに関する日本語と英語の専門書や論文を事前に読み、発表を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．１．の要約および発表
３．発表のレジュメ作成
４．発表のパワーポイント資料作成
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度（10%）、発表（30%）、学期末レポート（60%）により評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
ゲスト講師による授業を行うこともある。
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
特に使用しない。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
参考文献は適宜、授業で紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インターンシップ

280061N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　集中
その他
ー
60
岩崎　れい　堀　勝博　吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
国際組織や国際ビジネスにおいて活躍を志す学生にとって、また文化機関や日本語教育機関での仕事に従事したいと考えている学生にとって、現場で一定期間を過ごしてみることは何にものにも換えがたい経験になる。このインターンシップは、それらの仕事の一部分を体験することで、その仕事の概容を知ること、また他の職種をふくめたさまざまなビジネスシーンや文化活動を理解するため、開講される。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
たとえば、多国籍企業や国際機関などに特有の文化に接し、国際組織での公用文書の作成の実態に触れたりすること。そうした仕事についての認識を確かなものとすること。
図書館や美術館といった文化機関の所蔵資料・文物を十全に理解すること。それら資料・文物を利用して、閲覧者や観覧者に対する資料提供や展観のための技術に触れてみること。
国内外の日本語教育機関に赴き、日本語教育の現状を理解するとともに現地教員の補助や研究授業を体験すること。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
実習先で協働する力	実習で求められたことをこなすことができない。	実習先の指示に従って、実習を行うことができる。	実習先で一定の業務をこなすことができ、他の履修生と十分に協働できる。	企画や授業などにおいて、実習館を満足させる業務を行うことができ、また周囲への心配りができる。

〔授業計画〕
※実習先によって、授業計画が変わってきます。
日本語教育機関での実習を希望する場合は、堀教授に、
博物館での実習を希望する場合は、吉田朋子准教授に、
図書館及び国際機関での実習を希望する場合は、岩崎に相談してください。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
インターンシップの実施先としては、国連広報センター、大阪府立図書館、博物館・美術館などの文化機関や国内外

の日本語教育機関を予定している。
事前・事後指導にも必ず出席すること。実習内容等に関するフィードバックは事後指導において行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．基本的な知識・技術を身につけておく。
２．インターンシップ先の概要、業務内容等について、あらかじめ知っておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
インターシップ先の評価および体験したインターシップについてのレポートによって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

堀勝博：大阪外国語大学外国人研究生チューター（１９８３～４年)。また、大阪外国語大学留学生別科（1985～1986年)、大阪産業大学教養部共通科目（1991～2006年）において、留学生に対する日本語教育を担当
吉田朋子：兵庫県立美術館で学芸員として勤務
岩崎れい：国立国会図書館で非常勤調査員として勤務

ｽﾋﾟｰﾁ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ演習

280153N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 1限
ー
60
選択必修
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description)〕
日本語の話しことば教育・学習に関する内容と研究方法について把握する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
話しことばに関する教育・学習について理解するとともに、関連の研究方法について把握する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解	内容を理解していない。	内容をおおかた理解している。	内容を十分に理解している。	内容を十分に把握し、研究への理解を深めている。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　音声言語指導の歴史
　　明治、大正
第 3 回　音声言語指導の歴史
　　昭和、平成
第 4 回　音声言語教育に関する技能
　　音声言語に関する図表からの検討
第 5 回　音声言語学教育に関する技能
　　基礎練習の検討
第 6 回　音声言語教育に関する技能
　　方法に関する検討
第 7 回　音声言語教育に関する研究方法
　　教育実践研究とは何か
第 8 回　音声言語教育に関する研究方法
　　教育実践研究の方法
第 9 回　音声言語教育に関する研究方法
　　授業リフレクションを用いた研究実践研究
第 10 回　音声言語教育に関する研究方法
　　質的研究
第 11 回　音声言語教育に関する研究方法
　　研究デザイン
第 12 回　音声言語教育に関する研究方法
　　データ採取
第 13 回　音声言語教育に関する研究方法
　　研究倫理
第 14 回　音声言語教育に関する研究方法
　　SCAT
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
・前半は、話しことば教育・学習に関する技能について把握する。
・後半は、話しことば教育に関する研究に参考になる教育工学の研究方法（特に質的研究）について把握する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
・毎回の課題を準備する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
50
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、授業参加度（50%)、発表（50%）に基づき、総合的に行う。
〔留意事項（Other Information)〕
フィールドワークに行く場合がある。その場合、交通費などが必要である。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『質的研究の考え方　研究方法論からSCATによる分析まで』大谷尚/名古屋大学出版会/2019
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『教育工学研究の方法』/清水康敬他編著教育工学会監修/ミネルヴァ書房/2012/4623063631
『プロセス・エジュケーション』/津村俊充/金子書房/2012/4760832548
『現代日本のコミュニケーション研究』/日本コミュニケーション学会/三修社/2011/4384056591
『教育実践論文としての教育工学研究のまとめ方』/吉崎静夫・村川雅弘編著/ミネルヴァ書房/2016/9784623074402
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｽﾋﾟｰﾁ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ特論

280154N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
火曜 4限
ー
60
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description)〕
コミュニケーションに関する内容を理解し、コミュニケーション教育・学習の在り方を考察する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・コミュニケーションに関する文献を読み、問題点を把握する。
・コミュニケーション教育・学習の在り方を考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
理解と考察	内容を理解していない。	内容をおおかた理解し考察している。	内容を理解し問題点等を把握した上で考察している。	内容を十分に理解し優れた考察をしている。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　話しことばの基礎
第 2 回　社会生活とコミュニケーション
　　家庭内コミュニケーション
第 3 回　社会生活とコミュニケーション
　　日本人の傾向
第 4 回　社会生活とコミュニケーション
　　誤解とコミュニケーション
第 5 回　社会生活とコミュニケーション
　　いじめとコミュニケーション
第 6 回　ジェンダーとコミュニケーション
　　西欧
第 7 回　ジェンダーとコミュニケーション
　　日本
第 8 回　大衆文化とコミュニケーション
第 9 回　ビジネス・コミュニケーション
　　分類
第 10 回　ビジネスコミュニケーション
　　特色
第 11 回　コミュニケーション教育
　　日本語、国語教育
第 12 回　コミュニケーション教育
　　ディベート
第 13 回　オーラル・インタープリテーション
第 14 回　フィールドワーク（実施回未定）
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
・文献を読み、受講者作成のレジュメをもとに議論する。
・提出された課題に対してフィードバックがある。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
・毎回の課題を準備する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
50
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、授業参加度（50%）、発表（50%）に基づき、総合的に行う。
〔留意事項（Other Information)〕
フィールドワークに行く場合がある。その場合、交通費などが必要である。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
日本コミュニケーション学会（2000）日本社会とコミュニケーション　三省堂　ISBN-13: 978-4385359601　学内販売無
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『現代日本のコミュニケーション研究』/日本コミュニケーション学会編/三修社/2011/9.784384056594E12
『非言語行動の心理学』/V.P.リッチモンド・J.C.マクロスキー/北大路書房/2006/4.762824909E9
『音声言語指導大事典』/高橋俊三（編）/明治図書出版/1990/ 4184788041
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

芸術史学演習

280110N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
月曜 5限
ー
60
選択必修
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
美術作品の研究のために、美術史学は様々なアプローチの方法を蓄積してきた。これから美術作品の研究に取り組むために、具体的な論文を通して方法論を学ぶ。あわせて、美術史研究に必要な外国語読解能力の向上も目指す。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・美術史学の重要な論文のいくつか（欧文）を読み、そこで使われている方法論を考察する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	美術史学の歴史についてあいまいな知識しかない	代表的な美術史家の名前と業績を知っている	美術史学上有名な論文をいくつか読んだことがある	共鳴する美術史家の方法論について論じることが出来る
言語力	一次資料や専門的な論文に触れたことがない	一次資料や専門的な論文を読み、レジュメにまとめることが出来る	一次資料や専門的な論文を批判的に検討することが出来る	一次資料や専門的な論文を自分の研究に生かすことが出来る
思考・解決力	様々な学には歴史があることを明確に認識していない	学問や思考の枠組みが歴史的に規定されていることを理解している	自分の研究に関わる分野の学問としての歴史に興味をもち、ある程度知識がある	自分の研究に関わる分野で重要とされる一次資料や専門的な論文を収集することができる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　文献講読　列伝
第 3 回　文献講読　アカデミー
第 4 回　文献講読　ラオコオン論争
第 5 回　文献講読　ヴィンケルマン
第 6 回　文献講読　ゲーテ
第 7 回　文献講読　ロマン主義
第 8 回　文献講読　ベルリン学派
第 9 回　文献講読　ブルクハルト
第 10 回　文献講読　ウィーン学派
第 11 回　文献講読　表現主義
第 12 回　文献講読　イコノロジー
第 13 回　文献講読　ゴンブリッチなど
第 14 回　文献講読　アラスなど
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・毎回相当の分量を担当し、レジュメを作成してくることを前提に、議論を通して理解を深める。
・レジュメや準備について毎回講評してフィードバックとする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
課題となっている論文を読み、担当者はレジュメを作成する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度50％、発表の成績50％で評価を行う。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
プリント配布
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『美術史学の歴史』/ウード・クルターマン著　勝　國興・髙阪一治訳/中央公論美術出版社/1996年/4.805502894E9
その他適宜紹介する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

出版・情報文化演習

280146N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
金曜 3限
ー
60
選択必修
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description）〕
識字、読解能力を基礎にした、文字情報などの情報を人が適切に理解し、利用できるリテラシー能力にみる、文字情

報を中心とした様々な書籍、文書、記録などの情報源とそれを読解し、利用する人との関わりについての研究法を学ぶ。「出版・情報文化特論」で検討したテーマの内容、研究動向をもとにして、個別の研究課題を見つけ、小論文を完成させ発表することで、文字・活字情報とそれについてのリテラシーに関わる諸分野における研究方法を学ぶ。関連事項として、国語科を中心とした学校教育、生涯学習における読解力育成、情報リテラシー教育における実践方法も検討する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕

情報と人との関わり、メディア、情報リテラシーに関係する分野についての研究動向を理解し、研究方法について実践する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	基礎的事項についての理解ができていない	基礎的事項についての理解がある程度できている	基礎的事項についての理解が十分にできている	基礎的事項に加えて、それらの背景や関連する事項について理解できる
言語力	論理的な論述が全くできない	論理的な論述が不十分	論理的な論述がある程度できる	論理的な論述が十分にできる
思考・解決力	自分なりの思考がほとんど示されていない	自分なりの思考が不十分	自分なりの思考がある程度できる	自分なりの思考が十分にできる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回　授業内容と授業の進め方についての説明
第 2 回　文字表現と文化：文献講読とディスカッション
第 3 回　インターネットにおける情報とその理解：文献講読とディスカッション
第 4 回　出版、活字メディアとその読解：文献講読とディスカッション
第 5 回　メディア、情報リテラシー教育の実践と研究（国語科教育への導入）：文献講読とディスカッション
第 6 回　情報、メディアと現代社会：文献講読とディスカッション
第 7 回　研究テーマの探求
第 8 回　研究課題の設定
第 9 回　研究方法
第 10 回　データ、資料収集法
第 11 回　データ、資料の分析と議論の展開
第 12 回　引用、参考文献の確認
第 13 回　個別発表とディスカッション
第 14 回　フィードバックの小論文への反映
第 15 回　まとめ：小論文の最終講評

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕

文献講読、ディスカッションをもとに個別のテーマを同定し、研究課題を設定し、研究方法について実践的に学ぶ。課題へのフィードバックは授業中に行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕

指定された文献を講読するとともに各自のテーマに関連する文献を検索し、講読、発表の準備をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕

小論文（６０％)、授業への参加（４０％）

〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

出版・情報文化特論

280046N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
金曜 2限
ー
60
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description)〕

文字による記録、出版を通して、また近年ではインターネットを中心とする新しいメディアによって発信される情報の性質と、それを読み、利用する人との関わりについて検討する。これについて、情報リテラシーと呼ばれる、識字、読解能力を基礎にした、文字情報などの情報を人が適切に理解し、利用できる能力を軸とし、歴史的変遷を踏まえて様々な側面から考察する。以下のテーマに焦点を絞り、テーマに関する基礎事項について講義し、先行研究を紹介、検討する。

１）文字情報を中心とした書籍、文書などの資料が持つ性質と、それを読解し、受容する人との関係。

２）情報の伝達と保存、それに関わるメディア、機関の文化と動向。

これらのテーマに関する研究動向、研究方法について理解

を深めるとともに、国語科を中心とした学校教育、生涯学習における読解力育成、情報、メディアリテラシー教育における実践面も検討する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１）情報の持つ性質について理解する。
２）情報が発信されるメディアについて理解する。
３）情報、メディアを適切に理解して利用するための知識を習得する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	基礎的事項の理解ができていない	基礎的事項の理解がある程度できている	基礎的事項の理解が十分できている	基礎的事項に加えてそれらの背景、関連する事項などを理解できる
言語力				
思考・解決力	与えられた課題について最低限の思考しか示されていない	与えられた課題についてある程度の思考が示されている	与えられた課題について十分な思考ができている	与えられた課題だけでなく、自発的に新たな課題や関連する課題を見つけたり検討することができる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回 「リテラシー」に関する諸理論と動向
第 2 回 「情報」に関する諸理論と動向
第 3 回 「メディア」に関する諸理論と動向
第 4 回 文字情報の歴史的変遷と人との関わり（書物と読書の歴史）
第 5 回 記録、文書の読解、利用における人の行動
第 6 回 出版メディアと出版物の読解
第 7 回 批判的思考力と情報の読解
第 8 回 情報リテラシー教育の理論と動向（図書館と情報リテラシー教育）
第 9 回 メディアリテラシー教育の理論と動向
第 10 回 国語科教育におけるメディアリテラシー教育の実践
第 11 回 文化情報資源
第 12 回 図書館とリテラシーの関係
第 13 回 情報、メディアと権利、倫理の問題（著作権など）
第 14 回 レポート課題について議論
第 15 回 まとめ及びレポートの講評
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各テーマ毎に参考文献を提示し、それに基づいた発表、ディスカッションを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
呈示された文献を読み、発表の準備をする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
期末レポート（５０％)、授業中の発表（２５％)、授業中のディスカッションへの参加（２５％）
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

図書館情報文化特論（子どもとメディア）

280047N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
火曜 1限
ー
60
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description)〕
読書や学習や情報探索行動は、人間にとって生涯にわたり欠かせない文化活動の一部である。生涯学習社会において、子ども時代にその習慣や方法を身につけることは重要であり、その支援は図書館の大切な役割の一つである。本特論では、(1）子どもの読書能力・読書興味の発達段階、(2）児童書と子どもの発達、(3）子どもの読書支援のための理論、(4)現代のメディアが子どもに与える影響などに関する学術研究への理解を深めることで、理論的な土台を築き、それをもとに、子どもへのよりよい図書館サービスのありかたを探る。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．子どもを取り巻くメディア環境を知る。
２．児童書と子どもの発達との関係、読書支援に対する理解を深める。
３．各自のテーマとの接点を見つける。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・思考力	子どもの読書やメディアの環境について理解していない。	子どもの読書やメディアの環境について、何が課題となっているか知っている。	子どもの読書やメディアについての行政施策や法律を知っている。	子どもの読書やメディアについてどのような環境を整備すべきか、知識に基づいて自分の意見を構築できる。

〔授業計画〕
第 1 回　序　子どもをとりまくメディアの現状
　　1．子どもの読書とメディア
　　1）子どもの読書の現状と図書館の果たす役割：講義
第 2 回　　2）子どもの読書の現状と課題：文献解読と発表
第 3 回　　3）子どもの読書の現状と課題：討論
第 4 回　2．児童書と子どもの発達
　　1）児童書と子どもの発達に関する概説：講義
第 5 回　　2）児童書と子どもの発達との関係：文献解読と発表
第 6 回　　3）児童書と子どもの発達との関係：討論
第 7 回　3．子どもへの読書支援
　　1）子どもへの読書支援の動向：講義
第 8 回　　2）現代における読書支援の傾向と課題：調査と発表
第 9 回　　3）現代における読書支援の傾向と課題：討論
第 10 回　4．子どもとメディアをめぐる諸問題：文献解読と討論
　　1）テレビゲームをめぐる議論
第 11 回　　2）ネット依存といじめ・犯罪
第 12 回　　3）知的自由をめぐる議論
第 13 回　　4）ハンディキャップを持つ子どものための情報技術の活用
第 14 回　5．まとめ
　　1）内容の振り返りと発表
第 15 回　　2）討論
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　講義、発表と特定のテーマについての討論を組み合わせて実施する。
フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．指定された文献を読み、レジュメを作成する。
２．自分でも関心のある文献を探索し、読む。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　授業中の取り組み（50％）及びレポート（50％）を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業に参加することを前提条件とする。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
プリントを配布
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に指示
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

漢文学特論

280151N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
木曜 3限
一
60
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕
1. 漢文資料の読み方を把握する。
2　漢文資料の文法を把握する。
3. 漢文資料の内容及びその歴史背景を理解する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. 授業ごとに短い漢文数編を読む。
2. 漢文の歴史背景と内容を理解した上で、文法をマスターする。
3. 授業の最終回において、提出された課題を返却し、振り返り学習をする。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業で学習した漢文資料についてほとんど理解していない。	授業で学習した漢文資料についてある程度理解している。	授業で学習した漢文資料についてほぼ理解した上で、自分なりの解釈、分析もできる。	授業で学習した漢文資料について独自な解釈、分析力をもっている。さらに、他の漢文資料にも興味を示し、積極的に読解しようと努力している。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション

第 2 回　漢文とは何か
第 3 回　漢文文法概説
第 4 回　『論語』の数編を読む　漢文の助詞について
第 5 回　『説苑』の数編を読む　漢文の否定形について
第 6 回　『説苑』の数編を読む　漢文の仮定形について
第 7 回　『論語』の数編を読むと内容分析　漢文の疑問形について
第 8 回　発表
第 9 回　『荘子』の数編を読むと内容分析　漢文の反語形について
第 10 回　『荘子』の数編を読むと内容分析　漢文の許可表現について
第 11 回　『孟子』の数編を読むと内容分析　漢文の使役形について
第 12 回　『孟子』の数編を読むと内容分析　漢文の比較について
第 13 回　『史記』の数編を読むと内容分析　漢文の受身形について
第 14 回　１.『史記』の数編を読むと内容分析　漢文の命令形について
２.　課題提出
第 15 回　まとめ。提出された課題を返却、振り返り学習。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
漢文理解においては、繰り返し読解することが基本である。漢文を熟読した上で、歴史背景や文法や、日本語における読み方などを学習していく。漢文の内容を深く読解でき、独自な解釈、分析力を持つことを最終目標とする。また、提出された課題に対する意見と評価は、最終回のまとめで行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1. 指示に従って予習復習する。
2. 授業の内容と関連する論文を数編読む。分析力を養う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
50

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、授業参加度（15%）、予習復習成果（発表を含む、15%）、レポート（70%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
授業毎にプリントを配布する。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『漢文入門』/小川環樹,西田太一郎著/岩波書店/1957/

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

聖書学演習

280129N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
水曜 1限
ー
60
選択必修
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
新約聖書の書簡の著者であるパウロの生涯と思想を知り、パウロの異邦人への宣教と初期キリスト教への理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1　パウロの生涯を知る
2　パウロの異邦人への宣教と初期の教会について学ぶ
3　パウロの思想を理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	初期キリスト教の歴史や思想を理解しようとする	初期キリスト教の歴史や思想を概ね理解できている	初期キリスト教の歴史や思想を的確に理解できる	初期キリスト教の歴史や思想を詳細な部分まで的確に理解し、創造的な問いを以て理解を深めることができる
創造・発信力	研究内容をレポートにまとめて発表しようとする	研究内容をレポートにまとめ、的確に発表できる	研究内容を的確にまとめ、わかりやすく発表することができる	研究内容を独創的な視点をもって適格にレポートにまとめ、要点を抑えながらわかりやすく発表することができる

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　聖パウロについて
第 3 回　パウロ書簡について
第 4 回　パウロの回心
第 5 回　パウロの受難
第 6 回　パウロの変容
第 7 回　教会の神秘
第 8 回　教会共同体への愛
第 9 回　フィールドワーク
第 10 回　苦難と慰め

第 11 回　不法の神秘
第 12 回　十字架の言葉
第 13 回　和解の奉仕職
第 14 回　受講者による発表
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
レポートを提出する
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
1　テキストに関連する「パウロ書簡」を読解する
2 「パウロ書簡」の中から一つの書簡を選び、その書簡の書かれた背景とパウロの思想をレポートにまとめて発表する
３　最後の授業中に、レポートについての講評を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
受講者は、テキスト『パウロの福音』を事前に読み、要約をレジュメにまとめて授業に参加する
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業中の取り組み（５０％）及びレポート（５０％）を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『パウロの福音』/カルロ　マリア　マルティーニ/女子パウロ会/2009/ISBN9784789606714/学内販売予定
『聖書　旧約聖書続編つき　（共同訳）』//日本聖書協会/2009/ISBN9784820212713/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に紹介する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

聖書学特論

280029N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 3限
ー
60
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
新約聖書のパウロ書簡『コリントの信徒への第二の手紙』の読解を通して、聖パウロの神学を理解することを目的とする。聖パウロは異邦人にキリストの福音を述べ伝えて、異邦人教会を設立した使徒である。聖パウロの創立したコリント教会についての理解を深め、コリントの信徒へのメッセージを理解し、その神学的意義を探究する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1　コリントの町を知る
2　コリントの教会について理解する
3 『コリントの信徒への第二の手紙』の背景を学ぶ
4 『コリントの信徒への第二の手紙』の神学を理解する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
聖パウロのコリント宣教の背景を理解する	聖パウロの宣教とコリントについて知ろうとする	聖パウロの宣教とコリントの町や人々について概ね理解している	聖パウロの宣教とコリントの町の地理的経済的状況と人々の信仰について自ら文献を研究して理解している。	聖パウロの宣教とコリントの町の地理的経済的状況と人々の信仰について自ら文献を研究して理解を深めることができる。
聖書釈義の力を養う	『第二コリント書』の内容を理解しようとする	『第二コリント書』の内容とパウロの言葉の意味を概ね理解している	『第二コリント書』においてパウロが述べた言葉とコリントの信徒との関係について適切に理解し、書簡の言葉の神学的意味を解明しようしている	『第二コリント書』においてパウロが述べた言葉とコリントの信徒との関係について適切に理解し、書簡の言葉の神学的意味を討議し、自分の独創的な問いを以てレポートにまとめ、発表することができる。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回 『第二コリント書』概説
第 3 回　コリントの町
第 4 回　コリントの教会
第 5 回　パウロとコリントの信徒
第 6 回　フィールドワーク
第 7 回　挨拶と祝福
第 8 回　変更された訪問
第 9 回　真正な奉仕
第 10 回　奉仕の理論と実践
第 11 回　奉仕—古いものと新しいもの
第 12 回　奉仕と死
第 13 回　イエスの命と新しい創造
第 14 回　受講者による発表
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１　『コリントの信徒への第二の手紙』と『Theology of the Second Letter to the Corinthians』を精読する。
２　割り当てられた箇所のメッセージについてディスカッションする。
３　受講生は一つのテーマを選んで参考文献を用いて研究し、学期の後半に発表してレポートにまとめる。
４　最後の授業中に、レポートについての講評を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
受講生は毎回の授業で割り当てられる聖書と英文テキストを事前に読んで、要約をレジュメする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業中の取り組み（５０％）及びレポート（５０％）を総合的に評価する。最後の授業中に、レポートについての講評を行う。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『聖書　旧約聖書続編つき（共同訳）』//日本聖書協会/2009/9.784820212713E12/学内販売予定『Theology of the Second Letter to the Corinthians』/Jerome Murphy-O'Connor/Cambridge University Press/1991/521358981/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

西洋美術特論

280152N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
月曜 3限
ー
60
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
18世紀フランスの版画について専門的な文献を読むことを通して、美術史の方法論を学び、イメージの複製についての考察を深める。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・美術史に関する英語文献を精読する
・イメージの複製について考察を深める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	ヨーロッパの版画について全く知識がない	ヨーロッパの版画について実例に触れたことがある	ヨーロッパの版画に関する専門的な研究に触れたことがある	前近代のイメージ複製技術について適切な見解を持っている
言語力	英語文献に抵抗がある	辞書を活用しながら英語文献を読み進めることができる	英語文献の内容をわかりやすくレジュメにまとめることができる	英語文献の内容を自分の研究に生かすことが出来る
思考・解決力	イメージの複製について考察したことがない	イメージの複製にまつわる問題に触れたことがある	イメージの複製に関する文献を読み、自分の意見を述べることが出来る	自分の研究とイメージの問題の関わりを考察し、自分の見解を説明できる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　文献講読と議論（１） Picturing Art History ＜Introduction　美術史と図版＞
第 3 回　文献講読と議論（２） Colorful Impressions＜1730年以前の色刷り版画　15世紀＞
第 4 回　文献講読と議論（３） Colorful Impressions＜1730年以前の色刷り版画　16世紀以降＞
第 5 回　文献講読と議論（４） Colorful Impressions＜18世紀フランスにおける色刷り版画の販売　広告について＞
第 6 回　文献講読と議論（５） Colorful Impressions＜18世紀フランスにおける色刷り版画の販売　室内装飾への利用＞
第 7 回　文献講読と議論（６） Colorful Impressions＜18世紀の色刷り図版の技術　＞
第 8 回　文献講読と議論（７） Colorful Impressions＜コレクターたちの視線＞
第 9 回　文献講読と議論（８） Colorful Impressions＜色刷り版画の具体例＞
第 10 回　文献講読と議論（９） Versified Prints＜詩をつけられた複製版画について＞
第 11 回　文献講読と議論（１０） Versified Prints＜具体例　版画化・詩の付与の様々なパターン＞
第 12 回

文献講読と議論（１１） Versified Prints＜具体例　連作など＞
第 13 回　受講者による発表（各自の研究における図版の位置づけについて）
第 14 回　受講者による発表（現代の複製図版について）
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
・文献をあらかじめ読み、担当者の作成したレジュメをもとに議論する。
・レジュメと準備の内容、または発表内容について、毎回講評してフィードバックとする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
課題箇所を読み、担当者はレジュメを作成する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度50％・課題の成果50％とする。

〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『Picturing Art History』/Ingrid R. Vermeulen/Amsterdam University Press/2010/9789089640314/ 学内販売無
『Colorful Impressions』/Margaret Morgan Grasselli/ National Gallery of Art, Washington/ 2003/ 0853318921/ 学内販売無
『Versified Prints』/W.McAllister Johonson/University of Tronto Press/ 2012/ 9781442642850/ 学内販売無
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
適宜紹介する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

280161A0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 1限
ー
必修
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。フィードバックは個別指導によって行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

280161B0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
金曜 1限
ー
必修
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

280161C0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
月曜 1限
ー
必修
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

研究力	大学院での研究について理解できていない。	大学院での研究について少し理解できているが、研究方法はあまり把握していない。	自らの研究力がある。研究方法もある程度把握している。	自らの研究力がある。研究課題と研究方法をしっかりと把握している。

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

280161D0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
木曜 3限
ー
必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

280161G0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 1限
ー
必修
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

280161H0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 3限
ー
必修
石川　裕之

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する

３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

280161I0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
月曜 1限
ー
必修
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

280161J0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
火曜 2限
ー
河野　有時

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅰ

280161E0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 1限
ー
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

280162A0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 1限
ー
必修
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description)〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。フィードバックは、口頭または提出物へのコメント記入によって行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

280162B0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
金曜 1限
ー
必修
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description)〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

280162C0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
月曜 1限
ー
必修
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description)〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	研究テーマについて全く考えていない	研究テーマについて考えているが、文献調査は不十分である。	研究テーマについて考えている。文献調査もほぼ出来ている。	ユニークな研究テーマを考えることができ、文献調査も十分に出来ている。

〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162D0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 3限
ー
必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

280162G0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
金曜 4限
ー
必修
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

280162H0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
月曜 1限
ー
必修
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

280162I0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
火曜 2限
ー
必修
河野　有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

280162E0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 1限
ー
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究 II

280162J0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
水曜 3限
ー
石川　裕之

〔科目の教育目標（Course Description)〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字x５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

280163A0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
火曜 4限
ー
必修
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。フィードバックは、口頭または提出物へのコメント記入によって行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

280163B0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め :「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集 : 先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは : 客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分...口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

280163C0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 3限
ー
必修
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	中間発表に向けての文献調査、論文執筆の意欲がまったくない。	中間発表に向けての文献調査、論文執筆の意欲はあるが、創造力、発信力は不十分である。	中間発表に向けて文献調査、論文執筆の意欲がある。中間発表もほぼできている。	中間発表に向けて文献調査、論文執筆の意欲がある。質の高い中間発表ができる。

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163D0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
月曜 1限
ー
必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

280163F0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 2限
ー
必修
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

280163G0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

280163H0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
必修
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

280163I0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
ー
必修
河野　有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

280163E0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究III

280163J0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
ー
石川　裕之

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔授業計画〕
第 1 回

修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

280164A0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
火曜 4限
ー
必修
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。フィードバックは、口頭または提出物へのコメント記入によって行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

280164B0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

280164C0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
水曜 3限
ー
必修
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する

２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
修士論文の完成度	修士論文を完成できない。	文献調査、論文執筆に取り込んでいるが、修士論文の完成度が低い。	積極的に文献調査、論文執筆に取り込んで、一定レベルの修士論文が完成できる。	積極的に文献調査、論文執筆に取り込んで、質の高い修士論文が完成できる。

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164D0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
月曜 1限
一
必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

280164F0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
水曜 2限
ー
必修
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

280164G0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）

第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕
0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

280164H0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
必修
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

280164I0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
ー
必修
河野　有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

280164E0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）

第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究Ⅳ

280164J0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
ー
石川　裕之

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

読書支援プログラム演習

280117N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
火曜 1限
ー
60
選択必修
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description）〕
この演習では、子どもたちに対する読書支援として、どのようなプログラムが実施されているかを知り、その特徴や課題について考察することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．日本・米国・英国を中心に、子どもへの読書支援のために現在実施されている国の施策や民間の取組について学ぶ。
２．図書館を中心に行われている子どもたちへの読書支援のプログラムについて学ぶ。
３．国語科教育と読書支援との関連性について学び、考察する。
４．子どもたちへの読書支援の取組が、現在抱えている課題について考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解・思考力	子どもの読書に関する行政施策について知らない。	日本における子どもの読書に関する行政施策について具体的なことを知っている。	海外の子どもの読書に関する行政施策を知り、日本との違いを理解している。	読書に関する行政施策の課題について、自分の意見を持って、他者と議論することができる。

〔授業計画〕
第 1 回　日本における読書支援プログラムの現状と課題（１）　行政施策
第 2 回　日本における読書支援プログラムの現状と課題（２）　学校での取り組み
第 3 回　日本における読書支援プログラムの現状と課題（３）　社会の取り組み
第 4 回　日本における読書支援プログラムの現状と課題（４）　発表・問題提起
第 5 回　米国における読書支援プログラムの現状と課題（１）　行政施策
第 6 回　米国における読書支援プログラムの現状と課題（２）　ファミリーリテラシープログラム
第 7 回　米国における読書支援プログラムの現状と課題（３）　貧困家庭・少数民族の子どもたちへの支援
第 8 回　米国における読書支援プログラムの現状と課題（４）　発表・問題提起
第 9 回　英国における読書支援プログラムの現状と課題（１）　行政施策とブックスタート
第 10 回　英国における読書支援プログラムの現状と課題（２）　ハンディキャップを持つ子どもたちへの支援
第 11 回　英国における読書支援プログラムの現状と課題（３）　学力向上政策との関わり
第 12 回　英国における読書支援プログラムの現状と課題（４）　発表・問題提起
第 13 回　図書館における読書支援プログラムの現状と課題
第 14 回　国語科教育と読書支援の関連とその課題
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
１．基本的な事項や事例を文献等で学ぶ。
２．各自が関心を持った読書支援プログラムについて、法律・施策・取組事例及びその研究について調べ、その特徴と課題について考察する。
３．提出物に対するフィードバックは、口頭および提出物へのコメント記入によって行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．法律やニュース報道などに、日頃から関心を持つ。
２．文献をできるだけ多く読む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
平常点及び授業中の課題発表50％、学期末レポート50％で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕
フィールドワークやゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
プリントを配布

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に紹介

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
京都市、福知山市、大阪府などの自治体において、委員長または委員として、子ども読書活動推進計画の策定に携わっている。

日中言語交流史演習

280119N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 1限
ー
60
選択必修
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕
中国では宣教師たちの尽力によって、早くから辞書の編纂と聖書の翻訳が手がけられた。これらの成果は当然日本の英学及び西洋知識の学習に影響を与えた。この科目は幕末と明治初期の和英字典と翻訳書づくりにおける英華字典の影響について研究し、多文化理解における漢語と漢字の重要性を明らかにしたい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.　和英字典と華英字典の語彙比較とお互いの影響に関する文献を講読する。
2. 和製漢語作りにおける日本人の漢語力とその役割を把握する。
3. 授業の最終回において、レポートを返却し、振り返り学習をする。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	日中間の漢字語彙交流について全く理解していない。	日中間の漢字語彙交流について少し理解出来る。発表にも参加する。	日中間の漢字語彙交流について理解し、発表にも参加する。その上、議論にも積極的に参加する。	日中間の漢字語彙交流について理解し、議論にも積極的に参加する。質の高い発表ができる。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　日中言語交流における宣教師の役割
第 3 回　宣教師の翻訳と漢語の役割Robert Morrison）と「華英・英華字典」(1815-1823)
第 4 回　モリソン（Robert Morrison）「華英・英華字典」(1815-1823)の日本への影響ー唐通事の場合
第 5 回　モリソン（Robert Morrison）「華英・英華字典」(1815-1823)の日本への影響ー蘭通詞の場合
第 6 回　ロブシャイト（W. Lobscheid）『英華字典』（1866-1869）の日本への影響
第 7 回　発表1ー宣教師と日本の西書伝来について
第 8 回　福沢諭吉の『増訂華英通話』（1860）
第 9 回　堀達之助と『英和対訳袖珍辞書』（1862）
第 10 回　中村敬宇と『英華和訳字典』（1879）
第 11 回　発表2ー幕末明治期の日本人と洋学
第 12 回　英華字典、英和字典を通して、日中共通語彙について考察
第 13 回　英華字典、英和字典を通して、宣教師と日中共通語彙について考察
第 14 回　発表3ー宣教師と洋学者の交流について、レポート提出
第 15 回　まとめ。レポート返却、振り返り学習
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
資料の講読を中心とするが、受講生の発表も重視する。 また、発表後に提出されたレポートに対する意見と評価は、最終回のまとめで行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1. 日中近代語彙に関する文献と論文を丁寧に読む。
2. 関連する研究会に参加することを推奨する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
50
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、授業参加度（15％）、予習復習成果（発表を含む、15％）、レポートト（70％）に基づいて総合的に行う。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
授業毎にプリントを配布する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『近代日中学術用語の形成と伝播　地理学用語を中心に』/荒川清秀/白帝社/　1997年/
『近代日中新語の創出と交流』/朱京偉/白帝社/　2003年/
『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』/朱鳳/白帝社/2009年/
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本近代詩特論

280038N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
木曜 4限
ー
90
河野　有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕
「ことば」には「話しことば」と「書きことば」があり、「書きことば」に口語体と文語体がある。それを用いるに、詩は文語から口語へと移行したのに対して、短歌は文語を残した短歌文体へと至った。この授業では、詩歌における文語と口語の諸相から、詩歌の近代の姿を捉えることを目標

とする。また、用語が選び取られる背景やその選択が詩歌の表現にどのように作用したかを明らかにすることを目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕

１．文語から口語へという移行を背景とした詩歌の変遷を理解する。

２．文語表現と口語表現の性質の違いを考察する。

３．文語詩と口語詩、それぞれの詩的世界の成り立ちを捉える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み課題を発展的に考察することができる。
「文語」と「口語」に対する知識・理解力	「文語」と「口語」について理解できていない。	「文語」と「口語」について理解できている。	「文語」と「口語」について理解し、その変遷を把握できている。	「文語」と「口語」について理解し、その変遷や背景を捉えている。
文語表現と口語表現に対する理解力	文語表現と口語表現の違いを理解できていない。	文語表現と口語表現の違いを理解できている。	文語表現と口語表現の違いを理解し、それぞれの特質を把握できる。	文語表現と口語表現の違いを理解し、それぞれの特質を説明できる。
文語詩と口語詩を読み味わう力	文語詩と口語詩を読み味わうことができない。	文語詩と口語詩を読み味わうことができる。	文語詩と口語詩を言葉や表現に即して読み味わうことができる。	文語詩と口語詩を言葉や表現に即して読み味わい、詩の原理について考察できる。

〔授業計画〕

第 1 回
　　イントロダクション

第 2 回
　　文語と口語

第 3 回
　　日本近代文学と言文一致運動

第 4 回
　　近代短歌史概観

第 5 回
　　口語短歌の試み

第 6 回
　　『池塘集』の世界

第 7 回
　　短歌文体の創出

第 8 回
　　現代短歌における口語と文語

第 9 回
　　近代詩史概観

第 10 回
　　文語定型詩を読む

第 11 回
　　近代詩歌と自然主義

第 12 回
　　散文詩という問い

第 13 回
　　口語自由詩の世界

第 14 回
　　口語自由詩と萩原朔太郎

第 15 回
　　まとめと今後の課題

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕

１．授業は主として講義形式で行うが、詩歌の読解については演習形式で進める。

２．プリントを配布して教材として活用する。

３．授業の終了時に授業や発表内容にかかわる感想、意見を提出する。

４．発表時の課題については次回の授業において補足説明を行う。

５．最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕

1. 作品が作られた年代の文芸思潮を捉えておく。
2. 参考文献や資料を読み、用語に対する理解を深めておく。
3. 用語に留意しながら作品を読んで、自分の感じたことをまとめておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕

評価は、授業参加度（４０％）とレポート（６０％）とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語学演習

280115N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
水曜 1限
ー
60
選択必修
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description）〕
久米邦武『特命全権大使 米欧回覧実記』や明治初期の文献資料を読み、近代黎明期の国語に親しむとともに、そこで用いられている翻訳語や漢字語彙について理解を深める。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. テキストを読み、明治初期の文章について理解を深める
2. 明治初期の翻訳語や漢字語彙について考察する
3. 関連する文献･資料（近代語に関する研究論文など）を読む
4. テキスト講読を通してテーマを設定し、研究レポートを書く
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文献を読み、研究課題にとりくむ	文献を読むことができず、研究課題にとりくむことができない	文献をある程度読むことができ、研究課題にとりくむことができる	文献をかなり読むことができ、研究課題に積極的にとりくむことができる	文献を深く詳細に読むことができ、研究課題にきわめて積極的にとりくむことができる

〔授業計画〕
第 1 回　導入授業
第 2 回　「桑方斯西哥港」の章他
第 3 回　「印甸土人」の章
第 4 回　「哈馬哈府」の章
第 5 回　「上水」の章
第 6 回　「黒人」の章
第 7 回　「印書局」の章
第 8 回　「新約克府」の章
第 9 回　「言語風俗」の章
第 10 回　「蒸気軸車」の章
第 11 回　「少年教会堂」の章
第 12 回　明治初期の新聞を読む
第 13 回　明治初期の雑誌を読む
第 14 回　明治初期の書簡を読む
第 15 回　最終試験とまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
１．明治初期に書かれた文章を講読する
２．テキストに記載されている語彙や漢字について、解釈を行う
３．受講生の専攻分野を考慮し、その方面の文献講読を行うこともある。
４．予習課題、授業内容に関する補足などを、manabaやメールで指示・連絡する
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
事前に指示された調査課題の準備・研究
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究に取り組む姿勢４０％、最終試験の成績６０％で評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
受講生の専攻分野や関心領域を考慮し、授業予定は変更する場合がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
プリントを配布する
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中にその都度指示する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語学特論

280034N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
木曜 3限
ー
60
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description）〕
古代和歌をいくつか選び、語学的な視点から分析し、各作品の解釈・鑑賞を行うとともに、研究レポートを書く。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.古代和歌の語法・語彙について研究する
2.古代和歌に関する研究文献を読む
3.古代和歌に関する研究レポートを書く
4.受講生の関心分野を考慮し、その方面の文献講読を行う
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
古代和歌に関する知識・理解	古代和歌に関する知識・理解が乏しく、研	古代和歌に関する知識・理解があり、研究	古代和歌に関する知識・理解が相当程度あ	古代和歌に関する深い知識・理解があり、き

	究能力が低い	能力をある程度有する	り、すぐれた研究能力を有する	わめてすぐれた研究能力を有する

〔授業計画〕
第 1 回　導入授業　—授業の方針
第 2 回　万葉集を読む　1
第 3 回　万葉集を読む　2
第 4 回　万葉集を読む　3
第 5 回　万葉集を読む　4
第 6 回　私家集を読む　-　平安時代１
第 7 回　私家集を読む　-　平安時代２
第 8 回　私家集を読む　-　平安時代３
第 9 回　私家集を読む　-　平安時代４
第 10 回　私家集を読む　-　鎌倉時代
第 11 回　私家集を読む　-　室町時代
第 12 回　私家集を読む　-　江戸時代
第 13 回　私撰集を読む　-　平安時代
第 14 回　私撰集を読む　-　鎌倉時代
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
受講生の講読発表を中心に進める。予習課題、授業内容に関する補足などを、manaba等で指示・公開する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
事前に指示された調査課題や文献資料の講読課題に取り組む
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究・発表への姿勢４０％、総合評価試験の成績６０％で評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
受講生の専攻分野や関心領域を考慮し、授業予定は変更する場合がある
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
プリントを配布する
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『新編国歌大観』//角川書店//
『日本国語大辞典』//小学館//
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語教育特論

280051N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 3限
ー
90
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description)〕
外国語としての日本語の教育について、現代日本語研究や日本語の史的研究の成果を踏まえつつ、日本語教授法やカリキュラム・教材開発の研究法について実践的に学修し、国語教育や学校教育との関係についても考察する。日本語教育の基本的知識を前提として、受講者の関心領域を考慮しつつ、科目の具体的な目標は、柔軟に設定できるよう考慮・調整する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．現代日本語の音韻・文法・語彙の諸問題について、考察を深める
２．日本語の歴史的研究の知見についても、必要に応じて、考察する
３．日本語教育における教授法やカリキュラム・教材開発について知見を深める
４．外国人児童・生徒への学校教育や国語教育の方法上について、理解を深める
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
日本語教育への理解	日本語教育の具体的課題について、理解が乏しく、努力もしていない	日本語教育への具体的課題について、ある程度理解でき、それなりに努力して調査・記述することができる	日本語教育への具体的課題について相当程度理解でき、努力して調査・記述することができる	日本語教育への具体的課題について、深く理解でき、きわめてよく努力して調査・記述することができる

〔授業計画〕
第 1 回　導入　授業の方針
第 2 回　現代日本語研究　—音韻論
第 3 回　現代日本語研究　—文法論　アスペクト、モダリティなど
第 4 回　現代日本語研究　—文法論　副詞など
第 5 回　現代日本語研究　—文法論　助詞など
第 6 回　現代日本語研究　—文法論　条件節
第 7 回　現代日本語研究　—語彙論　漢語
第 8 回　現代日本語研究　—語彙論　和語
第 9 回　日本語教授法の研究　—日本語教育の現状分析
第 10 回　日本語教授法の研究　—コースデザイン

第 11 回　日本語教授法の研究　—異文化間教育の諸問題
第 12 回　日本語教授法の研究　—日本語教育の歴史
第 13 回　日本語教授法の研究　—実践研究
第 14 回　日本語教授法の研究　—指導計画
第 15 回　模擬授業の実践とフィードバック
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．各分野の研究書や論文等、文献に触れる
２．さまざまな実践報告や指導計画に触れる
３．指導計画にもとづき、模擬授業を行う
４．日本語教育能力検定試験の問題に取り組む
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．事前に文献を読み、論点を把握する
２．指定された課題に取り組む
３．模擬授業を行うための指導計画を立てる
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業に取り組む姿勢、模擬授業実践、指導計画の内容、最終レポートなどを総合的に評価する
〔留意事項（Other Information)〕
日本語教員資格を有する者が履修することが望ましい
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
適宜プリントを配布する
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『講座日本語と日本語教育　全１６冊』/宮地裕他編/明治書院//
『講座・日本語教育学　全６巻』/縫部義憲監修/スリーエーネットワーク//
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
大阪外国語大学外国人研究生日本語チューター（1983～4年）同志社国際高校帰国生徒クラス（1984年）大阪外国語大学留学生別科日本語科目（1985～1986年）など、留学生や帰国生徒に対する日本語教育を担当した

日本文学演習

280120N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 4限
ー
60
選択必修
河野　有時

〔科目の教育目標（Course Description)〕
私たちが文学作品に対するとき、私たちは何らかの立場や見方によって解釈を行っている。私たちは多くの場合そのことを意識して読書しないが、この授業ではそういう立場や見方に自覚的なることを目標とする。それにより、文学研究における多様な立場や見方としての方法や理論への理解を深めることを目指す。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．文学研究の方法を理解する。
２．文学研究に用いられる術語の意味を理解する。
３．読書行為と作品の関係性を理解する。
４．文学研究の方法や術語について解説し、課題を論述する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとすることができていない。	課題に主体的に取り組んでいる。	課題に主体的に取り組み、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組み、課題を発展的に考察することができる。
文学研究に関する知識	文学研究に用いられている術語について理解できていない。	文学研究に用いられている術語について理解している。	文学研究に用いられている術語について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	文学研究に用いられている術語について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。
文学研究に対する理解力	文学研究の方法について理解することができていない。	文学研究の方法について理解している。	文学研究の方法につ理解し、他の文献や術語を調べることができる。	文学研究の方法について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。

課題について発表する力	課題を整理し解説することができない。	課題を整理し解説することができる。	課題を整理し解説し、問題点を見つけることができる。	課題を整理し解説し、問題点を論述することができる。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　批評理論の展開
第 3 回　作家と作者
第 4 回　作者と読者
第 5 回　作品とテクスト
第 6 回　語りと語り手
第 7 回　フェミニズム批評
第 8 回　都市と文学
第 9 回　図像と文学
第 10 回　詩と散文
第 11 回　文学史とは
第 12 回　出版とメディア
第 13 回　文学研究とサブカルチャー
第 14 回　国語教育と文学研究
第 15 回　まとめと今後の課題
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．授業は演習形式で行う。
２．担当者は発表にあたって資料を収集し準備する。
３．準備した資料に即して発表し、他の受講者と議論する。
４．授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出する。
４．議論によって明らかになった課題について次回に補足説明する。
５．最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
1. 担当箇所に出てくる術語の意味を調べる。
2. 担当箇所に関連する参考文献や資料を読み、自分の考えをまとめておく。
3. 担当箇所を分かりやすく解説するためにはどのように表現すべきか検討する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、授業参加度（４０％）と発表内容（６０％）とに基づいて総合的に行う。
〔留意事項（Other Information)〕
テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
プリントを配付する。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文化学研究実践論

280015N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
水曜 3限
一
60
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description)〕
この授業では、研究方法や研究発表の方法について学び、それをもとに自分でも研究発表をしてみることによって、研究を進めていく上での適切なプロセスを身につける。そして、M1の１月に実施される「構想発表会」を成功させることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．自分の研究に適した研究方法を見つける。
２．他の人の研究発表から、適切な研究方法や効果的な研究発表の方法を学ぶ。
３．よりよい形での研究発表を実践する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	研究実践論について全く理解していない。研究実践しようともしない。	研究実践論について、ある程度の理解があるが、授業での研究発表、議論にあまり参加しない。構想発表の完成度が低い	研究実践論について理解がある。授業での研究発表、議論にも参加する。構想発表はある程度できる。	研究実践論について理解があり、授業での研究発表、議論にも参加し、構想発表の完成度が高い。

〔授業計画〕
第 1 回　前期の「研究方法論」の授業内容の復習
第 2 回　論文テーマの発表（各自）とその研究方法に関する議論
第 3 回　研究テーマと研究発表方法の関連について整理（サンプル論文利用）
第 4 回　自分が選んだ文献の紹介(1)図書
第 5 回　自分が選んだ文献の紹介(2)論文
第 6 回　自分が研究発表する可能性のある「学会・研究会」の種類の調査と報告
第 7 回　自分の研究分野に関する「学会・研究会」の参加報告
第 8 回　授業内における模擬研究発表(1)導入

第 9 回　授業内における模擬研究発表(2)運用
第 10 回　授業内における模擬研究発表(3)応用
第 11 回　「学会・研究会」での研究発表(1)導入
第 12 回　「学会・研究会」での研究発表(2)応用
第 13 回　各自の修士論文に関する研究方法の決定と具体的な作業予定の確定
第 14 回　修士論文の構想発表会の実施
第 15 回　構想発表会の報告とこれからの見通しを発表（その内容は、この授業の最終レポートとして提出すること）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
授業時の議論、研究発表を組み合わせて行う。発表に対するフィードバックは発表時の質疑応答において行い、レポートへのフィードバックは提出後学生に口頭で行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、構想発表を含む研究発表とレポート80％、授業時の議論への参加20％とする。

〔留意事項（Other Information)〕
特に第1回～3回は、前期における研究の導入とそれを今後の研究に発展させていく接続の意義を持つ内容である。院生一人ひとりが大学院の研究についての明確な意識をもって臨むことが求められる。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文化学研究方法論

280014N0J
大学院
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
火曜 2限
ー
60
必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目の目標は、大学院において修士論文を書くための明確な理念をたて、必要な心構えと作法を学び、しっかりとした方法論を構築することである。そのことにより、各自が論文の基本構想を組み立て、それに沿って大学院における研究成果としての修士論文を書き上げられるようにする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.問題提起
2.論文の内容・形式
3.先行研究の調査・整理の意義
4.方法論の選択と確立
5.結果・成果のまとめ
6.引用・参考文献の重要性

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	研究計画をたてることができない	目標を設定し、研究計画をたてることができる	目標を実現可能な研究計画をたて、実際に研究を進めることが出来る	状況に応じて柔軟に対応しつつ研究の進行管理をすることができる
知識・理解力	学術的な研究について知識があいまいである	研究活動に関する初歩的な知識をもち、学術論文の作法を知っている	研究活動の実例を知ったうえで、自分の目指す研究を明確にしている	自分の研究活動を現在の研究動向の中に客観的に位置づけることが出来る
言語力	研究活動に関する様々な用語を理解していない	研究活動に関する諸事項を理解し、説明できる	自分の研究内容を学術的にプレゼンすることが出来る	自分の研究活動の意義をアピールするプレゼンが出来る
思考・解決力	研究活動の意味や方法について考察したことがない	研究活動の様々な方法論に触れたことがある	自分の研究の方法について明確に説明することが出来、実際に試行している	自分の方法論を現在の研究動向の中に位置づけ、その限界や可能性を論じることが出来る
共生・協働する力				
創造・発信力	研究テーマを模索している	先行研究を踏まえたうえで自分が意義を感じるテーマを設定している	自分のテーマの学術的な意義を説明できる	自分のテーマの魅力を幅広い対象に向けて説明できる

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　研究に関わる様々な組織（学会、学術誌、研究機関など）

第 3 回　論文テーマの選び方、問題意識
第 4 回　先行研究の調査、検索、収集の重要性と実践
第 5 回　収集文献の整理
第 6 回　方法論1
第 7 回　方法論2（外国文学など　ゲスト・スピーカー）
第 8 回　方法論3（日本文学など　ゲスト･スピーカー）
第 9 回　論文の基本コンセプト発表・議論　第１段階
第 10 回　論文の形式
第 11 回　論文の表現
第 12 回　プレゼンテーションの方法
第 13 回　中間の研究経過報告に求められる内容
第 14 回　論文の基本コンセプト発表・議論　第２段階
第 15 回　論文の執筆計画とまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・講義
・論文読解
・オンライン検索
・資料収集
・発表
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・文献読解
・読解したものの要約
・発表用のレジュメ作成
・発表用のパワーポイント資料作成
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
・レポート（50%）
・発表（30%）
・授業参加・課題（20%）
〔留意事項（Other Information）〕
研究分野別の視点から方法、先行研究、書誌情報、あるいは分野の特殊なアカデミックな姿勢などについての導入を行うため、ほかの教員がゲストスピーカーとして参加することもある。また、外部講師による授業やワークショップを行ったり、授業で学外フィールドワークへ出かけたりすることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
特定のテキストは使用しないが、授業で配布する資料などでそれに代える。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
特になし。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

音楽教育特論

270141N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
金曜 1限
ー
90
古庵　晶子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
我が国及び諸外国の音楽教育の歴史・目的（内容を含む）について比較・考察し、音楽教育のあり方について研究する。生涯にわたって音楽を愛好する姿勢を育むため、学校教育における音楽科教育の在り方とはどうあるべきか。その課題に向けた望ましい教育方法を考案する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
我が国及び諸外国の音楽教育の歴史・目的について理解する。
今日的課題や音楽科教育の現状を明らかにし、その解決方法を編み出す。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	音楽科教育について関心がない。	どのようにしたら演奏がうまくできるのか、わからない。	良い指導ができるスキルを身に着けたいと考えている。	音楽の指導方法について、様々な視点で考えることができる。
知識・理解力	小学校音楽科教科書の内容で理解できない項目がある。	小学校音楽科教科書の内容で、未知のものに対する意識が持てない。	教科書ばかりでなく、様々な音楽についての知識が足りないことに気づく。	いろいろな音楽に興味を持ち、自ら調べたり聴いたりして知識を増やす努力をする。
言語力	音楽科教育についての基本的な考え方を説明できない。	それぞれの曲のイメージを言葉にできない。	曲のイメージを言葉にし、相手に伝えることができる。	音楽的なものの見方が出来、論じることが出来る。
思考・解決力	音楽科教育の課題について、特に思い浮かばない。	音楽科教育の問題に気づくことはできるが、自分の力で変えたいとは思わない。	音楽科教育の課題をみつけ、解決方法を見出す。	実際に児童と関わり、実践を通して新たな課題を見つける。
共生・協働する力	協働作業としての音楽演奏についての重要性を理解できない。	合奏や合唱の楽しさを感じない。	アンサブルに前向きに取り組む。	合奏や合唱指導について、自分なりの見解を持っている。
創造・発信力	自ら教材を探す・作るという工夫がない。	どのような教材やどのような内容が必要なのか、考えることができる。	教材をアレンジするなど、指のアイデアが浮かぶ。	主要教材や副教材として相応しい楽曲を探すことができる。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　学校教育における音楽教育
第 3 回　5領域における音楽
第 4 回　教授・学習過程の検証①　学習内容
第 5 回　教授・学習過程の検証②　指導方法
第 6 回　幼小連携と小中連携について
第 7 回　サウンドエデュケーションと創造的音楽学習
第 8 回　他教科との連携
第 9 回　多様な音楽文化とニューカマーの問題
第 10 回　インクルーシブ教育における音楽
第 11 回　音楽教育の必要性と教師に求められる実践力
第 12 回　成人学習と音楽学習
第 13 回　高齢者学習と音楽学習
第 14 回　音楽教育の必要性と教師に求められる実践力
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
文献講読
専攻研究をもとに、望ましい音楽教育の在り方を研究する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
指示した文献については事前に読み込み、内容を把握しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究に対する積極的な姿勢、レポートや文献講読によるディスカッションをもとに総合的に判断して評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
適宜指示する。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家族関係･集団･地域社会における心理支援に関する理論と実践

270422N0J
大学院
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
60
佐藤　純　河瀬　雅紀　村松　朋子　森谷　寛之

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、集団に焦点をあてた心理学的支援に関する理論とそれに基づく心理実践の実際について学ぶ。すなわち、家族や集団内力動および地域援助などへの理論的理解を深め、心理学的支援の方法を習得する。
そこで本科目では、以下のことを目標とする。
①家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法と実践について説明できる
②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について説明できる
③心理に関する相談、助言、指導等へ、上記①及び②を応用することができる
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
①家族の心理的支援における理論と方法について説明できる。
②家族関係などの集団の関係性と地域社会や集団・組織に働きかける心理的援助に関する理論と方法について説明できる。
③家族関係、地域社会に焦点を当てた心理的支援に関する相談・援助・指導などについて学び、包括的に理解し、説明することができる。
④地域社会における自殺対策と心理的支援について説明できる
⑤地域社会におけるひきこもり対策と心理的支援について説明できる
⑥がん患者のピアグループと心理的支援について説明できる
⑦精神障害者の地域生活支援について説明できる
⑧精神障害者の家族支援について説明できる
⑨精神障害者の訪問家族支援について説明できる
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　家族システムと心理的支援（村松）
0
第 2 回　家族を理解するための概念と家族療法（村松）
0
第 3 回　家族への臨床的アプローチ（１）思春期・青年期の問題と家族への心理的支援（村松）
0
第 4 回　家族への臨床的アプローチ（２）夫婦の問題と心理的支援 （村松）
0
第 5 回　個人へのエンパワメントと集団（家族）・コミュニティへのエンパワメント（村松）
0
第 6 回　地域社会における自殺対策（概要）（河瀬）
0
第 7 回　地域社会における自殺対策（事例による議論）（河瀬）
0
第 8 回　ひきこもりをモデルにした地域社会での支援のありかた（概要）（河瀬）
0
第 9 回　ひきこもりをモデルにした地域社会での支援のありかた（事例による議論）（河瀬）
0
第 10 回　がん患者をモデルにした地域社会での支援のありかた（ピアグループを中心に）（河瀬）
0
第 11 回　精神障害者の地域生活支援（アウトリーチとは何か）（佐藤純）
0
第 12 回　精神障害者の地域生活支援（アウトリーチの実際）（佐藤純）
0
第 13 回　精神障害者の家族支援（家族心理教育とは何か）講義（佐藤純）
0
第 14 回　精神障害者の家族支援（家族心理教育の実際）（佐藤純）
0
第 15 回　精神障害者の訪問家族支援（行動療法的家族支援）（佐藤純）
0
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
講義と討論で授業を進める。講義では問題解決に向けた思考力を養い、討論では実践的方法を主体的に考察する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
家族関係・集団・地域社会さまざま問題や葛藤に関心を持ち、関連する文献を参照して講義でのディスカッションに参加できるよう準備すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度100点で評価する
〔留意事項（Other Information)〕
講義の日程および講義の予定（順序）は決まり次第公表する
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
特になし
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子（著）有斐閣ブックス
『臨床心理地域援助研究セミナー』/野島一彦編/至文堂 //
『コミュニティ心理学』/山本和郎/東京大学出版会//
『がん患者　グループ療法の実際』/河瀬雅紀/金芳堂//

〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫河瀬雅紀　実務経験あり：精神科医として医療機関等での勤務経験あり
村松朋子　実務経験あり：臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり
佐藤純　実務経験あり：精神保健福祉士として行政での実務経験あり

学校カウンセリング特論(教育分野に関する理論と支援の展開)

270416N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
金曜 4限
ー
90
福山　幸子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
学校カウンセリングは、現在、急速にその守備範囲を拡げてきている。学校現場では、児童生徒自身の問題はもとより、学校の抱える問題、家庭（保護者）の問題、社会・地域の問題などが互いに関連して表面化する。いじめ、学級崩壊、校内暴力、不登校、家庭内暴力、ひきこもり、児童虐待も大きな問題である。また、特別支援教育として、発達障害の児童生徒への支援も注目されている。本講義においては、学校カウンセリングに必要な種々の技法の実習を行い、その習得を目指す。また、受講生の事例発表なども通して、学校カウンセリングのあり方についての理解を深めていきたい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・学校カウンセリングとは何かを学ぶ
・学校における心理士の存在意義について学ぶ
・学校カウンセリングにおいて使用できる各種療法に関して、実習を通じて学ぶ
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　学校心理士とは何か
第 2 回　学校心理士が行う仕事を学ぶ
第 3 回　学校におけるカウンセリングについて（小学校）
第 4 回　学校におけるカウンセリングについて（中学校・高校）
第 5 回　学校におけるコンサルテーションについて
第 6 回　学校におけるコンサルテーションに関する問題点について
第 7 回　コーディネーション／チーム学校
第 8 回　学校における緊急対応について
第 9 回　査定と見立て
第 10 回　フィールドワーク（適応指導教室見学①）
第 11 回　フィールドワーク（適応指導教室見学②）
第 12 回　学校で施行する技法を学ぶ（箱庭療法）
第 13 回　学校で施行する技法を学ぶ（描画）
第 14 回　事例研究を行う
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
学校とは、独特な場である。学校で働く心理師（士）は、学校で出会うクライエントを理解する前に学校を理解する必要がある。そのため、本講義では、実習・フィールドワークも併用しながら、学校における心理師（士）のあり方を探索していきたい。
　講義・実習・フィールドワークを行なうごとにレポートの提出を求める。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
学校心理士とは何かについて、文献検索・熟読の後、講義に臨むこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
講義への参加態度（授業内でのディスカッション参加態度を含む）40%・課されたレポートの内容60%の評価とする。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

学校心理学特論Ⅰ（学習心理）

270051N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
月曜 4限
ー
60
発達・学校心理学専攻は必修
廣瀬　直哉

〔科目の教育目標（Course Description）〕
学習は、心理学において古くから取り上げられてきた古典的なテーマの一つである。また、近年の学習科学などの新たな領域においても、学習は中心的な概念として取り上げられている。心理学における学習の研究は、知覚=運動学習、概念学習、社会的学習など幅広い分野で行われているが、本特論では、主に学校教育における学習の過程に焦点を当てる。そして、学習に関する心理学分野での最近の文献をもとにして、学習を支援する学校教育の役割について考察を深めて行きたい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. 学習に対する心理学的アプローチの理解
2. 様々な知識の獲得過程についての理解
3. 学習における協調と学習環境についての理解
4. 学習における動機づけと学習指導についての理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学習科学に関する概念・知識を理解し、説明することができない。	学習科学に関する概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して問題解決をすることができる。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　学習科学の基礎
第 3 回　記憶と知識獲得
第 4 回　言語的知識の獲得
第 5 回　数学的知識の獲得
第 6 回　科学的知識の獲得
第 7 回　問題解決と理解
第 8 回　動機づけと感情
第 9 回　達成目標理論
第 10 回　個人差と学習
第 11 回　メタ認知
第 12 回　自己調整学習
第 13 回　認知的徒弟制
第 14 回　学習環境のデザイン
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
主として演習形式で授業を進める。受講生にあらかじめ決められたテーマに関する文献を読んでもらい、議論行う。課題等のフィードバックは授業時に行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
予習用の文献を指定するので、それを授業前に読んでおくことが求められる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
定期テストは実施せず、授業参加度(100％)により評価を行う。
〔留意事項（Other Information）〕
受講生の人数や関心により、授業や課題の内容・順序を変更することがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
The Cambridge Handbook of the Learning Sciences /R. Keith Sawyer/Cambridge University Press/2014/9781107626577
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

学校心理学特論Ⅱ（教育理論）

270052N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
火曜 4限
ー
60
神月　紀輔

〔科目の教育目標（Course Description）〕
教育および学校心理学の基礎理論を学び，スクールカウンセラーの役割を知る
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
スクールカウンセラーの実情を知る。
教育理論の実践的展開の方法を知る
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　教育とは，学校心理学とは
第 3 回　学校心理学の基礎理論
第 4 回　初等中等教育現場で起こっている問題(1) 不登校，ひきこもりの問題
第 5 回　初等中等教育現場で起こっている問題(2) 学習障害など障害の問題
第 6 回　初等中等教育現場で起こっている問題(3) いじめ，非行等の問題
第 7 回　学校心理士の活動(1) アセスメント
第 8 回　学校心理士の活動(2) コンサルテーション
第 9 回　学校心理士の活動(3) カウンセリング
第 10 回　教師保護者と学校心理士の連携(1) 教職員との連携
第 11 回　教師保護者と学校心理士の連携(2) 保護者との連携
第 12 回　教師保護者と学校心理士の連携(3) 地域・関係機関との連携
第 13 回　学校心理士の倫理(1) 人権の尊重と責任の保持
第 14 回　学校心理士の倫理(2) 秘密保持と援助サービスへの介入
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
毎回，輪番による発表を行う。ディスカッションを中心に据え，各自の研究テーマと課題との接点を探る。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
テキストの指定された範囲を読んでおくこと。
新しい情報は，Webやニュースなどからできる限り広く情報収集しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
レポート(50%)：期間中に3回程度
発表，および授業に参加する態度（50%）：発表の内容，および授業時の参加意欲を自己評価し点数化する。
〔留意事項（Other Information）〕
基本的に出席を重視します。
個々の研究課題における学校心理学や教育理論に関する論文等の文献は積極的に持ち寄ってください。
上記，授業計画は，受講生の状況によって柔軟に対応する予定です。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『学校心理学ガイドブック 第3版』/学校心理士資格認定委員会/風間書房/2012/9.784759919172E12/学内販売予定
『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』/Jean Lave・Etienne Wenger 著，佐伯 胖 訳/産業図書/1993/4.782800843E9/学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『学校心理士の実践:幼稚園・小学校編 (講座「学校心理士—理論と実践」)』/「学校心理士」認定運営機構/北大路書房/2004/9.78476282377E12
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
教員として公立学校に勤務経験あり

学校臨床心理学実習

270057N0J
大学院
心理学研究科
1単位　後期
火曜 5限
ー
15
薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕
子どもの心身の発達過程を理解し、それに基づき特に児童・生徒で発達支援を必要とする対象者のライフステージに合わせた問題の理解を深める。
また、児童・生徒への直接的支援方法であるカウンセリングやグループカウンセリングの理論や技術を習得する。加えて、問題を抱える子どもに関わる保護者や教師へのコンサルテーションやコーディネートについての知識と技術も実践的に習得することを目標とする。なお、本科目は臨床発達心理士科目の「臨床発達支援の専門性に関する科目」の3，6，8を含む。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.子どものライフステージに合わせた心身発達の過程を理解する。
2.子どもへの直接的支援方法（グループ支援、個別支援）を実践的に理解する。
3.カウンセリング等、支援技法の習得
4.保護者、教師等の心理状態を理解し、組織との関係性について理解を深める
5.保護者、教師等へのコンサルテーション、コーディネートを実践的に理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　学校における支援ニーズと相談支援のあり方
第 2 回　幼児・児童・生徒における心理的問題の把握
第 3 回　クラスにおける人間関係形成に関する実習（技法の理解と実際）
第 4 回　クラスにおける人間関係形成に関する実習（評価）
第 5 回　子どもへの直接支援実習（カウンセリングにおける態度と技法）
第 6 回　子どもへの直接支援実習（RP:子どもの立場）
第 7 回　子どもへの直接支援実習（RP：支援者の立場）
第 8 回　子どもへの直接支援実習（RPの総合評価）
第 9 回　育児支援の実際と支援実習（RP：保護者の立場）
第 10 回　育児支援の実際と支援実習（RPの評価）
第 11 回　学校における支援（教師へのコンサルテーションについての実習）
第 12 回　教師へのコンサルテーションについての実習（事例検討）
第 13 回　校内連携に関する実習（模擬カンファレンス）
第 14 回　校内連携に関する実習（評価）
第 15 回　支援における倫理・まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
児童・生徒の心理、保護者、教師の心理についての理解と支援技法の理論を基礎として、仮想事例の見立てや面接のロールプレイを中心とした実習により実践的に発達および教育的支援方法を習得する。上記課題において求められるレポート、所見については、コメントをその都度、あるいは授業後個別に返却する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業課題で指定されたテーマや文献に関して、事前の下調べや通読をしておくこと。授業後には、理解不十分であった箇所を振り返り、次回の授業での質問等の準備をしておくこと。また、実施する心理検査等についても、あらかじめテキストやマニュアルに目を通して予習をして実習に備えておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度・実習への取り組み態度（45％）、ディスカッション（30％）、課題作成（25％）を評価対象とする。
〔留意事項（Other Information）〕
実習授業という性質上、実際に授業で取り組む課題から実践的、体験的に理論や方法を学ぶことが重要であり、それらが評価対象となることを認識しておくこと。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
授業中に配布する資料の他は、適宜指示する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『実践グループカウンセリングー子どもが育ちあう学級集団づくりー』/田上不二夫（編著）/金子書房/2010/
『学童期の支援ー特別支援教育をふまえてー』/長崎勤・藤野博（編著）/ミネルヴァ書房/2011/

『発達障害のある子の自立に向けた支援』/萩原拓/金子書房/2015/
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として学校現場、医療・保健機関等での支援業務経験あり。

教育・心理検査特論

270054N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
60
松島　るみ

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目では､臨床発達心理学的、心理・教育的アセスメントについて理解を深め､多様なアセスメントの方法を学ぶのと同時に､心理検査についての実施や採点､解釈や支援の方法について学ぶことを目的とする。また、発達的視点にもとづく支援について、フォーマルアセスメント（面接、行動観察、検査、成績など）および家庭環境や家族関係、人間関係などに見られるインフォーマルアセスメントを理解し、検査結果の支援への活用について学ぶ。心理検査は、人間の心的諸側面の個人差を測定するために作成された心理学的手法を用いた測定手段である。検査者は、心理検査を活用する明確な目的を持ち、使用する検査の実施方法や理論的な背景等を習得することが必要である。心理検査の中には、幼児・児童・生徒の発達に対する理解や学級づくり、教育相談等、教育活動を効果的に行うことを目的に開発されたものもある。この科目においては、心理検査や教育評価の理解を深めるとともに、臨床発達や学校教育場面で使用される心理検査の理解と基本的な技術の習得を目指す。なお、本科目は、臨床発達心理士指定科目の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」の６、７、９を含む。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・臨床発達心理学的、心理・教育的アセスメントの目的や方法、アセスメントから支援の方法について理解すること。
・教育・心理検査や教育評価に関する基礎的な知識を習得すること。
・教育・心理検査の基本的な技術を習得すること。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	心理・教育的アセスメントに関する知識や方法がについていない。	ある程度、心理・教育的アセスメントに関する知識や方法について身につけている。	おおむね心理・教育的アセスメントに関する知識や方法について身につけている。	心理・教育的アセスメントに関する知識や方法について十分身につけている。
言語力	心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が身についていない。	ある程度、心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が身についている。	おおむね心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が身についている。	心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が十分身についている。
思考・解決力	分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルが身についていない。	ある程度、分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルを身につけている。	おおむね分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルを身につけている。	分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルを十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協働しながら、問題解決しようとする力が身についていない。	ある程度、学習者と協働しながら、問題解決しようとする力を身につけている。	おおむね学習者と協働しながら、問題解決しようとする力を十分身につけている。	学習者と協働しながら、問題解決しようとする力を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを自身の研究や実習に活せる力が身についていない。	ある程度、学習したことを自身の研究や実習に活せる力を身につけている。	おおむね学習したことを自身の研究や実習に活かせる力を身につけている。	学習したことを自身の研究や実習に活かせる力を十分身につけている。

〔授業計画〕
第 1 回　臨床発達支援の基本的視点と心理・教育的アセスメント
第 2 回　臨床発達心理学的および心理・教育的アセスメントの方法
第 3 回　心理検査の活用
第 4 回　学級・学校アセスメント
第 5 回　教育評価
第 6 回　個別知能検査(ウェクスラー式知能検査：WISC-Ⅳを中心に）の概要／フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメント
第 7 回　VCI検査の実施方法
第 8 回　PRI検査実施の実施方法
第 9 回　WMI検査の実施方法
第 10 回　PSI検査の実施方法

第 11 回　WISC-Ⅳ結果の処理（基礎）および心理検査の統計基礎知識
第 12 回　WISC-Ⅳ結果の処理（応用）
第 13 回　支援活動の展開（検査結果による指導計画への発展）
第 14 回　その他の個別知能検査（K-ABCⅡ等）の実施
第 15 回　その他の個別知能検査（K-ABCⅡ等）の解釈
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
受講生による発表とディスカッション､心理検査の実習を中心に授業を進める。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
・発表に関して事前に関連文献に目を通したり、心理検査の背景や方法について調べておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
発表やディスカッションへの参加状況から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育実践特別演習

270144N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
火曜 3限
ー
90
神月　紀輔

〔科目の教育目標（Course Description)〕
専修免許を取得するものとして修了後，実践的課題に即時対応できるようにするため，現場実習などのインターンシップを含めた，実践による教員としての演習を行う。
教育現場で起こりうる課題を解決するための方法や手段を学ぶ。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
基本的な授業の方法や，心理学的な学習理論を応用した学習デザインを立案し，実践現場にて実習を行う。
実践研究から学習者間のディスカッションを行い，授業や課外活動においての教育実践の方法を習得する。
実践的課題から演習のトピックは変更されることがある。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　実践演習Ⅰ（黒板，教材教具を用いた授業計画）
第 3 回　実践演習Ⅰ（模擬授業または協力校における授業実践演習）
第 4 回　実践演習Ⅰ（相互評価，指導助言を受ける）
第 5 回　実践演習Ⅱ（道徳教育についての授業計画）
第 6 回　実践演習Ⅱ（模擬授業または協力校における授業実践演習）
第 7 回　実践演習Ⅱ（相互評価，指導助言を受ける）
第 8 回　観察実習Ⅰ①（協力校において半日の観察実習）
第 9 回　観察実習Ⅰ②（協力校において半日の観察実習）
第 10 回　実践演習Ⅲ（特別活動・外国語活動についての授業計画）
第 11 回　実践演習Ⅲ（模擬授業または協力校における授業実践演習）
第 12 回　実践演習Ⅲ（相互評価，指導助言を受ける）
第 13 回　観察実習Ⅱ①（協力校において半日の観察実習）
第 14 回　観察実習Ⅱ②（協力校において半日の観察実習）
第 15 回　自己評価，相互評価，まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
教育効果や評価は，単に直観的なものではなく，データをとり，そのデータと向き合い，客観的に見ることができるようにする。
そのため，心理統計は多く用いることになる。
また，テキスト分析や質的なデータの分析法としてのグラウンディッドセオリー・アプローチなどを用いる場合もある。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
模擬授業等の準備をすることや学校等の事前研究が求められる
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業に対する取り組み（40%）
課題レポート（40%）
授業に対する相互評価，自己評価（20%）
〔留意事項（Other Information）〕
演習であるので，主体的に学ぶ姿勢が必要である。
実習・演習後は，レポートの提出を毎回求める。
実践演習を学会等の参加に置き換えることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
参考文献はその都度提示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
教員として公立学校に勤務経験あり

教育方法学特論

270053N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
火曜 4限
ー
60
神月　紀輔

〔科目の教育目標（Course Description）〕
言語活動と各教科の教育方法の関係について理解を進め，思考力と表現力と対話力の育成を考えた教育の方法について理解する。情報機器の活用を含めた，主体的な学習の方法について，学習者の立場から研究する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・教育方法学についてその研究の方法と意義を理解する。
・各教科における言語活動の位置を整理する。
・コミュニケーションの方法について理解をすすめる。
・情報の活用について，その学習効果を心理統計を交えながら研究する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　各教科における言語活動
第 3 回　各教科に共通に役立つ言語活動
第 4 回　アイスブレイクの方法
第 5 回　チームビルディングの方法
第 6 回　ワールド・カフェの方法
第 7 回　アクション・ラーニングの方法
第 8 回　ファシリテーション・グラフィックの方法
第 9 回　タブレットＰＣ・ミーティングの方法
第 10 回　ポスターセッションの方法
第 11 回　ワークショップ・デザインの方法
第 12 回　ワークショップ・デザインの実践
第 13 回　効果の測定について
第 14 回　情報を活用した教育方法に関する文献の講読
第 15 回　自己評価
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
さまざまな教育方法を実際に行う。
さまざまな教育方法を含めた，ワークショップをデザインし，実践し，その効果を検討する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
企業研修で行われる教育方法も含めた多くの教育方法を積極的に体験する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
ワークショップ・デザインに有効な方法をどの程度学習できたかを，自己評価する。また、自分なりのワークショップをデザインし，その有効性について相互評価と自己評価をする。
〔留意事項（Other Information）〕
フィールドワークを数回行う。そのための交通費・参加費等が実費でかかる可能性がある。参考文献は，その都度紹介する。文献等は自分で検索し，積極的に教員に質問するなど，自ら学ぶ姿勢が必要である。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『教育の方法』/井上智義他/樹村房/2007/9784883671373
『ファシリテーション・グラフィック』/堀公俊他/日本経済新聞/2006/4532312884
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　教員として学校に勤務経験あり

教科教育演習（音楽）

270148N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
火曜 2限
ー
90
古庵　晶子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
音楽の学習指導についての教材の位置づけ及び取り扱いの問題点などを通して、音楽教材の吟味と楽曲分析を行い、学習指導に適切な教材の教材集を作る。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・音楽の教科書に示されている教材を分析する。
・教材の実践的活用の方法を探る。
・音楽科教育における理想的な音楽教材を具体化する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	楽譜の知識を覚えようとしない。	譜読みが苦手でも読む努力をする。	楽譜作成ソフトの使い方を前向きに身に着ける。	楽譜作成ソフトを自在に使え、読譜が苦も無くできる。
知識・理解力	教材研究についての文献に興味が持てない。	楽曲の時代背景に関する文献にあまり興味が持てない。	音楽学の文献に少し興味を持っている。	現代社会の問題と音楽教育学の関連について興味がある。
言語力	教材について適切な言葉で説明できない。	楽曲の特徴や良さなどを、言葉にできない。	教材の学習のポイントについて、的を得た説明ができる。	簡潔な言葉で指導案を作成することができる。
思考・解決力	楽曲の知識を増やそうとしない。	昔の教材についての背景に興味を持てない。	現在の様々な教材の比較ができる。	古い教材と現在の教材をあらゆる角度から比較できる。
共生・協働する力	協力して文献を探したり共有しようとしない。	初めての楽曲を共に演奏して確かめ合うスキルが足りない。	協働してオリジナルの教材を作り、評価し合う。	作成した教材を児童に試してみる機会をもつ。
創造・発信力	研究・開発したものを、人前で発表する気持ちが無い。	未経験の楽器を体験し、既存の教材に加えてみる。	歌詞になる詩をさがし、オリジナルの歌唱曲を作ってみることができる。	作成した教材や研究成果を発表する機会を積極的に持つ。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　学習指導要領と教科書との関係及び教材開発の視点
第 3 回　現行教科書の分析①　歌唱領域を中心として
第 4 回　現行教科書の分析②　器楽領域を中心として
第 5 回　現行教科書の分析③　鑑賞領域を中心として
第 6 回　楽譜作成ソフトによる楽譜作成①　ピアノ曲
第 7 回　楽譜作成ソフトによる楽譜作成②　合唱曲および合奏曲
第 8 回　歌唱活動教材の開発
第 9 回　器楽活動教材の開発
第 10 回　創作活動教材の開発
第 11 回　鑑賞活動教材の開発
第 12 回　音楽教育の展開と音楽活動
第 13 回　教授・学習過程の検証と考察①　楽曲分析と活用方法
第 14 回　教授・学習過程の検証と考察②　教材選択と設定
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
教科書に掲載されている教材の楽曲分析をする。
望ましい教材の在り方を構築する。
楽譜作成ソフトで教材を作成する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
音楽科教育ばかりでなく、生涯教育や音楽心理学・音楽社会学・音楽学の文献にも積極的に目を通しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究に対する積極的姿勢と教材開発への創造性やオリジナリティ、及び音楽科教育に対する視野の拡大と研究の深化を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
適宜指示する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教科教育演習（社会）

270151N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
水曜 1限
ー
90
大西　慎也

〔科目の教育目標（Course Description）〕
先人が行ってきた授業事例に学びながら、授業構成理論、目標論、評価論、内容論、カリキュラム論に基づいた、社会科の授業開発を行う。開発した授業の模擬授業を実践し、授業内容と共に発問、板書についても理解する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. 社会科の授業開発ができる。
2. 学習指導案の作成方法を理解する。
3. 授業の展開方法や発問、板書の方法を理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	先人の授業事例についての理解が十分ではない。	先人の授業事例の内容については理解しているものの、授業構成論やカリキュラム論については理解できていない、	先人の授業事例についての内容論やカリキュラム論については、理解しているものの、カリキュラム論を理解できていない。	先人の授業事例について、授業構成論、内容論、カリキュラム論について理解できている。
思考・解決力	学習指導案を作成できず、模擬授業が実践できない。	学習指導案の作成はできており、模擬授業の実践もできているものの、探究型の授業構成論に基づいていない。	探究型の授業構成論に基づいた学習指導案の作成はできているものの、模擬授業の実践が探究型の授業構成論に基づいていない。	探究型の授業構成論に基づいた学習指導案が作成でき、さらに探究型の模擬授業を実践できる。

〔授業計画〕
第 1 回　模擬授業の在り方と意義
第 2 回　学習指導案の作成方法
第 3 回　授業開発①（教材研究と単元構成につて）
第 4 回　授業開発①（目標と評価について）
第 5 回　授業開発①（学習指導案の作成）
第 6 回　授業開発①（模擬授業の実施と事後検討会）
第 7 回　授業開発②（教材研究と単元構成について）
第 8 回　授業開発②（目標と評価について）
第 9 回　授業開発②（学習指導案の作成）
第 10 回　授業開発②（模擬授業の実施と事後検討会）
第 11 回　授業開発③（教材研究と単元構成につて）
第 12 回　授業開発③（目標と評価について）
第 13 回　授業開発③（学習指導案の作成）
第 14 回　授業開発③（模擬授業の実施と事後検討会）
第 15 回　まとめ（社会科授業開発について）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
模擬授業などの演習中心。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートに記述しておく。学習指導案の作成、模擬授業の準備に授業時間外の学習を求める。教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めることもある。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、開発した社会科授業(50%)、模擬授業(50%)に基づいて総合的に行う。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
指定しない。講義において配布する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『社会科固有の授業理論30の提言』/岩田一彦/明治図書/2001/978-4184543133
『「習得・活用・探究」の社会科授業＆評価問題プラン 小学校編』/米田豊/明治図書/2011/978-4180222285
授業にて紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
小学校教員としての勤務経験あり

教科教育演習（理科）

270147N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
金曜 2限
ー
90
小川　博士

〔科目の教育目標（Course Description)〕
教材研究、指導案作成、模擬授業、振り返りという授業研究のプロセスを通して、実践的に学習し、理科授業実践の高度化を目指す。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・小学校における理科の目標及び内容を理解し、教材研究することができる。
・理科教授学習論や評価論を学習指導に適用することができる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
省察する力	模擬授業の省察が不十分であり、良かった点や改善点を見いだすことができない。	模擬授業を省察し、良かった点や改善点をある程度見いだすことができる。	模擬授業について、仲間や教員との対話を通した省察によって、良かった点や改善点を見いだすことができる。	模擬授業について、個人による省察や仲間や教員との対話を通した省察によって、良かった点や改善点を見いだすことができる。
理科授業デザイン	理科授業をデザインすることができない。	学習指導要領を踏まえて、理科授業をデザインすることができる。	学習指導要領や学習理論を踏まえて、理科授業をデザインすることができる。	対象学年の発達の段階や学習指導要領、学習理論を踏まえて、理科授業をデザインすることができる。

〔授業計画〕
第 1 回　優れた理科授業の分析（DVD視聴とディスカッション）
第 2 回　教材開発①（生命）
第 3 回　指導案作成①（生命）
第 4 回　模擬授業①（生命）及びディスカッション
第 5 回　教材開発②（地球）
第 6 回　指導案作成②（地球）
第 7 回　模擬授業②（地球）及びディスカッション
第 8 回　B区分の（生命・地球）の振り返りとまとめ
第 9 回　教材開発③（粒子）
第 10 回　指導案作成③（粒子）
第 11 回　模擬授業③（粒子）及びディスカッション
第 12 回　教材開発④（エネルギー）
第 13 回　指導案作成④（エネルギー）
第 14 回　模擬授業④（エネルギー）及びディスカッション
第 15 回　B区分の（物質・エネルギー）の振り返りとまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
演習（教材開発、指導案作成、模擬授業）を主とする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
・学習指導要領や小学校理科教科書を熟読すること。
・学習指導案を作成すること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
学習指導案80％、授業参加度20％　により総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
受講生の実態に応じて授業内容を変更する場合がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
2017年告示の「小学校学習指導要領解説理科編」を文部科学省HPよりダウンロードして使用できるようにしておくこと。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
適宜、提示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）

270424N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
金曜 3限
ー
60
鶴田　薫

〔科目の教育目標（Course Description)〕
健康心理学は、心理学がいかに人々の健康で幸福な生活に貢献できるか、その可能性を究める実践的な学問である。そしてそれは、心理職の国家資格である公認心理師に期待される、大きな役割の一つであるとも言える。
そのような時代の社会的なニーズを背景に、本講義では心の健康教育についての理論を学び、その技法について体験実習を通して習得する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・心の健康とは何かについて学ぶ
・心の健康に影響を与えるストレス、パーソナリティ、行動（認知や行動を含む）についての理論を学ぶ
・心の健康教育とは何か、その理論と目的について学ぶ
・心の健康教育の技法について、体験実習を通して学ぶ
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　健康とは？
　　健康心理学とは？
第 2 回　健康とストレス
第 3 回　健康とパーソナリティ
第 4 回　健康と行動
第 5 回　健康心理アセスメント
第 6 回　健康教育の理論（モデル）
第 7 回　心の健康教育の目的
第 8 回　心の健康教育の場とライフステージ
第 9 回　心の健康教育の実践１
　　ストレスマネジメント①リラクセーション
第 10 回　心の健康教育の実践２
　　ストレスマネジメント②アンガーコントロール
第 11 回　心の健康教育の実践３
　　人間関係トレーニング①アサーション
第 12 回　心の健康教育の実践４
　　人間関係トレーニング②コンセンサス
第 13 回　心の健康教育の実践５
　　ストレスマネジメント③認知行動療法
第 14 回　心の健康教育の実践６
　　ストレスマネジメント④マインドフルネス
第 15 回　まとめ
　　健康心理学の可能性
　　公認心理師への期待
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
心の健康および心の健康教育の理論の学習は講義形式で行い、心の健康教育の技法の学習は体験実習で行う

授業中の学生の発問に対して、適宜口頭でフィードバックを行う
また授業全体に対しては、最終回で授業内容をふりかえり、フィードバックを行う
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
心の健康に影響を与えるストレス・パーソナリティ・行動について、文献を検索し、熟読して講義に臨むこと
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、授業態度(50%)、課されたレポートの内容(50%)に基づいて総合的に行う
〔留意事項（Other Information)〕
授業内で資料を配布する
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
特定のテキストは使用しない
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『健康心理学概論』/日本健康心理学会/実務教育出版/2002/9784788960916
『ベーシック健康心理学』/山蔦圭輔/ナカニシヤ出版/2015/9784779509186
『ライフコースの健康心理学』/森和代・石川利江・松田与理子/晃洋書房/2017/9784771028876
『健康心理学』/太田信夫・竹中晃二/北大路書房/2017/9784762829956
『よくわかる健康心理学』/森和代・石川利江・茂木俊彦/ミネルヴァ書房/2012/9784623061570
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
臨床心理士・公認心理師として教育機関や医療機関などで勤務経験あり

後期特別研究Ⅰ

270835N0J
大学院
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
河瀬　雅紀

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究テーマと研究計画の立案
・文献による先行研究の検討
・方法論の確立
・データの分析
・論文の執筆
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づいて、主指導教員１名と副指導教員２名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
後期特別研究Iでは、主論文（博士論文）についての研究テーマと研究計画の立案を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかについて、深く省察するように指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

後期特別研究 II

270836N0J
大学院
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
河瀬　雅紀

〔科目の教育目標（Course Description）〕
博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究テーマと研究計画の立案
・文献による先行研究の検討
・方法論の確立
・データの分析
・論文の執筆
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づいて、主指導教員１名と副指導教員２名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
　後期特別研究Ⅱでは、主論文（博士論文）についての研究テーマと研究計画の立案そして方法論の確立を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかについて、深く省察するように指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

後期特別研究Ⅲ

270837N0J
大学院
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
河瀬　雅紀

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究テーマと研究計画の立案
・文献による先行研究の検討
・方法論の確立
・データの分析
・論文の執筆
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
　実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　院生の研究テーマに基づいて、主指導教員１名と副指導教員２名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
　後期特別研究Ⅲでは、主論文（博士論文）についてのデータの分析と論文の執筆を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかを理解し、研究目的に沿ってデータの分析を進め、論文執筆を指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

児童精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開ｂ）

270103N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
木曜 6限
ー
60
久保田　泰考

〔科目の教育目標（Course Description）〕
児童精神医学領域の主要な精神疾患について学び、思春期の精神病理についても広く学習する。精神科医としての実務経験をもとに臨床的な観点を解説するほか、さらに神経科学の知識も必要に応じて講義し、神経科学と精神分析の双方向的視野に立脚するニューロサイコアナリシスの観点から、精神・神経発達障害の実像を理解することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
古典的な精神病理学：神経症・精神病概念の整理
子どもの神経症・不安障害：精神分析理論と社会・情動発達モデルの関連
脳の発達と精神障害：OCD、AD/HD、トゥレット障害などの神経学的基盤
子どもの精神疾患：うつ病、統合失調症、双極性障害
自閉スペクトラム症：自閉症、アスペルガー症候群、特定不能型
子どもの精神療法：精神分析モデル、トラウマ論、無意識の概念化

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション：児童精神医学とはどんな学問か
第 2 回　神経症１：古典的な神経症論、精神病圏との病態水準の違い、今日の診断基準について
第 3 回　神経症２：愛着理論から神経症概念を見直す、社会・情動アセスメントの考え方と実際
第 4 回　精神病論：統合失調症の精神病理、自閉症との関係
第 5 回　症例検討１：面接法による思春期・青年期の危機のアセスメント
第 6 回　自閉スペクトラム症：自閉症の概念、自閉スペクトラム症（ASD）について
第 7 回　症例検討２：ASDの社会・情動発達の支援、ケース報告とフィードバックのすすめ方
第 8 回　感情障害：うつ病、躁うつ病、児童における特性
第 9 回　PTSD：トラウマへの対応、社会・情動発達の観点からの具体的支援のすすめ方
第 10 回　強迫性障害：強迫性障害、トゥレット症候群、その他児童における関連障害について
第 11 回　境界型パーソナリティー障害：ボーダーラインの概念、治療について
第 12 回　臨床精神薬理：児童精神医学における薬物療法の理論・実際
第 13 回　臨床心理学（４）学校における児童生徒の問題
第 14 回　臨床心理学（５）心理臨床などの専門家と専門機関
第 15 回　症例検討３：関係の障害、情動の失調への介入の考え方、特に古典症例から学ぶ（関係性の病理と支援）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
レポート課題を実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
Covid-19の感染者数の増加傾向（9月13日現在）を鑑み、オンライン形式の講義とします。短時間のライブとオンデマンドをミックスする。毎回PDF形式資料を配布し、動画リンクを提供する予定であり、オンデマンド部分のみ受講でも後からのフィードバックに応答することで十分履修が可能となるように配慮する。症例検討も必要に応じて行う。課題レポートに対するフィードバックは、授業中に解説する他、個別にWebシステムを通じて行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
日常生活から生まれる人間の精神活動についての素朴な疑問、あるいは実習などの活動から生じた臨床的な問題意識を折に触れて整理しておくことが求められる。特に専門的な知識の予習は全く必要ない。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業への参加度、特に積極的な質問や問題提起（30％）、レポート2回（70％）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕
映画や小説、マンガなどで精神障害を扱った作品を各自積極的に鑑賞しておくことが求められます。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『ニューロサイコアナリシスへの招待』/岸本寛史編/誠信書房/2015/9784414400984
『ニューロラカン: 脳とフロイト的無意識のリアル』/久保田泰考/誠信書房/2017/9784414416305
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神科医師および臨床心理士として医療機関、専門相談施設での勤務経験あり。

社会科教育特論

270150N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
水曜 1限
ー
90
大西　慎也

〔科目の教育目標（Course Description）〕
社会科教育の授業構成理論、目標論、評価論、内容論、カリキュラム論を理解し、先人による実践を分析、検討することをとおして、社会科授業を批判的に検討する力を身に付けることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1．社会科教育の授業構成理論、目標論、評価論、内容論、カリキュラム論を理解する。
2．学会誌等の論文を精読し、レポートし、議論する。
3．先人の実践を分析、検討する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	先人の授業事例についての 分析が十分ではない。	先人の授業事例について分析しているものの、授業構成論やカリキュラム論については理解できていない。	先人の授業事例について分析しており、その実践については説明できるものの、授業構成論やカリキュラム論をふまえていない。	先人の授業事例について分析し、授業構成論やカリキュラム論を踏まえて説明できる。

〔授業計画〕
第 1 回　社会科の成立と歩み
第 2 回　学習指導要領の変遷とその背景
第 3 回　「わかる子ども」を育てる授業構成理論
第 4 回　「考える子ども」を育てる授業構成理論
第 5 回　社会科教育における目標論
第 6 回　社会科教育における評価論
第 7 回　社会科教育における内容論
第 8 回　社会科教育におけるカリキュラム論
第 9 回　個人研究と討議①（授業構成理論に関する内容）
第 10 回　個人研究と討議②（目標論、評価論に関する内容）
第 11 回　個人研究と討議③（内容論、カリキュラム論に関する内容）
第 12 回　社会科授業の分析、検討①（地理的分野の内容）
第 13 回　社会科授業の分析、検討②（歴史的分野の内容）
第 14 回　社会科授業の分析、検討②（公民的分野の内容）
第 15 回　社会科教育の課題と解決のための方略
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義形式で行う。しかし、論文精読や授業分析を行う際は、演習も交えながら進める。講義時間外の自主学習（論文精読やレポート作成など）を要する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートに記述しておく。学習指導案の作成、模擬授業の準備に授業時間外の学習を求める。教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めることもある。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業での討議（50%）、レポート（50%）に基づいて総合的に行う。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
特に指定しない。必要な資料は講義時に配布する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『社会科固有の授業理論30の提言』/岩田一彦/明治図書/2001/978-4184543133
『「習得・活用・探究」の社会科授業＆評価問題プラン 小学校編』/米田豊/明治図書/2011/978-4180222285
講義時に紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
小学校教員としての実務経験あり

社会心理学特論（産業･労働分野に関する理論と支援の展開）

270408N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
水曜 3限
ー
60
後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
職場における自己（self）の影響について学び、議論する。自己効力感、自尊心感情、自己制御、アイデンティティの問題などについて、産業組織心理学、組織行動、社会心理学の観点からの最新の研究成果について知識を獲得する。また社会心理学の知識をこれらの分野に応用することの限界について理解を目指す。それらを通じて産業・労働分野に関わる公認心理師として、科学的な証拠に基づいた実践を行うための、基盤となる知識を身につける。産業・労働分野における問題と、各自の研究との接点を見出し、発展に繋げられるよう目指す。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・自己概念の基礎的な理論、知識を理解する。
・職場における様々な問題・課題について基礎値的な知識を得る。
・社会心理学の知見が職場の問題解決にいかに応用・活用されてきたかを学び、その限界についても理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	社会・産業組織心理学の諸概念について理解していない	社会・産業組織心理学の諸概念について少し理解している	社会・産業組織心理学の諸概念を実社会の例を用いて説明できる	社会・産業組織心理学の諸概念をほかの研究と関連付けられる
言語力・創造・発信力	英語で論文・教科書を読んで理解することができない	英語で論文・教科書を読んで理解することができる	英語で論文・教科書を読んでわかりやすく説明することができる	英語で論文・教科書を読んで、自身の研究に役立てることができる

〔授業計画〕
第 1 回　職場における自己について
第 2 回　自己効力感
第 3 回　自尊心感情
第 4 回　職場における自己同一視
第 5 回　自己高揚動機
第 6 回　自己制御
第 7 回　自己決定動機
第 8 回　職場における罪悪感の役割
第 9 回　職場内の社会的地位の影響
第 10 回　文化の研究と産業組織の研究の相互作用
第 11 回　印象操作
第 12 回　自己評価とアルコールの影響
第 13 回　フィードバックの影響
第 14 回　産業・労働分野に関わる心理士の実践
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
社会・産業組織心理学の新たな動向に関連する教科書を教材とし、各自が担当部分をまとめて報告し、そこに含まれる問題をディスカッションする形で授業を進める。必要に応じて、研究手法や分析手法について講義する。授業中わからない点があれば積極的に質問をし、またオフィスアワー等を利用して解決できるようにすること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業時間に次回以降の課題を指示する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業時間中の発表と質疑への取り組み（40％）、レポート（60％）を基に総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
受講生の人数、予備知識に応じて、授業内容、講義形式は柔軟に変更する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『The Self at Work: Fundamental Theory and Research』/D. L. Ferris, R. E. Johnson, and C. Sedikides/Taylor & Francis Group/2017/9781138648234/学内販売をしない予定
授業内で教材を配布する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業内で適宜、紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開ａ）

270404N0J
大学院
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
90
片岡　基明

〔科目の教育目標（Course Description）〕
発達の障害や適応上の問題がある子どもの心理を理解し、豊かな生活をすごしていくための子どもへの支援の方法を学ぶ。そのために、支援のための現場でのアセスメントの

考え方・方法を学び、障害児と健常児の統合保育の現場や障害児療育の現場における保育者への支援や保護者への支援の内容と支援の具体的流れについて理解する。さらには子どもを支援する地域社会のネットワークの現状を知り、地域社会への働きかけのありかたを探る。

これらを通して、福祉の現場での心理臨床とその課題を考える。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

「障害」の理解 -支援ニーズの把握に関する理論
ダウン症の理解と療育
自閉症の理解と療育
保護者理解
障害児保育-保育現場での支援の考え方

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回　支援における倫理：障害を考える-出生前診断をめぐって
第 2 回　ダウン症の理解（１）原因と症状
第 3 回　ダウン症の理解（２）社会参加の現状
第 4 回　ダウン症児の療育
第 5 回　「障害」とはなにか-現場での支援の考え方
第 6 回　自閉症スペクトラム障害の理解（１）症状
第 7 回　自閉症スペクトラム障害の理解（２）歴史と現状
第 8 回　自閉症スペクトラム障害児の療育（１）行動論的アプローチ
第 9 回　自閉症スペクトラム障害児の療育（２）関係発達的アプローチ
第 10 回　障害幼児の療育システム-保育をめぐる問題と支援の事例、コンサルテーションを通して
第 11 回　障害幼児の保護者の理解と育児支援の実際
第 12 回　障害のアセスメント（１）WISC検査
第 13 回　障害のアセスメント（２）新版Ｋ式発達検査
第 14 回　障害児保育-保育現場での支援の実際
第 15 回　まとめと総合評価

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義とディスカッション

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

ダウン症あるいは自閉症関係の書籍をこの授業のために新たに一冊読んで来て下さい。授業中にその概要を紹介してもらいますので、そのつもりで準備をすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加状況（４０％）、総合評価（６０％）

〔留意事項（Other Information）〕

授業予定は変更することがあります。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

授業内で資料を配付する。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学研究法特論

270015N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
金曜 5限
ー
60
森下　正修

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現在、心理学の研究法には、実験、調査、検査や面接などがあります。手法は様々ですが、多くの研究に共通しているのは、科学的な態度です。すなわち、実証性や客観性をできる限りそなえ、過去の知見を整合的に説明し、なおかつ新しい成果を得ようとすることが、現代の心理学研究には必須です。

そうした研究を自分で行うためには、事前計画の段階で、自説の論理構成を検討することと、データの収集方法を最適化することが大事になります。たとえば実験室実験において、妨害となる要素を可能な限り排除し、適切な実験方法を考えるにはどうすればよいか。学校・教育現場において子どもたちを対象とした調査を行う場合、研究者や教師の主観的な評価のみによらず、妥当性と信頼性のあるデータをどのように集めればよいか。臨床場面においてクライエントを対象とした研究を行う際に、研究計画や倫理の面でどのようなことに気をつけなければいけないか。事前計画の段階でいろいろなことに気を配らねばなりません。

さらに、データを得た後では、自説と照らし合わせて検証を行い、論文等にまとめることも必要です。論理的で説得的な実証研究論文を執筆するには、どういった点に留意

すべきでしょうか。

本講義では、これらの問題に共通する理論的、実践的なポイントについて、子どもから成人まで幅広いサンプルを対象とした研究例をもとに解説してゆきます。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文を見すえて、心理学研究における実験・調査に必要な基礎的知識とスキルを身につけ、実験室での実験や、学校・教育現場、臨床場面での調査において活用できる研究計画を立てられるようになること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
科学としての心理学への理解	科学研究の原則・倫理がわからない	科学研究の倫理や原則を知っている	科学研究の倫理や原則を心理学研究に当てはめて考えられる	自身の研究に科学研究の原則や倫理を適用できる
先行研究の検討	先行研究・論文をほとんど読めない	先行研究・論文をある程度読める	複数の先行研究・論文を読んで学ぶことができる	先行研究・論文を批判的に検討することができる
研究計画の立案	自分で研究計画が立てられない	自身のテーマに即した研究手法がある程度選択できる	研究に盛り込むべき独立変数や従属変数がわかる	剰余変数や配慮すべき要素も含めて、研究計画が立てられる
論文の執筆	論文の書き方がわからない	心理学論文に必要な要素がある程度わかる	心理学論文の要素や書式がわかっている	論理的で体裁の整った論文の書き方がわかっている

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス、イントロダクション
本講義の進め方、評価方法と、全体の内容について説明します

第 2 回　心理学研究における科学性と倫理
心理学研究が科学研究としておこなわれるために必要とされる要素、および研究上の倫理を説明します

第 3 回　研究計画の基礎①　独立変数と従属変数
研究計画上の根幹をなす２つの変数について解説します

第 4 回　研究計画の基礎②　参加者間計画と参加者内計画
研究計画における参加者間計画と参加者内計画の違いを解説します

第 5 回　研究計画の基礎③　統制
参加者間、参加者内計画の場合に必要となる剰余変数の統制について説明します

第 6 回　研究・統計の批判的検討①　欠陥・不備の指摘
先行研究の欠陥や不備について検討しながら、自分の研究計画を考えるやり方について説明します

第 7 回　研究・統計の批判的検討②　構成要素の置換、新規要素の追加
先行研究をもとにその構成要素の置換や追加について検討しながら、自分の研究計画を考えるやり方について説明します

第 8 回　クリティカル・リーディング
これまでに説明した批判的検討の姿勢をもとに、実際の論文を読む練習をします

第 9 回　研究論文の執筆法①　「問題」の構成
研究論文の執筆に関し、まず「問題」をどのように構成していくのか、実例をもとにしながら解説します

第 10 回　研究論文の執筆法②　「方法」～「考察」の構成
研究論文の執筆に関し、「方法」「結果」「考察」「引用文献」の項で必要となる要素について解説します

第 11 回　研究実践①　実験法
実験研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。

第 12 回　研究実践②　質問紙調査法
質問紙による調査研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。

第 13 回　研究実践③　質的研究法
面接や観察による質的研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。

第 14 回　レポート発表①　先行研究に対する批判的検討の報告
出席者が自分の研究のベースとなる先行研究を批判的に検討した結果を発表してもらい、討議します

第 15 回　レポート発表②　先行研究に対する批判的検討についての評価
出席者が自分の研究のベースとなる先行研究を批判的に検討した結果を発表してもらい、討議します

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

第14回、第15回にレポート発表があります

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

独自に作成した講義プリントを配布します。実際の論文の読み方・まとめ方を指導するクリティカル・リーディングなどの実習も行います。

受講生の皆さんと対話しながら授業を進めていきます。

・レポート発表に対するフィードバック：その場で教員も含めて討論をしますので、今後の研究の参考にして下さい。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

自分自身の研究テーマに関し、どのような先行研究があるのか、わかっていないことは何か、どういう方法でそれを解明すればよいか、代表的な研究論文はどのような構成で書かれているかなどを普段から意識して学ぶようにしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
講義内容を踏まえ、先行研究に対して批判的検討を加えたレポート発表を行ってもらいます。評価の比率は、授業参加度（30%)、レポート発表（70%）です。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習Ⅰ

270831N0J
大学院
心理学研究科
1単位　前期
木曜 6限
ー
30
河瀬　雅紀　伊藤　一美　向山　泰代　高井　直美　尾崎　仁美　松島　るみ　廣瀬　直哉　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
心理学特殊演習Iは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。
院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べることなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。
院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（各主指導・副指導教員）
第 2 回　演習（課題の設定）（１）（各主指導・副指導教員）
第 3 回　演習（課題の設定）（２）（各主指導・副指導教員）
第 4 回　演習（課題の設定）（３）（各主指導・副指導教員）
第 5 回　演習（課題の設定）（４）（各主指導・副指導教員）
第 6 回　演習（課題の設定）（５）（各主指導・副指導教員）
第 7 回　演習（課題の設定）（６）（各主指導・副指導教員）
第 8 回　演習（課題の設定）（７）（各主指導・副指導教員）
第 9 回　演習（課題の設定）（８）（各主指導・副指導教員）
第 10 回　経過発表（１）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 11 回　経過発表（２）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 12 回　経過発表（３）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 13 回　経過発表（４）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 14 回　経過発表（５）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 15 回　経過発表（６）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。
通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。
すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習 II

270832N0J
大学院
心理学研究科
1単位　後期
木曜 6限
ー
30
河瀬　雅紀　伊藤　一美　向山　泰代　高井　直美　尾崎　仁美　松島　るみ　廣瀬　直哉　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　心理学特殊演習IIは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。
院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べることなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
　演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。
院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　経過発表（1）(各主指導・副指導教員)
第 2 回　経過発表（2）(各主指導・副指導教員)
第 3 回　経過発表（3）(各主指導・副指導教員)
第 4 回　経過発表（4）(各主指導・副指導教員)
第 5 回　経過発表（5）(各主指導・副指導教員)
第 6 回　経過発表（6）(各主指導・副指導教員)
第 7 回　経過発表（1）(各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
第 8 回　経過発表（2）(各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
第 9 回　経過発表（3）(各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
第 10 回　経過発表（4）(各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
第 11 回　経過発表（5）(各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
第 12 回　経過発表（6）(各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
第 13 回　経過発表（7）(各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
第 14 回　経過発表（8）(各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
第 15 回　経過発表（9）(各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
　各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。
　通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。
　すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習III

270833N0J
大学院
心理学研究科
1単位　前期
木曜 6限
ー
30
河瀬　雅紀　伊藤　一美　向山　泰代　高井　直美　尾崎　仁美　松島　るみ　廣瀬　直哉　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
心理学特殊演習Ⅲは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。
院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べることなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。
院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文２編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（各主指導・副指導教員）
第 2 回　演習（課題の設定）（１）（各主指導・副指導教員）
第 3 回　演習（課題の設定）（２）（各主指導・副指導教員）
第 4 回　演習（課題の設定）（３）（各主指導・副指導教員）
第 5 回　演習（課題の設定）（４）（各主指導・副指導教員）
第 6 回　演習（課題の設定）（５）（各主指導・副指導教員）
第 7 回　演習（課題の設定）（６）（各主指導・副指導教員）
第 8 回　演習（課題の設定）（７）（各主指導・副指導教員）
第 9 回　演習（課題の設定）（８）（各主指導・副指導教員）
第 10 回　経過発表（１）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 11 回　経過発表（２）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 12 回　経過発表（３）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 13 回　経過発表（４）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 14 回　経過発表（５）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 15 回　経過発表（６）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。
通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。
すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究計画や研究経過発表について､その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習Ⅳ

270834N0J
大学院
心理学研究科
1単位　後期
木曜 6限
ー
30
河瀬　雅紀　伊藤　一美　向山　泰代　高井　直美　尾崎　仁美　松島　るみ　廣瀬　直哉　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
心理学特殊演習Ⅳは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。
院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べることなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。
院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文２編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　経過発表（１）（各主指導・副指導教員）
第 2 回　経過発表（２）（各主指導・副指導教員）
第 3 回　経過発表（３）（各主指導・副指導教員）
第 4 回　経過発表（４）（各主指導・副指導教員）
第 5 回　経過発表（５）（各主指導・副指導教員）
第 6 回　経過発表（６）（各主指導・副指導教員）
第 7 回　経過発表（１）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 8 回　経過発表（２）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 9 回　経過発表（３）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 10 回　経過発表（４）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 11 回　経過発表（５）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 12 回　経過発表（６）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 13 回　経過発表（７）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 14 回　経過発表（８）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
第 15 回　経過発表（９）（各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。
通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。
すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊研究Ｂ（発達心理学）

270802N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
金曜 2限
ー
90
高井　直美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
発達心理学に関する重要な理論について理解を深め、さらに内外の最近の研究動向をレビューすることを通して、現在の研究課題を認識し、発達心理学の発展に寄与できる研究テーマを探る能力を身に着ける。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．発達心理学の重要な理論について、学ぶ。
２．内外の研究論文を読解する。
３．受講生の研究テーマに関係する研究論文を講読する。
４．発達心理学の発展に寄与できる研究テーマを立案する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　認知発達の理論に関係する文献講読
第 3 回　認知発達の理論に関係する文献講読と討論
第 4 回　社会性の発達の理論に関係する文献講読
第 5 回　社会性の発達の理論に関係する文献講読と討論
第 6 回　言語発達の理論に関係する文献講読
第 7 回　言語発達の理論に関係する文献講読と討論
第 8 回　受講生の研究テーマに関係する文献講読①
第 9 回　受講生の研究テーマに関係する文献講読と討論①
第 10 回　研究の倫理性について①事例を扱う研究の場合
第 11 回　研究の倫理性について②質問紙調査や実験的研究の場合
第 12 回　受講生の研究テーマに関係する文献講読①
第 13 回　受講生の研究テーマに関係する文献講読と討論②
第 14 回　発達心理学の発展に寄与できる研究テーマについて①日本の研究から
第 15 回　発達心理学の発展に寄与できる研究テーマについて②海外の研究から
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
受講生による発表と討論を中心に進める。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
日本発達心理学会や日本心理学会など、学会にはできる限り積極的に参加し、心理学研究者の研究テーマの最近の動向をつかんでおくとよい。
日頃より英語文献の講読に親しんでおくとよい。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
発表と討論への参加状況を70％とし、レポートを30％とする。
〔留意事項（Other Information)〕
授業順序は変わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊研究Ｄ（教育評価）

270804N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
火曜 3限
ー
90
尾崎　仁美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
教育評価に関する基本概念や歴史的展開、教育評価をめぐる現代的課題について理解を深めるとともに、教育的決定のための評価資料の収集方法や整理および解釈の仕方について理解することを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．教育評価の意義と目的、歴史的展開について理解する。
２．さまざまな評価方法の長所と短所を理解する。
３．評価資料の収集方法や解釈の方法を学ぶ。
４．教育評価をめぐる現代的課題について理解を深める。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的で積極的な学習態度が身についている	おおむね自律的で積極的な学習態度が身についている	自律的で積極的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	教育評価の意義や目的、評価方法に関する基礎的な知識が身についていない	教育評価の意義や目的、評価方法に関する基礎的な知識がある程度身についている	教育評価の意義や目的、評価方法に関する基礎的な知識がおおむね身についている	教育評価の意義や目的、評価方法に関する基礎的な知識が十分身についている
言語力	学習した内容を言語化し、人に説明する力が身についていない	学習した内容を言語化し、人に説明する力がある程度身についている	学習した内容を言語化し、人に説明する力がおおむね身についている	学習した内容を言語化し、人に説明する力が十分身についている
思考・解決力	評価資料の収集方法や解釈の方法が身についていない	評価資料の収集方法や解釈の方法がある程度身についている	評価資料の収集方法や解釈の方法がおおむね身についている	評価資料の収集方法や解釈の方法が十分身についている
共生・協働する力	学習したことを他者理解や他者の支援に活かす力が身についていない	学習したことを他者理解や他者の支援に活かす力がある程度身についている	学習したことを他者理解や他者の支援に活かす力がおおむね身についている	学習したことを他者理解や他者の支援に活かす力が十分身についている
創造・発信力	学習したことを研究や実践に活かす力が身についていない	学習したことを研究や実践に活かす力がある程度身についている	学習したことを研究や実践に活かす力がおおむね身についている	学習したことを研究や実践に活かす力が十分身についている

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　教育評価の基本的概念
第 3 回　教育評価の意義・目的
第 4 回　教育評価の歴史的展開
第 5 回　教育目標と教育評価の関係
第 6 回　指導に活かす評価のあり方と評価に影響を与える要因
第 7 回　教育評価と心理的影響
第 8 回　教育評価の方法
第 9 回　評価資料の収集法
第 10 回　評価資料の解釈と利用
第 11 回　学校における評価の実際
第 12 回　授業・教師・学校の評価
第 13 回　教育評価の現代的課題
第 14 回　諸外国における教育評価
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
受講生による発表とディスカッションを中心に進める。参考資料は、授業中に適宜指示をする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
・日頃より教育評価の方法や課題について最新の情報を得るようにすること。
・発表内容の背景となる文献や関連文献を熟読しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、発表・ディスカッションへの参加状況（70%）、レポート（30%）により総合的に行う。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊研究Ｆ（心理アセスメント）

270806N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
木曜 2限
ー
90
河瀬　雅紀

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目では、学部・博士前期課程で学んだ種々の心理アセスメント理論と、さまざまな臨床実践での経験を基に、研究テーマを具現化して行くツールとして必要な心理アセスメント理論を選択し応用していく手順を理解する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
（１）心理学的研究と心理アセスメントとの関連を、観察法・面接法・心理検査・調査法から理解する
（２）臨床実践において心理アセスメントをどのように研究に生かしていくかを 各種心理療法から理解する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　研究テーマとアセスメント理論について－質問紙法との関連で
第 3 回　研究テーマとアセスメント理論について－観察法との関連で
第 4 回　研究テーマとアセスメント理論について－性格検査との関連で
第 5 回　研究テーマとアセスメント理論について－知能検査との関連で
第 6 回　研究テーマとアセスメント理論について－発達検査との関連で
第 7 回　研究テーマとアセスメント理論について－高次脳機能検査との関連で
第 8 回　研究テーマとアセスメント理論について－投映法との関連で
第 9 回　研究テーマとアセスメント理論について－来談者中心療法との関連で
第 10 回　研究テーマとアセスメント理論について－力動的心理療法との関連で
第 11 回　研究テーマとアセスメント理論について－認知・行動療法との関連で
第 12 回　研究テーマとアセスメント理論について－ブリーフセラピー・システム論との関連で
第 13 回　研究テーマとアセスメント理論について－グループ療法との関連で
第 14 回　研究テーマとアセスメント理論について－ナラティブセラピーとの関連で
第 15 回　心理アセスメントと研究倫理について
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
事例、文献等を用いて討議する
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
学会誌の研究論文、学会や研究会での発表論文などから、関心領域として自ら選択したもの、あるいは、予習用に指定した文献を授業前に熟読しておく
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
受講者自身の自発的な学びと討論を中心とするため、発表と討論（70%)、適宜実施されるレポート等（30%）に基づいて総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理実践実習Ⅰ（学内実習）

270427N0J
大学院
心理学研究科
1単位　前期集中
その他
ー
15
三好　智子　伊藤　一美　向山　泰代

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、「心理相談の基本」と題し、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、個人面接を軸とした心理相談を実施している学内実習施設「心理臨床センター心理相談室」での業務を行う上での基本的事項を学ぶことを目的とする 。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１）心理相談における基本的マナーやふるまいなどコミュニケーション技術を習得する。
２）心理アセスメントの実施・運用に関する基本的知識を習得する。
３）心理相談面接における基本的な応答技法を習得する。
４）心理相談への来談者のニーズを知り、アセスメントやケース運営について学ぶ。
５）地域支援を視野に、心理相談室の社会的位置づけを理解し、多職種連携および地域連携を視野にいれた社会的資源等に関する知識を習得する。
６）心理相談を開始するための、受付・受理からインテーク面接、治療契約から面接開始までの一連の流れについて理解する。
７）心理相談の運営を成り立たせるための治療構造の理解とその運用について理解する。
８）心理的支援における公認心理師の職業倫理及び法的義務について学習・理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
授業中に指示する。
第1回目を含む各回の担当者：三好・向山・伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
大学に附設されている「心理臨床センター心理相談室」におけるケース担当のための基本的事項を学ぶため、30時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、担当ケースに関わる実習を行うとともに、仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者（心理臨床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。課題に対するフィードバックの方法としては、実習中の発問に対し適宜口頭でフィードバックするとともに、「実習記録ノート」に個別にコメントして返却する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
社会常識的な知識やふるまいについて、教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを通じて、自己省察し自身の課題を整理しておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
実習課題の遂行（ディスカッションやワークへの参加度など）（70点)、その他提出物・実習ノートなど（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
本科目での取り組み状況から、心理実践実習Ⅱa・Ⅱb、心理実践実習Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ以降の取り組み方について個別に相談し、学習計画の見直しを行うことがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅱａ（学内実習）

270428N0J
大学院
心理学研究科
1単位　後期集中
その他
ー
15
三好　智子　伊藤　一美　向山　泰代

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、「心理相談の基本」と題し、「心理実践実習Ⅰ」での体験学習の上に成り立ち、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、個人面接を軸とした心理相談を実施している学内実習施設「心理臨床センター心理相談室」での業務を行う上での基本的事項を学ぶことを目的とする 。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１）心理相談における基本的マナーやふるまいなどコミュニケーション技術を習得する。
２）心理アセスメントの実施・運用に関する基本的知識を習得する。
３）心理相談面接における基本的な応答技法を習得する。
４）心理相談への来談者のニーズを知り、アセスメントやケース運営について学ぶ。
５）地域支援を視野に、心理相談室の社会的位置づけを理解し、多職種連携および地域連携を視野にいれた社会的資源等に関する知識を習得する。
６）心理相談を開始するための、受付・受理からインテーク面接、治療契約から面接開始までの一連の流れについて理解する。
７）心理相談の運営を成り立たせるための治療構造の理解とその運用について理解する。
８）心理的支援における公認心理師の職業倫理及び法的義務について学習・理解する。
〔授業計画〕
授業中に指示する。
第1回目を含む各回の担当者：三好・向山・伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
大学に附設されている「心理臨床センター心理相談室」におけるケース担当のための基本的事項を学ぶため、30時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、「心理実践実習Ⅱｂ」におけるケース担当の実例や仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者（心理臨床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。課題に対するフィードバックの方法としては、実習中の発問に対し適宜口頭でフィードバックするとともに、「実習記録ノート」に個別にコメントして返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
「心理実践実習Ⅱｂ」においてケース担当する中で、社会常識的な知識やふるまいについて、教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを通じて、自己省察し自身の課題を整理しておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（ディスカッションやワークへの参加度など）（70点）、その他提出物・実習ノートなど（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅱｂ（学内実習）

270429N0J
大学院
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
10
伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「心理相談の実践」と題し、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中で、本学附設の心理臨床センターの来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。また、心理相談室の運営（受付対応、インテーク面接への陪席、相談室やプレイルーム設えの整備など）に携わり、心理相談を行う上での基本的な事項を踏まえてそれらを実践することを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
本学附設の心理相談室の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
４．多職種連携および地域連携の理解と実践
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤・三好・向山・佐藤・空間・村松
（ケース担当については各実習生にスーパーバイザーを配置し、そのほか実習課題に応じて指導担当を調整する）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本学附設の心理相談室において、担当ケースに関わる実習として、80時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。
１．インテーク面接に関する陪席・報告
２．ケース（心理相談）担当とそれに伴う準備・事後対応（記録など）
３．ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・事後対応（所見作成など）
４．心理検査担当（フィードバック面接を含む）とそれに伴う準備・事後対応
５．心理相談室カンファレンス等での発表
６．担当ケースに関する関係機関とのカンファレンス等への陪席
実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理相談室のカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。
フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
「心理実践実習Ⅰ・Ⅱａ」での学びと連動し、ケース運営に関する継続的な経験を通じて、社会常識的な知識やふるまい等について自分自身を振り返ったり、他の受講生の言動

を見聞きしたりして、心理的支援の実践に必要な知識や態度について考えること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（70点）、その他提出物・実習ノート・など（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
心理臨床センターでの実習計画は、それまでの個々の実習状況を 見ながら、実習指導者および実習担当教員と相談して個別に示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅲａ（学内実習）

270430N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
22.5
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「心理相談の展開」と題し、「心理実践実習Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb」、「心理実践実習ⅤAあるいはⅥA」、「心理実践実習Ⅶ」での体験学習の上に成り立っている。ケース検討会で、カウンセリング、心理療法、心理検査、心理臨床家としての基本的態度や倫理などについて指導を受ける。また、センターにおいて、センターの運営、業務内容などについても現場で体験を通して学ぶ。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（1）センターにおいて、電話受付等、相談室の周辺業務について学ぶ。
（2）事例検討会を通して、自分や他の実習者のケースの流れの見方、治療関係の見方などについて学ぶ。
（3）事例報告の書き方について学ぶ。
〔授業計画〕
授業中に指示する。
第1回目を含む各回の担当者：村松・河瀬・三好・向山・伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
大学に附設の「心理臨床センター心理相談室」でのケース担当に必要な事項を学ぶため、67.5時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、「心理実践実習Ⅳｂ」におけるケース担当の実例や仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者（心理臨床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。
フィードバックは、グループディスカッションや個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
「心理実践実習Ⅲｂ」のケース担当に関連して、心理的支援を実践するために必要な社会常識的な知識やふるまいについて自己省察し、相談室のさまざまなケースに触れて教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを行う中で、自身の課題を整理しておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
22
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（ディスカッション、心理相談室運営に関わるワークへの参加、記述課題など）（70点）、その他提出物・実習ノートなど（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
センター業務は、基本的に長期休暇にかかわらず継続して行われる。
社会人として、また実習生として責任ある行動をとることが求められる。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士・精神科医として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅲｂ（学内実習）

270431N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
16
伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「心理相談の実践」と題し、「心理実践実習Ⅰ・Ⅱａ・Ⅱｂ・ⅤＡもしくはⅥＡ・Ⅶ」での体験学習の上に

成り立ち、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中で、本学附設の心理臨床センターの来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。また、心理相談室の運営（受付対応、インテーク面接への陪席、相談室やプレイルーム設えの整備など）に携わり、心理相談を行う上での基本的な事項を踏まえてそれらを実践することを目的とする。
さらには、それまでの実践を踏まえ、自身が担当するケースについて、個々のクライエントへのより深い理解、また関係機関や他スタッフとの連携も視野に入れて支援計画を練り実践していくことを目指す。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
本学附設の心理相談室の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
４．多職種連携および地域連携の理解と実践
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤・三好・向山・佐藤・空間・田中・村松
（ケース担当については各実習生にスーパーバイザーを配置し、そのほか実習課題に応じて指導担当を調整する）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本学附設の心理相談室において、担当ケースに関わる実習として、74時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。
１．インテーク面接に関する陪席・報告
２．ケース（心理相談）担当とそれに伴う準備・事後対応（記録など）
３．ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・事後対応（所見作成など）
４．心理検査担当（フィードバック面接を含む）とそれに伴う準備・事後対応
５．心理相談室カンファレンス等での発表
６．担当ケースに関する関係機関とのカンファレンス等への陪席
実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理相談室のカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。
フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
M1段階での実習や「心理実践実習Ⅲａ」での学びと連動し、ケース運営に関する継続的な経験を通じて、社会常識的な知識やふるまい等について自分自身を振り返ったり、他の受講生の言動を見聞きしたりして、心理的支援の実践に必要な知識や態度について考えること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（70点）、その他提出物・実習ノート・など（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
心理臨床センターでの実習計画は、それまでの個々の実習状況を見ながら、実習指導者および実習担当教員と相談して個別に示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅳａ（学内実習）

270432N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期集中
その他
ー
22.5
河瀬　雅紀　伊藤　一美　向山　泰代　三好　智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「心理相談の展開」と題し、「心理実践実習Ⅰ・Ⅱa～Ⅲa、Ⅱｂ～Ⅲｂ・Ⅴ～Ⅷ」での体験学習の上に成り立っている。ケース検討会で、カウンセリング、心理療法、心理検査、心理臨床家としての基本的態度や倫理などについて指導を受ける。また、学内実習施設「心理臨床センター」において、心理的支援を実践するために必要なセンターの運営、業務内容などについても現場で体験を通して学ぶ。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（1）心理臨床センターにおいて、電話受付等、相談室の周辺業務について学ぶ。
（2）ケース検討会を通して、自分や他の実習者のケースの流れの見方、治療関係の見方などについて学ぶ。
（3）ケース報告の書き方について学ぶ。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
授業中に指示する。
第1回目を含む各回の担当者：河瀬・村松・三好・向山・伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
大学に附設の「心理臨床センター心理相談室」でのケース担当に必要な事項を学ぶため、67.5時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、「心理実践実習Ⅳｂ」におけるケース担当の実例や仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者（心理臨床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。
フィードバックは、グループディスカッションや個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
「心理実践実習Ⅳｂ」のケース担当に関連して、心理的支援を実践するために必要な社会常識的な知識やふるまいについて自己省察し、相談室のさまざまなケースに触れて教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを行う中で、自身の課題を整理しておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（ディスカッションや心理相談室運営に関わるワークへの参加、記述課題など）（70点）、その他提出物・実習ノートなど（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
ケース検討会は履修生全員が一堂に会しての実施を含む。心理臨床センターでの実習計画は個別に示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士・精神科医として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅳｂ（学内実習）

270433N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期集中
その他
ー
15
伊藤　一美　向山　泰代　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「心理相談の実践」と題し、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中で、本学附設の心理臨床センターの来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。また、心理相談室の運営（受付対応、インテーク面接への陪席、相談室やプレイルーム設えの整備など）に携わり、心理相談を行う上での基本的な事項を踏まえてそれらを実践することを目的とする。
さらには、それまでの実践を踏まえ、自身が担当するケー

スについて、個々のクライエントへのより深い理解、また関係機関や他スタッフとの連携も視野に入れて支援計画を練り実践していくことを目指す。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
本学附設の心理相談室の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
４．多職種連携および地域連携の理解と実践
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤・三好・向山・佐藤・空間・田中・村松
（ケース担当については各実習生にスーパーバイザーを配置し、そのほか実習課題に応じて指導担当を調整する）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本学附設の心理相談室において、担当ケースに関わる実習として、30時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。
１．ケース（心理相談）担当とそれに伴う準備・事後対応（記録など）
２．ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・事後対応（所見作成など）
そのほか、担当ケースの状況に応じて、心理検査担当、心理相談室カンファレンス等での発表、担当ケースに関する関係機関とのカンファレンス等への陪席などを行う場合もある。
実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理相談室のカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。
フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
M2前期までの心理実践実習を踏まえ、「心理実践実習Ⅳa」での学びと連動し、ケース運営に関する継続的な経験を通じて、社会常識的な知識やふるまい等について自分自身を振り返ったり、他の受講生の言動を見聞きしたりして、心理的支援の実践に必要な知識や態度について考えること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（70点）、その他提出物・実習ノート・など（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
心理臨床センターでの実習計画は、それまでの個々の実習状況を見ながら、実習指導者および実習担当教員と相談して個別に示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅴ（学外実習）Ａ

270434A0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期集中
その他
ー
34
空間　美智子　高井　直美　薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている福祉分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
福祉分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
1.心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーシ

ョン」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2.心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3.心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
4.多職種連携および地域連携の理解と実践
5.公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
1.指定された福祉分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり)、実習担当教員による大学等での指導を含めて、計60時間以上の実習を行う。
2.心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3.担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4.担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5.実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6.実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7.実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
配属先の実習施設に関する情報（歴史、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
実習施設での実習課題の遂行（60点)、実習施設（実習指導者）による評価（15点)、実習担当教員による評価（15点)、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士・臨床発達心理士として、福祉機関・医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ｖ（学外実習）Ｂ

270434B0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
34
空間　美智子　高井　直美　薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている福祉分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
福祉分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
1.心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2.心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3.心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
4.多職種連携および地域連携の理解と実践
5.公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
1.指定された福祉分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり)、実習担当教員による大学等での指導を含めて、計60時間以上の実習を行う。
2.心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3.担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4.担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5.実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6.実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7.実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
配属先の実習施設に関する情報（歴史、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
実習施設での実習課題の遂行（60点)、実習施設（実習指導者）による評価（15点)、実習担当教員による評価（15点)、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士・臨床発達心理士として、福祉機関・医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅵ（学外実習）A

270435A0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期集中
その他
ー
34
向山　泰代　三好　智子　佐藤　睦子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、心理実践実習Ⅰで学習した知識と体験を踏まえ、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている教育分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
教育分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
４．多職種連携および地域連携の理解と実践
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．指定された教育分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導を含めて、計60時間以上の実習を行う。
２．心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
３．担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
４．担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
５．実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
６．実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
７．実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
配属先の実習施設に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
実習施設での実習課題の遂行（60点)、実習施設（実習指導者）による評価（15点)、実習担当教員による評価（15点)、その他提出物・実習ノートなど（１0点）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

心理実践実習Ⅵ（学外実習）Ｂ

270435B0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
34
向山　泰代　三好　智子　佐藤　睦子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、心理実践実習Ｉで学習した知識と体験を踏まえ、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている教育分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
教育分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
４．多職種連携および地域連携の理解と実践
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．指定された教育分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり)、実習担当教員による大学等での指導を含めて、計60時間以上の実習を行う。
２．心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
３．担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
４．担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
５．実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
６．実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
７．実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
配属先の実習施設に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
実習施設での実習課題の遂行（60点)、実習施設（実習指導者）による評価（15点)、実習担当教員による評価（15点)、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

心理実践実習Ⅶ（学外実習）

270436N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期集中
その他
ー
34
河瀬　雅紀　伊藤　一美　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている保健医療分野等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
保健医療分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
４．多職種連携および地域連携
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．指定された保健医療分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日･8時間以上、但し実習施設により変更あり)、実習担当教員による大学等での指導を含め

て、計60時間以上の実習を行う。
２．心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
３．担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
４．担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
５．実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
６．実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
７．実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
配属先の実習施設に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士・精神科医として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅷ（学外実習）

270437N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
34
河瀬　雅紀　伊藤　一美　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている保健医療分野等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。なお、本科目は「心理実践実習ⅤorⅥ」「心理実践実習Ⅶ」での体験学習の上に成り立っている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
保健医療分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
４．多職種連携および地域連携
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
１．指定された保健医療分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日･8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導を含めて、計60時間以上の実習を行う。
２．心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
３．担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
４．担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
５．実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
６．実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。

７．実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕

配属先の実習施設に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行（60点)、実習施設（実習指導者）による評価（15点)、実習担当教員による評価（15点)、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫　臨床心理士・精神科医として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理統計学特論（少数例統計）

270014N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
金曜 5限
ー
60
森下　正修

〔科目の教育目標（Course Description)〕

現代の多くの心理学研究は数量的研究です。研究テーマに沿った実験や調査をおこない、得られたデータを分析して、自説を検討するための材料を得ます。したがって、研究者は自分のデータにふさわしい統計手法を選び、使うことができなければなりません。これは、心理学の研究者だけでなく、実証データをカウンセリングに生かそうという臨床家や、生徒のデータなどから適切な教育評価をしようという教育者にとっても欠かせないスキルといえます。

本講義では、こうした統計手法の理論的背景を学ぶとともに、心理・教育分野のデータに対して実際にコンピュータで分析をおこないます。こうした実習を通じて、分析の手順や留意点に関して体験的に理解することをめざします。

統計ソフトとしては主にSPSSを使用しますが、分析に応じて他のソフトも随時取り上げて使い方を説明します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕

教育や臨床などあらゆる心理学分野で必要とされる記述統計全般と、無相関検定、t検定、分散分析、カイ二乗検定といった推測統計について、理論的枠組を理解しコンピュータ上で実施する際の手順を身につけること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理統計に関する全体的理解	心理統計の基礎的な概念がわからない	心理統計で示される結果の意味がある程度わかる	心理統計の手法まで含めてある程度のことがわかる	自身や先行研究のデータに適した統計手法がわかる
統計前のデータ処理	実験・調査で得たローデータの処理がわからない	ローデータを統計ソフトに入力・管理することができる	ローデータを統計にかけられるようにある程度処理できる	ローデータを統計に適した形に処理しておくことができる
記述統計全般の知識・スキル	記述統計の意味がよくわからない	記述統計で示される結果がある程度わかる	記述統計の様々な指標の意味がわかる	自身のデータに対し必要な記述統計を実施できる
相関分析の知識・スキル	相関分析の意味がよくわからない	相関分析で示される結果がある程度わかる	積率相関、順位相関などの意味がわかる	自身のデータに対し必要な相関分析を実施できる
母平均の差の検定に関する知識・スキル	t検定や分散分析の意味がよくわからない	t検定や分散分析で示される結果がある程度わかる	ひとつから多数の平均の差の検定まで、意味がわかる	自身のデータに対しt検定や分散分析を適切に実施できる
質的データの分析に関する知識・スキル	質的データの分析の意味がよくわからない	質的データの分析で示される結果がある程度わかる	クロス集計、カイ二乗検定等の分析の意味がわかる	自身の質的データに対し必要な分析を実施できる

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス、イントロダクション
本講義の進め方、評価方法と、全体の内容について説明します

第 2 回　統計前の処理
実験、調査データを得て統計に入る前に必要なデータ整理の基礎について説明します

第 3 回　SPSSの基本操作
本講義で最もよく使用するSPSSの操作や機能全般について説明します

第 4 回　記述統計①　度数分布、代表値、散布度
基礎的な記述統計について、概念も踏まえつつ統計の方法を実習します

第 5 回　記述統計③　データの変換、標準化
やや発展的な記述統計について、概念も踏まえつつ統計の方法を実習します
第 6 回　相関分析①　散布図、ピアソンの積率相関係数、無相関検定
相関分析の基礎について、概念と分析手順をあわせて説明します
第 7 回　相関分析②　偏相関、順位相関係数
やや発展的な相関分析について、概念と分析手順をあわせて説明します
第 8 回　①　t検定（対応のある場合）
データの対応の有無について説明し、対応のある場合のt検定を実習します
第 9 回　t検定②　t検定（対応のない場合）、1サンプルのt検定
対応のない場合のt検定と、1サンプルのt検定を実習します
第 10 回　分散分析①　１要因分散分析（対応のある場合、ない場合）
１要因の分散分析の流れを説明し、対応のある場合とない場合の実施手順を実習します
第 11 回　分散分析②　２要因分散分析（分析の流れ）
２要因分散分析の考え方、分析の流れに関して、詳しく説明します
第 12 回　分散分析③　２要因分散分析（実施手順）
２要因分散分析の実施手順を実習します
第 13 回　分散分析④　３要因分散分析
３要因分散分析の分析の流れと実施手順について説明します
第 14 回　名義尺度データの分析　カイ二乗検定、コクランのQ検定
名義尺度データの分析のうち、基本となるカイ二乗検定とコクランのQ検定について説明します
第 15 回　効果量分析
統計における効果量の考え方とその算出について説明します

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
期末に、自身の研究計画に即した模擬データを作成し、それに対して必要な分析をおこなってもらってレポートにまとめてもらいます。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
独自に作成した講義プリントを配布します。また、サンプルデータを配布し、その分析手順を実演するとともに、受講生にも自分でコンピュータ上での分析を実習してもらいます。

・レポートに対するフィードバック：メール提出されたレポートに対し、個別にコメントを返しますので、今後の参考にして下さい

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
自分が普段から読んでいる論文でどのような分析手法が使われているかを意識し、自分がその理論や手法をどの程度知っているかを確認しておいてください。また、自身の研究にとくに必要になりそうな手法を意識して受講してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は授業参加度（30%）、レポート（70%）の比率とします。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理療法特論

270073N0J
大学院
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
60
杉原　保史

〔科目の教育目標（Course Description）〕
心理療法の入門書は、主要な学派の概要のバラバラで並列的な記述であるか、いずれか１つの学派についての体系的な記述であるか、そのいずれかであることが多い。そこでは入門者はいずれか１つの学派を選択し、もっぱら排他的にその学派を学んでいくことが暗黙の前提となっている。この講義は、この前提に挑戦するものである。受講学生が、異なる様々の学派間の隠れた共通性や両立可能性についての認識を深めること、ならびに、実践の中で複数の学派の知恵を調和的に活用できるための準備性を整えること、を目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
心理療法が多くの学派によって成り立っていることを理解し考察する／学派というものが持つ機能や性質について検討する／学派についての自らの姿勢を振り返る／学派を超えて共通する治療要因について学ぶ／統合的なアプローチについて理論的に学ぶ／ロールプレイなどの実習を行い体験的に学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回　統合的アプローチとは
統合的アプローチの大枠について学ぶ。

第 2 回　学派とは何か
統合的アプローチとは学派の統合を推し進める立場である。統合の基礎にある学派とは何なのかを理解する。

第 3 回　学派を超えて共通する治療要因
どのような学派に基づく実践を行うセラピストでも、有能なセラピストが面接で行うことには共通するところがある。共通要因と呼ばれるそうした治療要素について学ぶ。

第 4 回　カウンセラーの話の聴き方について
どのような学派のセラピストも、クライエントの話を共感的に受容的に傾聴するスキルは必要である。学派を超えて共通の治療スキルとしての傾聴スキルについて学ぶ。

第 5 回　カウンセリングのデモンストレーション
傾聴スキルについて、単に知的に学ぶだけでなく、教員のデモンストレーション（実演）を見ることによって、モデル学習を推進する。

第 6 回　循環的心理力動論（概論）
ポール・ワクテルの循環的心理力動論について概説する。

第 7 回　エクスポージャーについて
ポール・ワクテルの循環的心理力動論で重視されているエクスポージャーの技術とその適用について学ぶ。

第 8 回　トゥー・パーソンの視点
ポールワクテルの循環的心理力動論で重視されているトゥー・パーソンの視点について学ぶ

第 9 回　ロールプレイ実習（実技）
ロールプレイを通して体験的に学びを深める。

第 10 回　ロールプレイ実習（振り返り）
ロールプレイを振り返り、多面的に討議することを通して、実践的な学びを深める。

第 11 回　感情体験を深める技術の理解
感情に焦点づけ、感情を深めるための話の聴き方の基礎技術、スローダウン、トラッキング、アチューンメント、アファメーション、自己開示といった技術について概説する

第 12 回　感情体験を深める技術の実習
感情に焦点づけ、感情を深めるための話の聴き方の基礎技術、スローダウン、トラッキング、アチューンメント、アファメーション、自己開示といった技術について実習を通して体験的に学ぶ

第 13 回　カウンセラーの言葉の技術（概説）
どのような学派の実践をするにせよ、言葉を治療的に用いるスキルは必須である。言葉の技術の必要性と治療的意義について概説する。

第 14 回　カウンセラーの言葉の技術（さまざまな工夫）
カウンセラーがクライエントに効果的に治療的メッセージを届けるための言葉の工夫について例を挙げながら紹介する。

第 15 回　カウンセラーの言葉の技術（集団的討議）
臨床場面のいくつかの例を取り上げ、そこでどのようにクライエントに言葉をかけるかについて、グループ討議によって検討し、言葉の技術についての実践的な理解を深める。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義、論文やテキストの講読、質疑、討議、実習。レポート課題に対するフィードバックは、採点後、電子メール等により行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストの購読、配布資料の精読。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、質疑や討議や実習への参加の様子を５０％、レポートを５０％として行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『技芸としてのカウンセリング入門』/杉原保史/創元社/2012/4422115464/学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『心理療法の統合を求めて』/ワクテルＰ/金剛出版/2002/477240726X

『心理療法家の言葉の技術』/ワクテルＰ/金剛出版/2004/4772408290

『説得と治療』/フランクとフランク/金剛出版/2007/4772409912

『統合的アプローチによる心理援助』/杉原保史/金剛出版/2009/4772410694

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

臨床心理士として、大学での心理的支援（学生相談）の勤務経験あり。その他にも、精神病院での臨床心理士としての（嘱託）勤務経験あり。

人間関係発達特論

270122N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
水曜 1限
ー
90
高井　直美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

社会・情動発達の基本的理論、および昨今の重要な研究について理解する。さらに、社会・情動発達に問題が生じている子ども、障害を持っている子どもの発達について理解し、教育現場等でどのような支援を行うことができるか、さまざまな観点から考察する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

社会・情動発達の基本的理論、およびいくつかの重要な研究について、文献講読も行いながら、詳細に理解する。さらに、いじめや不登校など社会・情動発達に問題が生じている子ども、さらに自閉症やADHDなど障害を持っている子どもの発達について学び、問題や障害のアセスメントの方法について、実践的に学ぶ。さらには、臨床発達の現場、教育現場等で行われている支援の仕方について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会・情動アセスメントの力量を高めようという動機を持たない。	社会・情動アセスメントの力量を高めようという動機をわずかに持っている。	社会・情動アセスメントの力量を高めようという動機を持っている。	社会・情動アセスメントの力量を高めようという動機を大いに持っている。
知識・理解力	社会・情動発達の基礎知識を全く持っていない。	社会・情動発達の基礎知識をわずかに持っている。	社会・情動発達の基礎知識を持っている。	社会・情動発達の基礎知識をかなり持っている。
言語力	社会・情動発達の専門知識について、言語化できない。	社会・情動発達の専門知識について、わずかに言語化できる。	社会・情動発達の専門知識について、言語化できる。	社会・情動発達の専門知識について、かなり言語化できる。
思考・解決力	社会・情動発達の問題について、全く考えることができない。	社会・情動発達の問題について、わずかに考えることができる。	社会・情動発達の問題について、考えることができる。	社会・情動発達の問題について、しっかりと考えることができる。
共生・協働する力	社会・情動アセスメントのロールプレイができない。	社会・情動アセスメントのロールプレイが少しできる。	社会・情動アセスメントのロールプレイができる。	社会・情動アセスメントのロールプレイがかなりできる。
創造・発信力	研究論文をまとめて発表することができない。	研究論文をまとめて発表することができる。	研究論文をまとめて発表することが、十分できる。	研究論文をまとめて発表することが、かなり上手くできる。

〔授業計画〕

第 1 回　社会・情動発達の基礎
ヒトの子どもの未熟性から、社会・情動発達の基本的な意味を探る。

第 2 回　情動の役割と発達
情動の理論の歴史的変遷と各理論の特徴を理解する。また一般的な情動発達の過程も学ぶ。

第 3 回　気質と個性、パーソナリティの発達
パーソナリティの形成過程および情動発達の個人差と文化差について学ぶ。

第 4 回　アタッチメントの発達
乳児期にみられる愛着の形成理論について学ぶ。

第 5 回　乳児期の社会性の発達
乳幼児期にみられる情動と関係の障害について事例を通して学ぶ。

第 6 回　社会性の発達と集団参加
幼稚園や小学校の集団参入における自己と関係の障害について学ぶ。

第 7 回　自己の発達①
幼児期の自己制御の発達について、研究論文から学ぶ。

第 8 回　社会・情動発達のアセスメント①
発達検査の歴史と社会・情動発達のアセスメントの歴史を探る。

第 9 回　社会・情動発達のアセスメント②
さまざまな検査の特徴について理解する。

第 10 回　社会・情動発達のアセスメント③
発達検査または知能検査を使った実習①

第 11 回　社会・情動発達のアセスメント④
発達検査または知能検査を使った実習②

第 12 回　自己の発達②
思春期・青年期の同一性の発達について、研究論文から学ぶ。

第 13 回　自己の発達と社会性
自己意識や自尊感情の発達が社会性の発達とどのように関係するか、研究論文から学ぶ。

第 14 回　アクション・リサーチの紹介
臨床発達の現場での支援について研究論文から読み解く。

第 15 回　全体を通した復習
まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
　講義、受講生による文献発表、発達検査の実習など、さまざまな方法を用いる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
　発達の基礎理論の学びについて復習しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　授業中の文献発表、実習における取り組み方などを参考にし、授業内に課す、いくつかの小レポートと合わせて総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
順番は変わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生徒指導・キャリア教育特論

270060N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
木曜 3限
ー
90
尾崎　仁美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本特論では、生徒指導およびキャリア教育の理念や内容について理解を深めるとともに、具体的なキャリア教育実践の検討を通して、児童生徒の人間的成長を導く生徒指導・キャリア教育のあり方を考察する。また、キャリアやキャリア発達に関する諸理論、およびキャリア・カウンセリングの理論や技法についても学び、一人ひとりの内面を理解し、個に応じた支援を行うために必要な視点を培う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．生徒指導およびキャリア教育について理解を深める。
２．キャリアやキャリア発達に関する理論を学ぶ。
３．具体的なキャリア教育実践の検討を通して、児童生徒や若年者に対するキャリア形成の支援のあり方を考える。
４．キャリア・カウンセリングの理論や技法について理解を深める。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない	自律的で積極的な学習態度がある程度身についている	自律的で積極的な学習態度がおおむね身についている	自律的で積極的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	生徒指導・キャリア教育に関する基礎的な知識が身についていない	生徒指導・キャリア教育に関する基礎的な知識がある程度身についている	生徒指導・キャリア教育に関する基礎的な知識がおおむね身についている	生徒指導・キャリア教育に関する基礎的な知識が十分身についている
言語力	学習した内容を言語化し、人に説明する力が身についていない	学習した内容を言語化し、人に説明する力がある程度身についている	学習した内容を言語化し、人に説明する力がおおむね身についている	学習した内容を言語化し、人に説明する力が十分身についている
思考・解決力	児童生徒や若年者に対するキャリア形成支援のあり方を考える力が身についていない	児童生徒や若年者に対するキャリア形成支援のあり方を考える力がある程度身についている	児童生徒や若年者に対するキャリア形成支援のあり方を考える力がおおむね身についている	児童生徒や若年者に対するキャリア形成支援のあり方を考える力が十分身についている
共生・協働する力	キャリア発達やキャリア意識について学習したことを、個々の特性や多様性の理解に活かす力が身についていない	キャリア発達やキャリア意識について学習したことを、個々の特性や多様性の理解に活かす力がある程度身についている	キャリア発達やキャリア意識について学習したことを、個々の特性や多様性の理解に活かす力がおおむね身についている	キャリア発達やキャリア意識について学習したことを、個々の特性や多様性の理解に活かす力が十分身についている
創造・発信力	学習したことを研究や実践に活かす力が身についていない	学習したことを研究や実践に活かす力がある程度身についている	学習したことを研究や実践に活かす力がおおむね身についている	学習したことを研究や実践に活かす力が十分身についている

〔授業計画〕
第 1 回　生徒指導とは
第 2 回　キャリア教育とは
第 3 回　キャリアの基礎理論①特性・因子論アプローチ
第 4 回　キャリアの基礎理論②キャリア発達理論
第 5 回　キャリアの基礎理論③社会的認知理論
第 6 回　キャリアの基礎理論④近年のキャリア理論
第 7 回　キャリア教育の具体的な展開①小学校におけるキャリア教育
第 8 回

キャリア教育の具体的な展開②中学・高等学校におけるキャリア教育
第 9 回　キャリア教育の具体的な展開③大学におけるキャリア教育
第 10 回　若年者のキャリアをめぐる意識
第 11 回　若年者のキャリア形成支援
第 12 回　キャリア・カウンセリングの理論と技法
第 13 回　キャリア・カウンセリングの実際
第 14 回　キャリア教育の課題
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
講義、および受講生による発表とディスカッションにより授業を行う。文献は、授業中に指示する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
授業中に文献を指示するので、事前に読んでおくこと。また、発表に際しては、文献を精読し、レジュメを作成することが求められる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
発表、ディスカッションへの参加状況、レポートなどから総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開ａ)

270410N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
火曜 3限
ー
60
河瀬　雅紀

〔科目の教育目標（Course Description)〕
精神医療の現場では、患者が示すさまざまな心と行動の問題に直面することになる。そこで本科目では、
①精神医学的な診断の枠組みを事例の見立てに応用することができる
②精神症状を呈する事例を読み取り、精神医学的診断及び治療と関連づけて支援の具体的プランを立てることができる
③種々の臨床心理学的介入法から事例に適したものを選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な支援計画を立てることができる
④リエゾン精神医学について説明することができる
⑤他職種との連携、社会資源の活用のあり方を説明することができる
⑥精神科薬物療法の基本的な事項について説明できる
ことを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
（１）不安・抑うつなど主な病態について、事例に適した心理学的介入法を選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な支援計画を立てることができる
（２）抗精神病薬・抗うつ薬・抗不安薬などの作用機序・副作用などについて説明できる
（３）身体科治療中に生じる精神医学的問題（症状性精神障害、適応障害など）について説明できる
（４）リエゾン精神医学の概念・アプローチについて説明できる
（５）緩和医療・グリーフケアについて説明できる
（６）思春期・青年期の特徴的な事例について、発達的課題や家族機能にも留意し、精神医学的診断及び治療と関連づけて説明できる
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神医学における主な病態について	知識を持っていない	主な病態に関する臨床心理学的介入についての知識を持っている	主な病態に関する臨床心理学的介入について、精神医学的診断及び治療と関連付けて説明することができる	主な病態に関する具体的な事例を想定し、精神医学的診断及び治療と関連づけて臨床心理学的介入法の選択と支援計画の立案が出来る
向精神薬について	知識を持っていない	効果と有害作用についての知識を持っている	心理教育として、向精神薬の効果と有害作用について、説明することが出来る	具体的な事例を想定し、相談者の利益から、向精神薬の効果と有害作用について、説明することが出来る
リエゾン精神医学・緩和ケア・グリーフケアについて	知識を持っていない	身体疾患治療と関連した精神医学的問題についての知識を持っている	身体疾患治療と関連した心理社会的問題について、臨床心理学的介入の要点を説明することが出来る	身体疾患治療中の精神医学的問題について、具体的な事例を想定し、適切な臨床心理学的介入法の選択や他専

				門職との連携について、説明することが出来る
精神疾患と生涯発達心理の視点について	発達的課題と精神症状との関連について、知識を持っていない	心理的な問題を、精神医学的診断および発達課題と関連づけて理解することが出来る	加えて、精神医学的治療と関連づけて、臨床心理学的介入の方法について説明することが出来る	これらを、具体的な事例を想定して、家族への介入や他専門職との連携も含めた支援計画を立てることが出来る

〔授業計画〕

第 1 回
事例に対する精神医学的アセスメントの基本的事項について（概論）

第 2 回
事例に対する心理学的アセスメントの基本的事項（精神医学的視点から）

第 3 回
うつ理解の原則について

第 4 回
精神医療と心理学的介入との関連について（うつ症状を呈する事例を通して）

第 5 回
精神科薬物療法の基礎（抗精神病薬）

第 6 回
精神科薬物療法の基礎（抗うつ薬・抗不安薬など）

第 7 回
精神科薬物療法の基礎（ADHDとの関連で）

第 8 回
精神医療の現場で必要となる症状評価を学ぶ（実習までに身につけること）

第 9 回
総合病院におけるリエゾン精神医学（概論）

第 10 回
総合病院におけるリエゾン精神医学（せん妄など）

第 11 回
リエゾン精神医学からみたチーム医療と心理学的介入

第 12 回
喪失・悲嘆と精神医学（基礎的事項）

第 13 回
喪失・悲嘆と精神医学（事例による議論）

第 14 回
精神医療と法律

第 15 回
精神医療における社会資源について

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
プリント資料、スライド、視聴覚教材などを用いて、質疑・討論を行い、理解を深める。
すなわち、授業中には重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックすることにより理解を深める
事例を用いての討論を多く取り入れる。
毎回の講義後、配布資料および参考文献などにより復習をすること。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
精神医学の教科書（精神医学 (MINOR TEXTBOOK) , 金芳堂など）から、統合失調症、気分障害、不安障害、ストレス関連障害、発達障害の項目を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
質疑・討議の参加状況を40％、課題の提出・発表を60%として、総合的に評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕
学部で学習した精神医学の基礎を身につけていることを前提に講義は進められる。そのため、受講にあたっては精神医学の基礎知識の再確認をしておくこと。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『うつ病　知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//
『DSM-Ⅴ　精神疾患の診断・統計マニュアル』/高橋三郎他（訳）/医学書院//
『精神医学 (MINOR TEXTBOOK)第12版』/加藤伸勝/金芳堂/2013/
『僕のこころを病名で呼ばないで』/青木省三/ちくま文庫//
『若者の「うつ」』/傳田健三/ちくまプリマー新書//

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

青年心理学特論

270034N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
火曜 3限
ー
60
松島　るみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕

青年期は、子どもから大人への移行期である。第二の誕生の時期ともいわれ、心身の両面において重要な変容を遂げる。

本科目では、青年期における心身の発達の諸相、発達課題、自己の形成と確立、対人関係（友人関係・恋愛関係）、適応・不適応、進路選択・進路意識などについて論じる。青年期は、自己が質的に変化し再構成される時期であり、自分自身が一つの課題となる時期であるので、自己に関わる諸問題についても考察する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

１．青年期の発達の諸相について理解を深める。
２．青年期に生じる諸問題を考察する。
３．現代青年における諸問題に関して理解を深める。
４．青年期に関する各自の問題意識を啓発する。
５．青年を対象とした研究法について理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についている。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	青年心理学の知識や研究法に関する知識が身についていない。	ある程度、青年心理学の知識や研究法に関する知識を身につけている。	おおむね青年心理学の知識や研究法に関する知識を身につけている。	青年心理学の知識や研究法に関する知識を十分身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が身についていない。	ある程度、青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が身についている。	おおむね青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が身についている。	青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身についていない。	ある程度、学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身についている。	おおむね学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身についている。	学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身についている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力を身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力を身につけている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力を十分身につけている。

〔授業計画〕

第 1 回　青年期と現代青年における課題
第 2 回　青年期における身体と心およびジェンダー、セクシュアリティ
第 3 回　論文講読発表と討論（青年期における身体と心およびジェンダー、セクシュアリティに関して）
第 4 回　青年期における自己形成（自我の発達・アイデンティティ）
第 5 回　論文講読発表と討論（青年期における自己形成に関して）
第 6 回　青年期における対人関係①（友人関係）
第 7 回　青年期における対人関係②（恋愛関係）
第 8 回　論文講読発表と討論（対人関係に関して）
第 9 回　青年期とメディアの関わり
第 10 回　論文講読発表と討論（メディアとの関わりに関して）
第 11 回　青年期における適応・不適応
第 12 回　論文講読発表と討論（青年期における適応・不適応に関して）
第 13 回　青年期における進路・キャリア選択
第 14 回　論文講読発表と討論（進路・キャリア選択に関して）
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．講義形式と演習形式（論文講読）を並行して授業を進める。
２．講義では、教科書は使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。
３．演習（論文講読）では、受講者各自が専門論文を講読し、概要と考察を発表して討論を行う。
４．ただ知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深め、研究を発展させる態度が望まれる。
５．授業中の発問に対する受講生の回答に対して、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。
２．次の授業内容について概要を把握しておくこと。
３．発表に際しては、論文を精読し、発表用スライド（レジュメ）を作成すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
レポート（40％)、発表と討論参加（60％）を総合して評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153A0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
必修
伊藤　一美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究

270153C0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
必修
尾崎　仁美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究

270153D0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
必修
河瀬　雅紀

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。すなわち、授業中に重要事

項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭や文面等でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153F0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
必修
神月　紀輔

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　教員として学校に勤務経験あり

特別研究

270153G0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
必修
薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究

270153H0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
必修
佐藤　睦子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究

270153I0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
必修
空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference)〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究

270153J0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
必修
高井　直美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究

270153K0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
田中　誉樹

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究

270153L0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
必修
廣瀬　直哉

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究

270153M0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
必修
松島　るみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別研究

270153O0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
必修
三好　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

特別支援アセスメント実習

270058N0J
大学院
心理学研究科
1単位　前期
木曜 4限
ー
15
薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description)〕
乳幼児および就学後の児童・生徒で発達支援を必要とする対象者理解と支援技術を習得する。特に、療育、保育、教育（特別支援教育）の現場で必要とされる臨床発達心理学および教育心理学の専門知識や発達支援、教育支援に関する理論やアセスメント方法など専門的技術の習得を目標とする。
なお、本科目は「DP科目」の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」5,8,11を含む。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.就学前後における、気になる子どもの困りや障害特性、実態を理解する。
2.特別支援教育における理念と意義を理解し、現代社会における発達支援への理解を深める。
3.子どもの状態を把握するアセスメント方法（発達検査、知能検査等）の習得。
4.アセスメント結果の解釈と個別の支援計画の作成を行う。
5.アセスメントに基づく発達支援の基本的技法に関する知識を習得。
6.教育機関、発達支援機関との協働・連携についての理解と方法を学ぶ。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　現代社会における発達支援
第 2 回　発達支援における医学的情報に関する知識とその利用
第 3 回　発達支援における心理士の高度専門性
第 4 回　発達支援の流れと基本的技法（インテークから具体的支援までの概説）
第 5 回　保育支援の実際（保育所・幼稚園・療育機関等でのアセスメントの概説）
第 6 回　乳幼児アセスメント実習（発達検査の実施）
第 7 回　乳幼児アセスメント実習（発達検査結果の解釈と所見のまとめ方）
第 8 回　乳幼児に関する指導・支援計画の作成
第 9 回　学童期・中・高校生における支援（学校・教育相談機関等でのアセスメントの概説）
第 10 回　児童・生徒アセスメント実習（知能検査の実施）
第 11 回　児童・生徒アセスメント実習（知能検査結果の解釈と所見のまとめ方）
第 12 回　児童生徒に関する個別の指導計画・教育支援方針の作成
第 13 回　療育、就学、教育相談等における保護者支援、コンサルテーション、（アセスメント結果の活用）
第 14 回　仮想事例によるケースワーク（支援プログラム・支援方法の検討）
第 15 回　療育、保育、教育現場における支援体制と連携について
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
理論の理解を基礎として、ロールプレイや提示事例の解釈等を実習し、実践的に心理検査に関する技術や発達および

教育的支援方法を習得する。
上記課題において求められるレポート、所見については、コメントをその都度、あるいは授業後個別に返却する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
授業で実施する発達検査、知能検査に関する理論、および実施方法についてはテキストやマニュアルに事前に目を通しておくこと。また、検査実習後のデータの整理、所見の書き方についても復習のうえ、各自で作成し、次の授業までに準備をしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度・実習への取り組み態度（30％）、課題作成（40％）、ディスカッション（30％）を評価対象とする。
〔留意事項（Other Information)〕
実習授業という性質上、実際に授業で取り組む課題から実践的、体験的に理論や方法を学ぶことが重要であり、それらが評価対象となることを認識しておくこと。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
適宜、参考資料を配布する。また、使用する検査用具・マニュアル等も貸出とする。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『WISC－Ⅳの臨床的利用と解釈』/プリフィテラ,A.,サクロフスキー,D.H.,ワイス,L.G.（編）／上野一彦・（監訳）/日本文化科学社/2012/
『新版Ｋ式発達検査にもとづく発達研究の方法』/中瀬惇/ナカニシヤ出版/2005/
『学童期の支援ー特別支援教育をふまえてー』/長崎勤・藤野博編著/ミネルヴァ書房/2011/
『発達障害の療育』/尾崎康子・三宅篤子【編著】/ミネルヴァ書房/2016/
その他は授業中に紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床発達心理士として医療・保健機関、学校現場等での支援業務経験あり。

乳幼児心理学特論

270033N0J
大学院
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
90
礒部　美也子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
乳幼児心理学特論では、乳幼児の発達理解を中心に、人間の身体的・生物学的･認知的発達研究の知見を共有するとともに具体的な幼児期の発達に関する理解を深めていく。特に現場における諸問題、たとえば乳幼児期の言語発達の遅れ、発達障害、特に自閉症、ADHD、その後の発達に見られる諸問題を幼児教育･発達心理学の観点から事例等を示しながら具体化し、保育・教育現場に応用可能な状態を目指す。
　理論と実践の両面から、乳幼児の発達の様相とその課題を論じることができ、現在の臨床的課題を理解する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1. 乳幼児発達心理学の知見をテキストと種々の文献からまとめ、講義との関連を深める。
2. 発達理論を整理し、互いにどのような関係にあるのかを考える。
3. 発達研究における方法論を明確にし、具体的な形で方法論を展開する。
4. 発達臨床の視点から、乳幼児期にみられる臨床的課題や障害の問題を理解する
5. 言語の発達の評価と支援について理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　乳幼児心理学概要
　　発達心理学に関する概要、基礎理論
第 2 回　乳幼児期の発達①
　　胎児期、乳児期の認知能力、乳幼児の運動発達
第 3 回　乳幼児期の発達②
　　幼児期の社会性、感情の発達
第 4 回　乳幼児期の発達③
　　幼児期の認知発達・心の理論
第 5 回　乳幼児期の発達④
　　愛着理論と愛着にかかわる諸問題；反応性愛着障害、児童虐待等
第 6 回　乳幼児期の発達評価
　　種々の発達検査の乳幼児期について
第 7 回　言語発達のアセスメント
　　アセスメントの考え方と実際　アセスメントのバッテリー
第 8 回　言語発達のアセスメントと支援の基本的考え
　　アセスメントの流れ、養育者面接、行動観察、検査、総合評価

第 9 回　幼児期・学齢期の言語発達支援
言語・コミュニケーション・スピーチの視点に立った支援の考え方、環境調整、学齢期の言語発達支援、ディスレクシアのアセスメントと支援
第 10 回　障害特性による言語発達支援（１）
知的障害、自閉症、TEACCH、マカトン、AAC、包括的支援プログラム
第 11 回　障害特性による言語発達支援（２）
発声発語領域への支援　構音障害、吃音等
第 12 回　乳幼児期の発達の諸問題
発達の障害、支援の場、多職種連携、事例
第 13 回　個人発表①
関連論文の発表と討議
第 14 回　個人発表②
関連論文の発表と討議
第 15 回　まとめ
全体的まとめ、到達度評価

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
講義と授業の中でのディスカッション、関連事項の個別プレゼンテーション、先行論文の発表などを実施する。適宜個別に小課題を出す。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
発達心理学の乳幼児期のトピックを復習しておく。新版K式発達検査、質問紙発達検査の乳幼児期について、どのような項目があるのか学習しておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
10

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度（20%）　課題のレポート・プレゼンテーション（40%）、小テスト（40%）

〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
集中講義の前に別途指示します

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『対話で学ぶ発達心理学』/塩見邦雄編/ナカニシヤ出版/2004/
『乳幼児の心理—コミュニケーションと自我の発達 (コンパクト新心理学ライブラリ)』/麻生武/サイエンス社//
『よくわかる乳幼児心理学 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』/内田伸子/ミネルヴァ書房/2008/
テーマに応じて適宜紹介します。
新版Ｋ式発達検査に関するもの

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
心理判定員、および言語聴覚士として公的機関での勤務経験あり

認知機構特論

270012N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
月曜 3限
ー
90
廣瀬　直哉

〔科目の教育目標（Course Description)〕
人間の認知のメカニズムを科学的に分析し、その過程を理解するには、心理学のみならず、幅広い学問を含んだ学際的な研究に触れることが必要である。特に、認知神経科学の研究は以前は仮説構成体でしかなかった認知モジュールの神経基盤を解明しつつある。本特論では、認知神経科学や認知科学の最近の知見に触れ、人間の認知機構についての理解を深めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1. 認知過程の神経基盤についての理解
2. 知覚・記憶などの基礎的認知メカニズムについての理解
3. 言語・思考などの高次の認知過程についての理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	認知神経科学・認知科学に関する概念・知識を理解し、説明することができない。	認知神経科学・認知科学に関する概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して問題解決をすることができる。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　認知機構の神経基盤
第 3 回　視覚
第 4 回　聴覚
第 5 回　認知
第 6 回　記憶
第 7 回　学習
第 8 回　知識
第 9 回　言語
第 10 回　意識
第 11 回　感情
第 12 回　概念
第 13 回　意思決定
第 14 回　問題解決
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
主として演習形式で授業を進める。受講生にあらかじめ決められたテーマに関する英語文献を読んでもらい、議論行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
予習用の英語文献を指定するので、それを授業前に読んでおくことが求められる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
テストは実施せず、授業参加度(100%)により評価を行う。
〔留意事項（Other Information)〕
英語の書籍、論文を読み進めるので、英文読解が得意でない学生は予習にかなりの時間がかかることを覚悟した上で受講すること。
なお、受講生の人数や関心により、授業内容や課題を変更することがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『Cognitive Neuroscience: A Very Short Introduction』/Richard Passingham/Oxford Univ Press/2016/0198786220
『The Cambridge Handbook of Cognitive Science』/Keith Frankish, William Ramsey/Cambridge University Press/2012/0521691907
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習Ⅰ

270231A0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
水曜 2限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description)〕
博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。
そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
２．文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
３．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	概ね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身につけていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識を身につけている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識を身につけている。	専門分野に関する知識や研究法の知識を十分身につけている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（全員）
第 2 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 3 回　研究計画および研究経過発表（全員）

第 4 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 5 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 6 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 7 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 8 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 9 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 10 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 11 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 12 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 13 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 14 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 15 回　研究計画および研究経過発表（全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。授業中のディスカッションでは、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業の順番は入れ替わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習 I

270231B0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
火曜 5限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。
　そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
２．文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
３．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
0
第 2 回　研究計画および研究経過発表
0
第 3 回　研究計画および研究経過発表
0
第 4 回　研究計画および研究経過発表
0
第 5 回　研究計画および研究経過発表
0
第 6 回　研究計画および研究経過発表
0
第 7 回　研究計画および研究経過発表
0
第 8 回　研究計画および研究経過発表
0
第 9 回　研究計画および研究経過発表
0
第 10 回　研究計画および研究経過発表
0
第 11 回　研究計画および研究経過発表
0
第 12 回　研究計画および研究経過発表
0
第 13 回　研究計画および研究経過発表
0
第 14 回　研究計画および研究経過発表

0
第 15 回　研究計画および研究経過発表
0
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業の順番は入れ替わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

発達・学校心理学専門演習 II

270232A0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
水曜 2限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。
　そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
２．文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
３．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	概ね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身につけていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識を身につけている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識を身につけている。	専門分野に関する知識や研究法の知識を十分身につけている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身	ある程度、研究結果を他者に発信	おおむね研究結果を他者に発信す	研究結果を他者に発信する力を十

	についていない。	する力を身につけている。	る力を身につけている。	分身につけている。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（全員）
第 2 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 3 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 4 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 5 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 6 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 7 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 8 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 9 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 10 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 11 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 12 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 13 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 14 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 15 回　研究計画および研究経過発表（全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。授業中のディスカッションでは、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業の順番は入れ替わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習 II

270232B0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
火曜 5限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。
　そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
２．文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
３．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。
〔授業計画〕
第 1 回　研究計画および研究経過発表
0
第 2 回　研究計画および研究経過発表
0
第 3 回　研究計画および研究経過発表
0
第 4 回　研究計画および研究経過発表
0
第 5 回　研究計画および研究経過発表
0
第 6 回　研究計画および研究経過発表
0
第 7 回　研究計画および研究経過発表
0
第 8 回　研究計画および研究経過発表
0
第 9 回　研究計画および研究経過発表
0
第 10 回　研究計画および研究経過発表
0
第 11 回　研究計画および研究経過発表
0
第 12 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
0
第 13 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
0
第 14 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）

0
第 15 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
0
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

発達・学校心理学専門演習III

270233A0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
水曜 2限
一
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。
　そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
２．文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
３．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	概ね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身につけていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識を身につけている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識を身につけている。	専門分野に関する知識や研究法の知識を十分身につけている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身	おおむね研究結果を他者に発信する力を身に	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

		につけている。	つけている。	

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（全員）
第 2 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 3 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 4 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 5 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 6 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 7 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 8 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 9 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 10 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 11 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 12 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 13 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 14 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 15 回　研究計画および研究経過発表（全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。授業中のディスカッションでは、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業の順番は入れ替わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習III

270233B0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
火曜 5限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　院生が自らの研究内容と経過を発表することを通して、研究の問題点を明らかにし、より良い研究論文を作成できるように指導する。
　そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．実験・観察・調査を具体的に進めていく中で、生じてくる問題点を整理し、意味のある研究論文に仕上げていく過程を発表する。
２．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究論文作成に役立てる。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
0
第 2 回　研究計画および研究経過発表
0
第 3 回　研究計画および研究経過発表
0
第 4 回　研究計画および研究経過発表
0
第 5 回　研究計画および研究経過発表
0
第 6 回　研究計画および研究経過発表
0
第 7 回　研究計画および研究経過発表
0
第 8 回　研究計画および研究経過発表
0
第 9 回　研究計画および研究経過発表
0
第 10 回　研究計画および研究経過発表
0
第 11 回　研究計画および研究経過発表
0
第 12 回　研究計画および研究経過発表
0
第 13 回　研究計画および研究経過発表
0
第 14 回　研究計画および研究経過発表
0

第 15 回　研究計画および研究経過発表
0
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業の順番は入れ替わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

発達・学校心理学専門演習Ⅳ

270234A0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
水曜 2限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。
　そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
２．文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
３．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	概ね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身につけていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識を身につけている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識を身につけている。	専門分野に関する知識や研究法の知識を十分身につけている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身	おおむね研究結果を他者に発信する力を身に	研究結果を他者に発信する力を十

	についていない。	につけている。	つけている。	分身につけている。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（全員）
第 2 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 3 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 4 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 5 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 6 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 7 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 8 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 9 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 10 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 11 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 12 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 13 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 14 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 15 回　研究計画および研究経過発表（全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。授業中のディスカッションでは、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業の順番は入れ替わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習Ⅳ

270234B0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
火曜 5限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　院生が自らの研究内容と経過を発表することを通して、研究の問題点を明らかにし、より良い研究論文を作成できるように指導する。
　そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．実験・観察・調査を具体的に進めていく中で、生じてくる問題点を整理し、意味のある研究論文に仕上げていく過程を発表する。
２．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究論文作成に役立てる。
〔授業計画〕
第 1 回　研究計画および研究経過発表
0
第 2 回　研究計画および研究経過発表
0
第 3 回　研究計画および研究経過発表
0
第 4 回　研究計画および研究経過発表
0
第 5 回　研究計画および研究経過発表
0
第 6 回　研究計画および研究経過発表
0
第 7 回　研究計画および研究経過発表
0
第 8 回　研究計画および研究経過発表
0
第 9 回　研究計画および研究経過発表
0
第 10 回　研究計画および研究経過発表
0
第 11 回　研究計画および研究経過発表
0
第 12 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
0
第 13 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
0
第 14 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
0

第 15 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
0
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究計画や研究経過発表について､その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
0
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

発達心理学特論

270032N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
金曜 4限
ー
60
発達・学校心理学専攻は必修
高井　直美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　ピアジェ、ヴィゴツキーなどの発達の基本的理論、および昨今の重要な研究について理解する。さらに、発達に問題が生じている子ども、障害を持っている子どもの発達過程や個人差について理解し、教育現場等でどのような支援を行うことができるか、さまざまな観点から考察する。なお、本科目は臨床発達心理士指定科目の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」の1、2、3、12を含む。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
　以下に示す個別課題をふまえて授業を進める。
・健常の幼児・児童の発達を支援する教員の役割
・発達に問題がある幼児・児童に対しての、教員による支援的関わり
・発達の理論を教職場面に適用する意義等
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持たない。	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持っている。	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持ち、積極的に学んでいる。	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持ち、さらに学びの成果を発達臨床に活かそうとしている。
知識・理解力	発達心理学の基礎知識・理解力がない。	発達心理学の基礎知識・理解力をわずかに持っている。	発達心理学の基礎知識・理解力を持っている。	発達心理学の基礎知識・理解力をかなり持っている。
言語力	発達心理学の課題について、言語化できない。	発達心理学の課題について、わずかに言語化できる。	発達心理学の課題について、言語化できる。	発達心理学の課題について、かなり言語化できる。
思考・解決力	実践研究の問題について考えることができない。	実践研究の問題について、わずかに考えることができる。	実践研究の問題について、考えることができる。	実践研究の問題について、かなり考えることができる。
共生・協働する力	発達心理学の知識と子どもとの関りを結びつけることができない。	発達心理学で学んだことを子どもとの関りに結び付けることがわずかに可能である。	発達心理学で学んだことを子どもとの関りに結び付けることが可能である。	発達心理学で学んだことを子どもとの関りに結び付けることがかなり可能である。
創造・発信力	文献をまとめ発表することができない。	文献をまとめ発表することが、ある程度できる。	文献をまとめ発表することが、十分できる。	文献をまとめ発表することが、かなり高いレベルでできる。

〔授業計画〕
第 1 回　生涯発達と臨床発達心理学－発達心理学の歴史と個体と環境の相互作用など―

第 2 回　発達のとらえ方—発達段階と発達の連続・非連続など—
第 3 回　発達の生物学的基礎について
第 4 回　発達の基礎理論①—精神分析理論とアタッチメント理論など—
第 5 回　発達の基礎理論②—ピアジェの発生的認識論—
第 6 回　発達の基礎理論③—心理社会的発達段階論、ヴィゴツキーの理論—
第 7 回　臨床発達心理学における発達的視点とは
第 8 回　実践研究・事例研究の検討①—最新の研究例から—
第 9 回　実践研究・事例研究の検討②—事例研究の方法—
第 10 回　実践研究・事例研究の検討③—アクションリサーチの例—
第 11 回　実践研究まとめと研究上の倫理的配慮について
第 12 回　発達の基礎理論④—行動理論と応用行動分析—
第 13 回　発達障害のとらえ方と支援—発達アセスメントについて—
第 14 回　発達支援の具体的方法
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
発達心理学の基本的理論、およびいくつかの重要な研究について、文献講読も行いながら、詳細に理解する。発達に問題が生じている子ども、さらに障害を持っている子どもの発達について学び、問題や障害の支援の仕方について、事例を通して具体的に学ぶ。さらには、臨床発達の現場、教育現場等で行われている支援のさまざまな実践について理解する。
課題レポートについてのフィードバックは、提出後に個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
大学院に入学する前に学んだ基礎的な発達理論について、復習をしておくこと。学部時代の学びが不十分であると感じた場合は、参考文献を紹介するので、その旨申し出てほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業中の文献発表を30％、レポートを70％として、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕
順番は変わることがある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に指示する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

犯罪心理学特論（司法･犯罪分野に関する理論と支援の展開）

270420N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
火曜 2限
ー
60
藤川　洋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
犯罪を扱う司法機関は、それぞれの機関の役割が法律によって厳密に規定されている。法制度の概要とその理念を理解することにより人権感覚を養っておくことは、公認心理師や臨床心理士にとって不可欠なことと言える。一方、加害者・被害者の司法臨床場面において、臨床心理学や発達心理学の視点の必要性は増すばかりである。特に精神鑑定、心理鑑定においては、治療機関とは異なる面接方法（司法面接）が用いられ、事実をどう分析するか、が大きな課題となる。公認心理師、臨床心理士の資格取得を視野に、法制度の理解とともにアセスメントや司法面接テクニックの修得をめざす。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
司法機関の仕組みと役割を理解し、司法領域で経験するテーマにつき、学生が自ら掘り下げてまとめ、発表する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　司法領域における犯罪心理学の役割と課題
第 2 回　司法機関について—少年事件の流れと処遇機関の役割
第 3 回　司法機関について—成人事件の流れと処遇機関の役割
第 4 回　法律の目的と犯罪心理学—少年法　児童福祉法　児童虐待防止法
第 5 回　法律の目的と犯罪心理学—少年鑑別所法、少年院法
第 6 回　法律の目的と犯罪心理学—刑法、刑事訴訟法
第 7 回

法律の目的と犯罪心理学—心神喪失者等医療観察法　発達障害者支援法など
第 8 回　法律の目的と犯罪心理学—いじめ防止対策推進法　ストーカー規制法　DV防止法など
第 9 回　精神鑑定･心理鑑定に期待されるもの—犯罪をどう分析するか
第 10 回　過去の鑑定例から、犯罪理解の変遷を知る（わが国において）
第 11 回　過去の鑑定例から、犯罪理解の変遷を知る（先進諸外国において）
第 12 回　近年の鑑定例
第 13 回　司法面接と治療的面接の違いを知る
第 14 回　司法面接のテクニックと演習
第 15 回　全体のまとめと意見交換
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
担当領域の発表と確認小テストの実施により知識の定着をはかる
できるだけ多くの鑑定例にあたり、犯罪心理の専門家のあり方を学ぶ
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
宿題としての課題から、自らテーマを見つけ、掘り下げて報告する
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
平常点50%　プレゼンテーションや実習の能力50%
〔留意事項（Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『触法発達障害者への複合的支援』/藤川洋子・井出浩編著/福村出版/2011/978-4-571-42040-5
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
家庭裁判所調査官として、5000件に及ぶ少年事件について調査実務に携わったほか、精神障害や発達障害が疑われる刑事事件について、精神鑑定に従事した。

理科教育特論

270140N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
金曜 2限
ー
90
集中
小川　博士

〔科目の教育目標（Course Description)〕
理科教育学の主要なトピックをレビューし、今後の理科教育に関わる研究と実践の方向性を探ることができる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・先行研究を検討し、理科教育学の主要なトピックについて理解することができる。
・理論と実践の往還について考え、理科授業の改善について考察することができる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	理科教育学に関わる先行研究をレビューすることができない。	教員から紹介のあった先行研究をレビューすることができる。	主体的に先行研究を探し、要点をつかんでレビューすることができる。	
思考力・言語力	理科教育学のトピックや先行研究のレビューの結果について、他者とディスカッションすることができない。	理科教育学のトピックや先行研究のレビューの結果について、他者とディスカッションすることができる。	理科教育学のトピックや先行研究のレビューの結果について、実践と結び付けて、他者とディスカッションすることができない。	

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　国内外の調査結果に見る日本の理科教育の問題点
第 3 回　素朴概念とその性質
第 4 回　理科教授学習論①（問題解決学習論）
第 5 回　理科教授学習論②（構成主義学習論）
第 6 回　理科教授学習論③（状況論）
第 7 回　概念変容に関わる先行研究
第 8 回　理科学習評価論①（オーセンティック・アセスメント）
第 9 回　理科学習評価論②（ポートフォリオ評価）
第 10 回　理科学習評価論③（パフォーマンス評価）

第 11 回　様々な評価手法（概念地図法、関連図法など）
第 12 回　小学校理科を対象とした指導法に関わる学術論文の購読
第 13 回　小学校理科を対象とした評価法に関わる学術論文の購読
第 14 回　諸外国の理科教育の動向
第 15 回　総括
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
・関連文献の購読とディスカッションを主とする。
・レポートについては、ディスカッション時に口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
関連文献を読み、レポートをまとめる
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
レポート80％、授業参加度（responを利用したコメント）20％により総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
受講生の実態に応じて、授業内容を変更する場合がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
授業のための書籍や資料は、適宜提示する。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習 I

270235A0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
水曜 2限
ー
60
臨床心理学専攻必修
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。
〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　オリエンテーション(担当教員全員）
第 2 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 8 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 9 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 10 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 11 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 12 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 13 回　なし
　　修士論文発経過表(担当教員全員）
第 14 回　なし
　　修士論文発経過表(担当教員全員）
第 15 回　なし
　　修士論文発経過表(担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。他専攻との交流を行う。
評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学専門演習 I

270235B0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
金曜 6限
ー
60
臨床心理学専攻必修
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。
〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　オリエンテーション(担当教員全員）
第 2 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 8 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 9 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 10 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 11 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 12 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 13 回　なし
　　修士論文発経過表(担当教員全員）
第 14 回　なし
　　修士論文発経過表(担当教員全員）
第 15 回　なし
　　修士論文発経過表(担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。他専攻との交流を行う。
評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学専門演習 II

270236A0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
水曜 2限
ー
60
臨床心理学専攻必修
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。3.発表や討議から学んだことを、研究計画の作成に活かす。
〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 2 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
　　研究経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
　　研究経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
　　研究経過発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 8 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 9 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 10 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 11 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 12 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 13 回　なし
　　研究成果発表（M２修士論文発表会）(担当教員全員）
第 14 回　なし
　　研究成果発表（M２修士論文発表会）(担当教員全員）
第 15 回　なし
　　研究成果発表（M２修士論文発表会）(担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学専門演習 II

270236B0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
金曜 6限
ー
60
臨床心理学専攻必修

村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。3.発表や討議から学んだことを、研究計画の作成に活かす。

〔授業計画〕
第 1 回　なし
研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 2 回　なし
研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
研究経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
研究経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
研究経過発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
研究計画発表(担当教員全員）
第 8 回　なし
研究計画発表(担当教員全員）
第 9 回　なし
研究計画発表(担当教員全員）
第 10 回　なし
研究計画発表(担当教員全員）
第 11 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員）
第 12 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員）
第 13 回　なし
研究成果発表（M２修士論文発表会）(担当教員全員）
第 14 回　なし
研究成果発表（M２修士論文発表会）(担当教員全員）
第 15 回　なし
研究成果発表（M２修士論文発表会）(担当教員全員）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学専門演習III

270237A0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
水曜 2限
ー
60
臨床心理学専攻必修
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。2.自分の研究上の課題や問題点を明確にする。3.発表や討議から学んだことを、研究論文作成に活かす。
〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　オリエンテーション
第 2 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員)
第 3 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員)
第 4 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員)
第 5 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員)
第 6 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員)
第 7 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員)
第 8 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員)
第 9 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員)
第 10 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員)
第 11 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員)
第 12 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員)
第 13 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員)
第 14 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員)
第 15 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員)
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学専門演習III

270237B0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
金曜 6限
ー
60
臨床心理学専攻必修
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究

の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。2.自分の研究上の課題や問題点を明確にする。3.発表や討議から学んだことを、研究論文作成に活かす。
〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　オリエンテーション
第 2 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 8 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 9 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 10 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 11 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 12 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 13 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 14 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 15 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学専門演習Ⅳ

270238A0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
水曜 2限
ー
60
臨床心理学専攻必修
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。2.自分の研究上の課題や問題点を明確にする。3.発表や討議から学んだことを、研究論文作成に活かす。
〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　オリエンテーション
第 2 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし

修士論文経過発表(担当教員全員)
第 5 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員)
第 6 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 7 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 8 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 9 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 10 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 11 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 12 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 13 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員)
第 14 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員)
第 15 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員)

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学専門演習Ⅳ

270238B0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
金曜 6限
ー
60
臨床心理学専攻必修
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。2.自分の研究上の課題や問題点を明確にする。3.発表や討議から学んだことを、研究論文作成に活かす。

〔授業計画〕
第 1 回　なし
オリエンテーション
第 2 回　なし
研究計画および研究経過発表(担当教員全員)
第 3 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員)
第 4 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員)
第 5 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員)
第 6 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 7 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 8 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 9 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 10 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)
第 11 回　なし
研究計画発表(担当教員全員)

第 12 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員)
第 13 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員)
第 14 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員)
第 15 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員)
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学特論 I

270072N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
月曜 4限
ー
60
伊藤　一美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、臨床心理学的な人間理解について、パラダイムという観点から整理しつつ、心理学全般や対人援助における心理臨床の位置づけについて学ぶことを目的とする。それに加えて、臨床心理学的な研究方法と倫理についても学ぶ。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
（１）こころの問題における〝異常”とは何かについて理解と想像力を習得する。
（２）臨床心理学的なアセスメントについて、さまざまな立場や視点を学ぶ。
（３）臨床心理学的介入について、数多い心理療法の技法を「パラダイム」という観点からまとめ直し、その共通点や相違点を理解する。
（４）臨床心理学的な研究方法とそれに伴う倫理的問題について学ぶ。
（５）自身の臨床心理に関する実習体験と本科目で学んだ理論や知見との関連を実感をもって学ぶ。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　異常とはなにか
第 3 回　臨床心理学的アセスメントの考え方
第 4 回　臨床心理学的介入（１）人間学・実存主義パラダイム
第 5 回　臨床心理学的介入（２）精神分析的パラダイム
第 6 回　臨床心理学的介入（３）学習理論パラダイム
第 7 回　臨床心理学的介入（４）認知理論パラダイム

第 8 回　臨床心理学的介入（５）生物学パラダイム
第 9 回　臨床心理学的介入（６）集団への介入
第 10 回　臨床心理学的介入（７）コミュニティ心理学
第 11 回　臨床心理学的介入（８）統合的アプローチ
第 12 回　臨床心理学における研究方法
第 13 回　臨床心理学研究における倫理の問題
第 14 回　各自の心理臨床実践から考える
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
期末レポート課題を実施する。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
上記参考文献や授業中に指定するテキストを用いての講義と、受講生が分担しての発表によって構成する。
講義・発表いずれにおいても、できるだけ討論を重視する。授業中の発表やディスカッションについては、適宜口頭でフィードバックを行う。期末レポート課題については、後日コメントおよび適宜口頭でフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
指定テキストのみならず、心理療法の各種理論について、日ごろから文献で学び、加えて「臨床心理基礎実習Ⅰ」での事例検討会での内容と照らし合わせての省察を常に怠らないこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
分担発表や討論を含む授業参加度（80％）、期末レポート課題（20％）から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『テキスト臨床心理学１「理論と方法」』/デビソンG.C.ほか/誠信書房/2007/4414413419
『テキスト臨床心理学２「研究と倫理」』/デビソンG.C.ほか/誠信書房/2007/4414413427
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫／　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理学特論Ⅱ

270108N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
火曜 2限
ー
60
佐藤　睦子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　この講義は、臨床心理学特論Ⅰの講義を踏まえて、臨床心理学をより深く学ぶことを目標とする。また、各論としての様々な理論、心理治療で用いられる各種技法、地域連携など、心理職として現場で生きる知識を得ることも目標である。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
① 心理治療を行うための臨床心理学的理論を広く学ぶ
② 心理治療のプロセスにおいて生じる意識的・無意識的な心理力動を理解する
③ 心理治療で用いる技法について理論と実践を通じて学ぶ
④ 心理職の地域連携について学ぶ
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　そもそも臨床心理学とはどのような学問であるか考える
第 2 回　無意識の発見
　　フロイトの精神分析を学ぶ
第 3 回　無意識の応用
　　ユングの分析心理学を学ぶ
第 4 回　防衛機制
　　アンナフロイトの理論を学ぶ
第 5 回　対象関係論
　　メラニークラインを中心に理論を学ぶ
第 6 回　クライエント中心療法
　　ロジャースの理論を学ぶ
第 7 回　フォーカシングとゲシュタルト

ジェンドリンとパールズを中心に理論を学ぶ
第 8 回　認知行動療法
エリスとベックを中心に理論を学ぶ
第 9 回　遊戯療法
アクスラインの理論を学ぶ。担当事例があれば、検討を行うこともある。
第 10 回　箱庭療法
実際の事例を提示しつつ、実践につながる理論を学ぶ
第 11 回　芸術療法
言語を用いない技法とその表現の解釈について学ぶ
第 12 回　心理職の役割①
医療現場、産業現場での心理職のあり方を学ぶ
第 13 回　心理職の役割②
教育現場、福祉現場、司法現場での心理職のあり方を学ぶ
第 14 回　心理職と地域連携
心理職の地域連携について、現場の状況を学ぶ
第 15 回　まとめ
これまで学んだ知識を振り返る

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
配布する資料を用いての講義と受講生の分担発表により構成される。
講義・発表のどちらにおいても受講生相互の討論を重視する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
初回オリエンテーション時に、それぞれの講義に対応した文献を提示する。講義までに読了の上、レポートを提出すること。理論を実践に活かすための方法を日々模索すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
分担発表や討論を含む授業参加度、期末レポート課題から総合的に評価を行う。

〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理学特論Ⅱなどの科目について
　　実務経験等：臨床心理士として精神科クリニックでの勤務経験あり。

臨床心理基礎実習Ⅰ

270133N0J
大学院
心理学研究科
1単位　前期
木曜 3限 木曜 4限
ー
15
（週4時間＋外部実習）
佐藤　睦子　空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、本学付設の心理臨床センター心理相談室において教員が行うインテーク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、本実習内で行われるケースカンファレンスに参加することによって、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
(1)インテーク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。
(2)ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。
(3)本学付設の心理臨床センター心理相談室において、さまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。
(4)期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（1）

第 3 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（２）
第 4 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（３）
第 5 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（４）
第 6 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（５）
第 7 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（６）
第 8 回　中間報告・これまでのまとめ
第 9 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（７）
第 10 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（８）
第 11 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（９）
第 12 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１０）
第 13 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１１）
第 14 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１２）
第 15 回　期末試験と振り返り
第１回目を含む各回の担当者

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本学付設の心理臨床センター心理相談室における担当事例を発表し、それに基づきカンファレンス・ディスカッションを行い、内容についての報告・検討を行う。
なお、ケースカンファレンスにおいては、臨床心理学専攻の教員および心理相談室スタッフ全員が参加して行う。
フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で適宜口頭によりなされる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
心理相談室のシステムについて慣れ、自身もその運営に関わる中で、どのように事例が抱えられているのかを理解すること。そのうえで、周辺の知識を習得し、またよりわかりやすく簡潔なプレゼンテーションとなるように準備をすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
概ね、ケース検討会への出席40％・発表30％・討論10％・小レポート作成10％、期末に行われる記述式の試験10％を目安に評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕
本学付設の心理臨床センター心理相談室における実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理相談室の開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。受講者は各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり

臨床心理基礎実習 II

270134N0J
大学院
心理学研究科
1単位　後期
木曜 3限 木曜 4限
ー
15
（週4時間＋外部実習）
佐藤　睦子　空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、「臨床心理基礎実習Ｉ」での体験学習を踏まえ、本学付設の心理臨床センター心理相談室において教員が行うインテーク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、ケースカンファレンスに参加することによって、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。これらの体験学習を積んだうえで、本学付設の心理臨床センター心理相談室において電話受付を行ったり、実際の事例を担当してゆくことになる。また、臨床心理士資格のみを目指す学生は、この科目において学外施設での実習を通じて実際の現場において実践的な心理臨床的関わりや援助について経験的に学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1)インテーク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。
(2)ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。
(3)本学付設の心理臨床センター心理相談室,
学外の実習先においてにおいて、さまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。
(4)期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１）
第 3 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（２）
第 4 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（３）
第 5 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（４）
第 6 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（５）
第 7 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（６）
第 8 回　中間報告・これまでのまとめ
第 9 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（７）
第 10 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（８）
第 11 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（９）
第 12 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１０）
第 13 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１１）
第 14 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１２）
第 15 回　期末試験と振り返り
第１回目を含む各回の担当者

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
学内実習では、本学付設の心理臨床センター心理相談室において、インテーク面接の陪席とその記録を行ったり、実際の事例を担当してその経過をまとめ、ケースカンファレンスで発表する。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。週4時間の授業時間には、これらインテークケース、継続ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討を行う。
臨床心理士資格のみを目指す学生については、学外での実習が教育機関・医療機関等で行われ、それぞれの機関における対象者への関わりを通じて、心理臨床的援助の意義や他職種との連携について学ぶ。また、毎回、実習記録を作成することによって実習内容の検討を行う。
なお、ケースカンファレンスにおいては、臨床心理学専攻の教員および心理相談室スタッフ全員が参加して行う。
フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で適宜口頭によりなされる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
心理相談室のシステムについて慣れ、自身もその運営に関わる中で、どのように事例が抱えられているのかを理解すること。そのうえで、周辺の知識を習得し、またよりわかりやすく簡潔なプレゼンテーションとなるように準備をすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
概ね、ケース検討会への出席40％・発表30％・討論10％・小レポート作成10％、期末に行われる記述式の試験10％を目安に評価を行う。

〔留意事項（Other Information)〕
本学付設の心理臨床センター心理相談室における実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理相談室の開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。受講者は各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり

臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）

270418N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期前半
火曜 4限 火曜 5限
ー
60
２コマ連続
向山　泰代

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本演習では、心理臨床の現場で活用されている代表的な心理検査について、アセスメント理論と方法を学ぶ。授業では個別式の知能検査等の実習を通じて、主として人の認知的側面のアセスメントについて学ぶが、情意的側面のアセスメントも実習の一部に加える。また、テスト・バッテリーの組み方、検査実施にあたっての倫理的配慮、結果の有効な活用等に関する学習を通して、公認心理師等の心理専門職が実践する心理的アセスメントの意義について理解する。さらに、アセスメントに関するこれらの知識や技能を、どのように心理に関する相談、助言、指導等に活用していくかについて考える。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1) 心理アセスメントの理論と方法を実践的に学ぶ。 (2) 各種の心理検査の有効性と限界について知る。 (3) 検査者としての基本的態度と倫理を学ぶ。 (4) 公認心理師等の心理専門職による心理相談、助言、指導等の実践活動において意義あるアセスメントについて考える。 (5) 検査結果をいかに個人の統合的理解に結びつけてゆくかを考える。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　心理アセスメント概説
第 2 回　性格検査（１）: 特性論にもとづく検査
第 3 回　性格検査（２）: 連想にもとづく検査
第 4 回　知能検査（１）: WAISの解説と実習（検査１～３）
第 5 回　知能検査（２）: WAISの実習（検査４～６）
第 6 回　知能検査（３）: WAISの実習（検査７～１５）
第 7 回　知能検査（４）: WAISのスコアリングと結果の解釈
第 8 回　知能検査（５）: WISCの解説と実習
第 9 回　発達検査（１）: 発達検査概説
第 10 回　発達検査（２）: 発達検査の実習
第 11 回　神経心理学的検査（１）: 神経心理学的検査概説
第 12 回　神経心理学的検査（２）: 遂行機能のアセスメント
第 13 回　神経心理学的検査（３）: 記憶のアセスメント
第 14 回　アセスメントにおける倫理
第 15 回　アセスメント結果の心理相談等への活用
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
受講生が互いに検査者と被検者となって心理検査を体験したり、心理検査の実施例のスコアリングや結果についての検討を行う。これら実習と並行して、受講生は各検査が開発された背景や依拠する理論、特徴や実施方法等についてまとめ、発表する。個々の心理検査についての理解を深めた後には、複数のテストによりバッテリーを組み、検査結果の所見を報告書の形でまとめる。期末レポートとして提出された所見の報告書には、講評等を記載して受講生に返却する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
受講生はオリエンテーション時に配布されるスケジュールを確認し、各自が事前に学習・準備した上で演習に臨むこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
(1) 心理検査に関する理論や特徴についてのまとめと発表。 (2) テスト・バッテリーを組み、所見を報告書としてまとめる期末リポート。 (3) 授業参加度、課題への取り組み等の学習態度。以上の3点から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
受講生の知識や理解度に応じて、実習の順序や実習の内容を変更することがある。本演習で取り上げる心理検査以外にも、多くの検査が開発されている。様々な心理検査について、受講生による自主的な学習が期待される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業内容や進行状況に応じて、文献等を適宜紹介する。
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として教育機関等の相談室での勤務経験あり。

臨床心理査定演習Ⅱ

270120N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
木曜 2限
ー
60
村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
治療的なアセスメントの方法論の理解を目指し、そのために必要な心理アセスメントツールを正確に使用できるスキルを習得する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1）パーソナリティ・アセスメントに関する理論と研究について充分な知識を有すること。
２）包括システムによるロールシャッハ法の施行法、コーディング、スコアリングを習得すること。
３）アセスメント・レポートを作成できること。
４）共感、傾聴、適切な境界の維持などの基本的な臨床スキルを体得すること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション、ロールシャッハの歴史と展開
第 2 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の施行法
第 3 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）のコーディング：反応領域と発達水準、組織化活動
第 4 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）のコーディング：決定因子、形態水準
第 5 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）のコーディング：特殊スコア
第 6 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）構造一覧表の作成
第 7 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈のためのガイドライン
第 8 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：コントロール
第 9 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：感情
第 10 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：認知の3側面
第 11 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：自己知覚と対人知覚
第 12 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：まとめ
第 13 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）を用いた事例検討
第 14 回　複数のアセスメント・データを用いた治療的アセスメントの事例検討
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
授業は、講義形式で行います。
みなさんが事前学習をしてきたことを前提に解説やディスカッションを行います。こちらから質問や意見を頻繁に聞いていきますので、積極的に発言して下さい。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
講義内容はかなりのボリュームがあるので、自主的な学習が必須となります。
宿題や必要な事前学習は、こちらからその都度、具体的に提示します。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業中の積極性（30％）、定期試験（70％）
定期試験終了後、解説を行う。
〔留意事項（Other Information）〕
進行上の都合により、内容が変更される可能性がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『ロールシャッハ・テスト包括システムの基礎と解釈の原理』/エクスナー/金剛出版/2009/9.784772410823E12
必要に応じて提示します。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
医療機関、教育機関で臨床心理士としての勤務経験あり。

臨床心理事例研究法演習Ⅰ

270200N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
60
伊藤　一美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
臨床心理士を目指す受講者は、学内実習施設である心理臨床センター心理相談室での事例担当と並行して、スーパービジョンを受ける。事例担当者は心理相談や心理検査等を実習するにあたって、来談者の抱える問題を把握することをはじめ、来談者と担当者との間に信頼関係ができているか、どのように面接を展開するとよいか等を心理相談の経過に沿って全体的に捉える必要がある。毎回の面接についてまとめたり、振り返ったりする作業を通じて治療過程についての理解とこれを表現する力を養う。さらにスーパー

ビジョンを受けることにより、事例についての一層の理解と面接や検査等に関する知識や技能を高める。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（１）実習事例を丁寧にまとめ、スーパービジョンを担当する教員に詳しく報告する。
（２）教員への報告を通じて自分自身の面接を冷静に振り返る。
（３）個別スーパービジョンあるいは少人数での集団スーパービジョンを経験し、事例の理解と面接技能を高め、実践力を養う。
（４）スーパービジョンでの経験をケース検討会での発表、事例研究論文執筆に活かし、来談者への心理臨床実践に還元する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
事例の担当状況に応じて、進めていく。
日程、授業計画は、授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目では、定期的に事例の経過をスーパービジョン担当教員に報告し、事例の理解や心理相談の進め方などに関して指導を受ける。
フィードバックは、個別指導の中で、口頭および文章指導などの形で、適宜実施される。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
担当事例の逐語録の作成のほか、適宜、担当教員より指示する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
スーパービジョンで の報告内容（50%）、事例運営における意欲（50%）が評価の対象となる。
〔留意事項（Other Information）〕
定期的かつ事例の実情に応じて、随時、事例運営についてのスーパービジョンを受ける。
学内心理臨床センター心理相談室での実習は長期休暇中にも行われるため、それに応じてスーパービジョンも適宜行われる。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理事例研究法演習 II

270201N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期集中
その他
ー
60
伊藤　一美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
受講者は、学内実習施設である心理臨床センター心理相談室での事例担当と並行して、スーパービジョンを受ける。事例担当者は心理相談や心理検査等を実習するにあたって、来談者の抱える問題を把握することをはじめ、来談者と担当者との間に信頼関係ができているか、どのように面接を展開するとよいか等を心理相談の経過に沿って全体的に捉える必要がある。毎回の面接についてまとめたり、振り返ったりする作業を通じて治療過程についての理解とこれを表現する力を養う。さらにスーパービジョンを受けることにより、事例についての一層の理解と面接や検査等に関する知識や技能を高める。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（１）実習事例を丁寧にまとめ、スーパービジョンを担当する教員に詳しく報告する。
（２）教員への報告を通じて自分自身の面接を冷静に振り返る。
（３）個別スーパービジョンあるいは少人数での集団スーパービジョンを経験し、事例の理解と面接技能を高め、実践力を養う。
（４）スーパービジョンでの経験をケース検討会での発表、事例研究論文執筆に活かし、来談者への心理臨床実践に還元する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
事例の担当状況に応じて、進めていく。
日程、授業計画は、授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目では、定期的に事例の経過をスーパービジョン担当教員に報告し、事例の理解や心理相談の進め方などに関して指導を受ける。
学期末には、全担当事例についてブリーフレポートを作成する。
さらに、心理相談に関する先行文献も参照しながら、担当事例に関する事例論文執筆に取り組む。
フィードバックは、個別指導の中で、口頭および文章指導などの形で、適宜実施される。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
担当事例の逐語録の作成のほか、適宜、担当教員より指示する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
スーパービジョンでの報告内容（30％）、事例運営の意欲（30％）、全担当事例についてのブリーフレポート作成（20％）、担当事例に関する事例論文等（20％）が評価の対象となる。
〔留意事項（Other Information)〕
定期的かつ事例の実情に応じて、随時、事例運営につい てのスーパービジョンを受ける。学内心理臨床センター心 理相談室での実習は長期休暇中にも行われるため、それに 応じてスーパービジョンも適宜行われる。
担当事例についてのブリーフレポートは継続、終結、中断等の全ての担当事例について提出を求める。事例研究論文はスーパービジョン担当教員の指導のもとで作成し、臨床心理学専攻専任教員による倫理面でのチェックを受けたのち、提出する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理実習 I

270135N0J
大学院
心理学研究科
1単位　前期
月曜 1限 月曜 2限
一
15
（週4時間＋外部実習）「臨床心理基礎実習I」を修得済みであること。
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　三好　智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、「臨床心理基礎実習I・II」（１年次配当）での体験学習の上に成り立っている。学内実習では、本学心理臨床センター心理相談室でケースを担当し、カウンセリング、心理療法、心理検査、心理臨床家としての基本的態度や倫理などについて体験的に学び、ケース検討会で指導を受ける。また本科目では、一年次後期に引き続き学外実習を実施する。学外実習では、心理臨床に関わるさまざまな専門機関で実習を行い、心理臨床家としての基本的な視点について、現場での体験を通して学ぶ。また、現場での自分自身の体験を記述し実習記録としてまとめ、その記録に基づいて実習担当者から個別に指導を受ける。さらに、各相談機関の運営、業務内容等についても、現場で体験を通して学ぶ。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
（1）学内実習においては、本学心理臨床センター心理相談室でケースを担当することによって、臨床家としての責任ある関わり方、態度、倫理について体験的に学ぶ。
（2）センターにおいて、電話受付等、相談室の周辺業務についても学ぶ。
（3）学内実習では、心理療法の技法について学ぶ。
（4）学内実習では、心理検査の施行や解釈について体験的に学ぶ。
（5）事例検討会を通して、自分や他の実習者のケースの流れの見方、治療関係の見方などについて学ぶ。
（6）学外実習では、医療、教育、福祉の専門機関が持つ機能と、その中での臨床心理士の視点、役割等について学ぶ。
（7）学外実習では、各機関において、他の専門職との連携、協調、臨床心理士の専門性の特徴などについて考えていく。
（8）実習記録の書き方について学ぶ。
（9）実習で困ったこと、悩んだことなどについて個別に学

内の担当教員とともに考える時間を持ち、指導を受けることで実習での経験を意味のあるものにする。
〔授業計画〕
第１回　オリエンテーション
第２回　学外実習 学内実習または事例検討会①
第３回　学外実習 学内実習または事例検討会②
第４回　学外実習 学内実習または事例検討会③
第５回　学外実習 学内実習または事例検討会④
第６回　学外実習 学内実習または事例検討会⑤
第７回　学外実習 学内実習または事例検討会⑥
第８回　学外実習 学内実習または事例検討会⑦
第９回　学外実習 学内実習または事例検討会⑧
第10回　学外実習 学内実習または事例検討会⑨
第11回　学外実習 学内実習または事例検討会⑩
第12回　学外実習 学内実習または事例検討会⑪
第13回　学外実習 学内実習または事例検討会⑫
第14回　学外実習報告会
第15回　期末試験
第1回目を含む各回の担当者：村松・三好・向山・伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
学内実習では、本学付設の心理臨床センター心理相談室において、実際の事例を担当する。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。担当ケースについてのカンファレンスを週2講時分行い、内容について報告・検討を行う。学外実習は、教育機関・医療機関・福祉機関等で行われるが、それぞれの機関における対象者への関わりを通じて、心理臨床的援助の意義や他業種との連携について学ぶ。また、毎回、実習記録を作成することによって実習内容の検討を行うほか、各機関での実習内容について全体での報告会を行う。
なお、ケースカンファレンスにおいては、臨床心理学専攻の教員および心理相談室スタッフ全員が参加して行う。
フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
心理相談室の運営に主体的に関わる中で、それぞれの事例について幅広い視点から理解する。インテーク陪席や事例検討会等の資料作成においては、事例に関連する文献を参照することで専門的知識を深めながら、担当する事例を振り返り、分りやすい報告となるよう準備すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
学内実習については、ケース検討会への発表、討論などへの参加、担当事例の報告、電話受付などによって評価（40％）される。学外実習については、実習への参加状況、参加態度、実習記録の内容などによって評価（40％）される。さらに学期末に試験（20％）を行い、それらをもって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
学内実習におけるケース担当（およびカンファレンス）は、基本的に長期休暇にかかわらず継続して行われる。ケースを担当するということについての、臨床家として自覚が求められる。学外実習は、週1日実施されるが、実習先の状況に応じて長期休暇中も行われることがある。そのため実習生は、外部機関に身を置いて勉強していることを自覚して、社会人として、また実習生として責任ある行動をとることが求められる。

※心理実践実習Ⅲa、心理実践実習Ⅲb、心理実践実習ⅤBもしくはⅥB、心理実践実習Ⅷの４科目を履修している場合は、本科目を加えて履修する必要はない。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理実習 II

270136N0J
大学院
心理学研究科
1単位　後期
月曜 5限 月曜 6限
ー
15
（週4時間＋外部実習）「臨床心理基礎実習II」を修得済みであること。
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　三好　智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」ならびに「臨床心理実習Ⅰ」での体験学習の上に成り立っており、大学院での専門的学習のまとめの意味も持つ。
臨床心理学の専門家としては、実践力だけでなく、科学的な素養も必要である。心理臨床家としての営みを他職種にもわかりやすく明確に説明する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
(1)臨床心理学的な諸現象を論理的かつ合理的に説明できること。
(2)心理面接における技法を習得しつつ、ケース検討や小グループでの討論などの実習を通じて、問題点を振り返りながら、積極的に討論に参加し、臨床的視点を養う。
(3)臨床心理の専門家としての職業倫理を修得、理解する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
（村松）
第 2 回　事例紀要論文オリエンテーション（１）

事例論文の考え方（三好・向山）
第 3 回　事例紀要論文オリエンテーション（２）
事例論文の書き方（伊藤・三好）
第 4 回　事例論文の講読（１）
医療機関との連携を含む事例（伊藤・向山）
第 5 回　事例論文の講読（２）
地域援助を含む事例（三好・村松）
第 6 回　事例論文の講読（３）
多職種連携や家族支援を含む事例（伊藤・三好）
第 7 回　事例論文の購読（４）
グループを対象とした事例（向山・伊藤）
第 8 回　グループ・スーパーヴィジョン（１）
医療機関との連携を含む事例（伊藤・村松）
第 9 回　グループ・スーパーヴィジョン（２）
地域援助を含む事例（伊藤・三好）
第 10 回　グループ・スーパーヴィジョン（３）
家族支援を含む事例（向山・村松）
第 11 回　多角的アセスメントの実際（１）
知能検査、質問紙法、投映法、作業検査法等、多角的な心理検査を施行した事例検討（向山・伊藤）
第 12 回　多角的アセスメントの実際（２）
フィードバック・セッションを含めた事例検討
誰のためのフィードバックか？（三好・村松）
第 13 回　多角的アセスメントの実際（３）
治療的アセスメントと支援計画報告書の作成１
（クライエント宛）（向山）
第 14 回　多角的アセスメントの実際（４）
治療的アセスメントと支援計画報告書の作成２
（家族宛、医療従事者宛）（村松）
第 15 回　総括
（村松）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
事例論文や事例報告から、クライエントに関する
１）コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援などの知識及び技能
２）支援ニーズの把握と支援計画の作成
について、2年次前期までの通常のカンファレンスや個別指導に加え、より高度な心理臨床的支援を目指して多様なスーパーヴィジョンの形態において学ぶ。
なお、通常のケースカンファレンスにも参加する。また、そのカンファレンスには、臨床心理学専攻の教員および心理相談室スタッフ全員が参加して行う。
フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
さまざまな事例について幅広い視点から理解するために、関連する分野について心理臨床学研究などの学術論文を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
カンファレンスでの発表・討論などを含む参加態度、さらには本科目の特色である多様なスーパーヴィジョンにおける発表や討論（20%）を通して、事例検討の理解度（80%）によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕
進行状況を見ながら、授業日程については別途調整する可能性がある。なお、長期休暇期間や土曜日等に実施される場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
事例研究の考え方と戦略：心理臨床実践の省察的アプローチ　　山本力 著 創元社
初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル　津川律子・遠藤裕乃 著　金剛出版

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）

270402N0J
大学院
心理学研究科
2単位　前期
木曜 2限
ー
60
三好　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目では、力動論、行動論・認知論、その他に基づく心理療法の理論と方法、これら理論や方法の心理に関する相談、助言、指導等への実践的応用、心理に関する支援を要する人の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学ぶ。本科目の教育目標は以下のとおりである。①力動論、行動論・認知論、その他に基づく心理療法の理論と方法について理解し、概要を説明することができる。②①で学んだ理論や方法の心理に関する相談、助言、指導等への応用について、事例の検討やロールプレイ等の体験を通して学び、実践に役立つスキルを身につける。③心理に関する支援を要する人の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について、事例の検討やロールプレイ等の体験を通して学び、実践に役立つスキルを身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1)各種文献の購読や教材の視聴を通して、各種心理療法の理論と方法を学ぶ。
(2)(1)を踏まえて全体もしくは小グループでディスカッショ

ンを行う。
(3)事例の検討やロールプレイ等の実践練習を通して、心理に関する相談、助言、指導等や、適切な支援方法の選択・調整に関する実践的なスキルを身につける。
(3)各テーマに関してレポートを作成し、さらに理解を深める。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理療法の理論と方法の理解および概要の説明	心理療法の理論と方法を理解し概要を説明する力が不十分である。	心理療法の理論と方法をある程度理解し概要を説明できる。	心理療法の理論と方法をおおむね理解し概要を説明できる。	心理療法の理論と方法をよく理解し概要を説明できる。
心理に関する相談、助言、指導等の基本的スキル	心理に関する相談、助言、指導等の基本的スキルが不十分である。	心理に関する相談、助言、指導等の基本的スキルをある程度習得している。	心理に関する相談、助言、指導等の基本的スキルを習得している。	心理に関する相談、助言、指導等の基本的スキルをよく習得している。
適切な支援方法の選択・調整等の基本的スキル	適切な支援方法の選択・調整等の基本的スキルが不十分である。	適切な支援方法の選択・調整等の基本的スキルをある程度習得している。	適切な支援方法の選択・調整等の基本的スキルを習得している。	適切な支援方法の選択・調整等の基本的スキルをよく習得している。

〔授業計画〕
第1回 オリエンテーション
第2回 心理支援における基礎（様々な業務）
第3回 心理支援における基礎（インテーク面接）
第4回 心理支援における基礎（見立て）
第5回　　力動論に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
第6回 力動論に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
第7回 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
第8回 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
第9回 その他に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
第10回 その他に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
第11回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ1）
第12回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ2）
第13回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ3）
第14回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ4）
第15回 心理支援における倫理
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
(1)各文献の購読、教材の視聴と、それらを踏まえたディスカッション。
(2)事例の検討。
(3)ロールプレイ等による実践練習。
(4)各テーマに関するレポート作成。
課題に対するフィードバックの方法としては、授業中の発問に対し適宜口頭でフィードバックするとともに、レポートにコメントして返却する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・文献等の資料には必ず目を通してくること。
・ロールプレイ等の実践練習については、適宜指示された準備を必ず行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、授業時の課題（30%）、ロールプレイ・ディスカッションへの参加態度（40%）、レポート（30%）から、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
・受講状況によって、適宜、授業予定を変更する可能性がある。
・実践体験や受講者同士のロールプレイや模擬実習には、他の受講生や自らの体験を丁寧に扱う心構えで臨んでいただきたい。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に適宜、指示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　心理専門職として施設での勤務経験あり。

臨床心理面接特論 II

270075N0J
大学院
心理学研究科
2単位　後期
金曜 2限
ー
60
空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
心理臨床実践は理論のみでは成り立たず、体験を通して実際的な関わりの姿勢を身につけることが求められる。これらを身につける過程では、自分自身のもののとらえ方、感じ方、反応の仕方等について理解すること、そして、それ

ぞれに異なる特性を備えた個々が、自らの実感をさぐり、それと慎重に照らし合わせながら、自らに適した「いまここ」における関わりのあり方を模索することが大切である。「臨床心理面接特論Ⅱ」では、「臨床心理面接特論Ⅰ」に引き続き、文献の講読やディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。クライエントと治療者の関係性構築のあり方について、実習を通して体験的理解を深める。また、臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

（１）事例論文や面接技法について述べた文献を講読し、それに関するディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。

（２）傾聴や共感的理解といった臨床心理面接における基本姿勢や、クライエントと治療者の関係性構築のあり方について、体験的理解を深める。

（３）臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文献による臨床心理面接の基本姿勢の理解	文献発表をしない。	文献発表の資料に不明瞭な文章や誤字が含まれるが、発表で補うことができる。	議論の深まりを促すような分かりやすい資料を作成し、自分の考えを踏まえながら発表できる。	文献や授業内での議論の内容から発展的な課題を見つけ、それを明確に説明できる。
臨床心理面接の具体的な技法の習得	臨床心理面接の具体的な技法を実践しない。	臨床心理面接の具体的な技法を実践できる。	臨床心理面接の具体的な技法を実践した上で、自分自身の課題を明確に説明し、場面に応じて調整できる。	複数の事例に対し、内容に応じた適切な技法について根拠を示して説明し、その技法を実践できる。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　面接に関わる文献講読（面接技法の歴史と理論）
第 3 回　ロールプレイと振り返り（面接技法の歴史と理論）
第 4 回　面接に関わる文献講読（面接の基本姿勢）
第 5 回　ロールプレイと振り返り（面接の基本姿勢）
第 6 回　面接に関わる文献講読（傾聴、関係性構築）
第 7 回　ロールプレイと振り返り（傾聴、関係性構築）
第 8 回　面接に関わる文献講読（アセスメントとフィードバック）
第 9 回　ロールプレイと振り返り（アセスメントとフィードバック）
第 10 回　技法の実習（機能的アセスメント）
第 11 回　技法の実習（セルフモニタリング）
第 12 回　技法の実習（動機づけ面接）
第 13 回　技法の実習（社会的スキル訓練：個人）
第 14 回　技法の実習（社会的スキル訓練：集団）
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

（１）事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読の上、ディスカッションを行う（使用する文献については、授業時間中に指示する）。

（２）体験実習では、体験の後にディスカッションを行い、各自振り返りのレポートを作成する。

（３）授業中の発問に対して適宜口頭でフィードバックする。

（４）レポートには適宜個別にコメントし、その講評や解説を授業中に行う。さらに、解説や参考資料をmanabaで公開する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

（１）事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読し、ディスカッションしたい点を明確にしておく。

（２）臨床心理面接で用いられる技法の基盤となる、心理学の各領域の理論を説明できるよう、これまでに習得した専門的知識を復習しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

体験実習や発表、ディスカッションにおける準備や取り組みの姿勢(70％)、レポートの内容（30％）から、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（臨床心理士として教育、医療機関での勤務経験あり）。

臨床発達心理学実習Ⅰ

270115N0J
大学院
心理学研究科
4単位　通年
木曜 1限 木曜 2限
ー
120
高井　直美　薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕
子どもの精神発達の援助、および親への育児支援に関して、学内で実施する子育て支援プログラムの場で実習する。
なおこの科目の内容は、臨床発達心理士の受験資格条件となる「臨床実習」（合計200時間）の一部に充てられるものとして選定される予定である。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
通年で、特定かつ複数の子どもと関わることを通して、乳幼児期の精神発達の過程を理解し、発達を支える方法や対人関係のありかたを探っていく。また教員の指導のもとで、子育て支援プログラムの立案や、親への援助活動も行っていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　臨床発達心理学の基礎　　担当教員：高井・薦田
第 2 回　臨床発達心理士に必要な倫理　　担当教員：高井・薦田
第 3 回　子育て支援プログラム「こがもクラブ」の準備　担当教員：高井・薦田
第 4 回　子育て支援プログラム（前期）の実施（支援計画の検討）　担当教員：高井・薦田
第 5 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 6 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 7 回　ケース検討会；前期①（日程は変わることもある）　担当教員：高井・薦田
第 8 回　子育て支援プログラム（前期）の実施（支援の実施）　担当教員：高井・薦田
第 9 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 10 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 11 回　ケース検討会；前期②（日程は変わることもある）　担当教員：高井・薦田
第 12 回　子育て支援プログラム（前期）の実施（必要に応じて支援計画の見直しを図る）　担当教員：高井・薦田
第 13 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 14 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 15 回　前期の支援の振り返り　担当教員：高井・薦田
第 16 回　後期の支援の計画　担当教員：高井・薦田
第 17 回　子育て支援プログラム（後期）の実施（支援の実施）　担当教員：高井・薦田
第 18 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 19 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 20 回　ケース検討会；後期①（日程は変わることもある）　担当教員：高井・薦田
第 21 回　子育て支援プログラム（後期）の実施（必要に応じて支援計画の見直しを図る）　担当教員：高井・薦田
第 22 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 23 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 24 回　ケース検討会；後期②（日程は変わることもある）　担当教員：高井・薦田
第 25 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 26 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 27 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 28 回　ケース検討会；後期③（日程は変わることもある）　担当教員：高井・薦田
第 29 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 30 回　１年間の支援のまとめ　担当教員：高井・薦田

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
子育て支援プログラムでは、院生はスタッフの１人として、主に遊びを通して子どもと関わりながら、遊びのプログラムの立案にも関わる。そして、ケースカンファレンス（プログラム直後に行う報告会）やケース検討会（子育て支援プログラムが休みの日に行う）で、自分が関わっている

個別事例や子ども同士の関わりについて経過報告を行いながら、自らの関わりを振り返り、よりよい支援のありかたを探っていく。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
最近の子育て事情について、新聞記事などで情報を収集しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　子育て支援プログラムにおける諸活動（プログラムの進行への関与のあり方、担当の子どもとの関わり、個別事例の報告など）を評価する。 授業参加態度についても、評価の参考とする。
〔留意事項（Other Information)〕
　ここで行う子育て支援プログラムは、学外から対象者が来訪する対外的なプログラムである。したがって、臨床発達の専門家を目指すものとしての自覚と責任感を持ち、倫理的配慮を行うことが必要とされる。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
用いない。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『授業中に紹介する。』
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
臨床発達心理士として、保健医療、福祉、教育分野において実務経験あり。

臨床発達心理学実習 II

270116N0J
大学院
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
高井　直美　薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　臨床発達心理学実習Ｉで学んだ子どもの発達援助および親の育児支援に関して、さらに実践を積んで学ぶことを通して、臨床発達の専門性を身につけていくことを目指す。なおこの科目の内容は、臨床発達心理士の資格条件となる「臨床実習」（合計200時間）の一部に充てられるものとして選定される予定である。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
　受講生の目指す進路やその資質に応じて、①外部実習を行うか、②学内実習を行うか、そのどちらかに分けられる。
　いずれにおいても、臨床発達の専門家としてふさわしい力量がつくように、複数のケースの観察による発達アセスメントおよび発達援助方法について、継続的に学んでいく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　前期実習のガイダンス　　担当教員：高井・薦田
第 2 回　臨床発達に関する実習①　　担当教員：高井・薦田
第 3 回　臨床発達に関する実習②　　担当教員：高井・薦田
第 4 回　臨床発達に関する実習③　　担当教員：高井・薦田
第 5 回　ケースカンファレンス①　　担当教員：高井・薦田
第 6 回　臨床発達に関する実習④　　担当教員：高井・薦田
第 7 回　臨床発達に関する実習⑤　　担当教員：高井・薦田
第 8 回　臨床発達に関する実習⑥　　担当教員：高井・薦田
第 9 回　臨床発達に関する実習⑦　　担当教員：高井・薦田
第 10 回　ケースカンファレンス②　　担当教員：高井・薦田
第 11 回　臨床発達に関する実習⑧　　担当教員：高井・薦田
第 12 回　臨床発達に関する実習⑨　　担当教員：高井・薦田
第 13 回　臨床発達に関する実習⑩　　担当教員：高井・薦田
第 14 回　ケースカンファレンス③　　担当教員：高井・薦田
第 15 回　前期のまとめ　　担当教員：高井・薦田
第 16 回　後期実習のガイダンス　　担当教員：高井・薦田
第 17 回　臨床発達に関する実習⑪　　担当教員：高井・薦田
第 18 回　臨床発達に関する実習⑫　　担当教員：高井・薦田
第 19 回　臨床発達に関する実習⑬　　担当教員：高井・薦田
第 20 回

ケースカンファレンス④　担当教員：高井・薦田
第 21 回　臨床発達に関する実習⑭　担当教員：高井・薦田
第 22 回　臨床発達に関する実習⑮　担当教員：高井・薦田
第 23 回　臨床発達に関する実習⑯　担当教員：高井・薦田
第 24 回　臨床発達に関する実習⑰　担当教員：高井・薦田
第 25 回　ケースカンファレンス⑤　担当教員：高井・薦田
第 26 回　臨床発達に関する実習⑱　担当教員：高井・薦田
第 27 回　臨床発達に関する実習⑲　担当教員：高井・薦田
第 28 回　臨床発達に関する実習⑳　担当教員：高井・薦田
第 29 回　ケースカンファレンス⑥　担当教員：高井・薦田
第 30 回　1年のまとめ　担当教員：高井・薦田

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
①外部実習の場合；発達支援の専門機関に実習生として参加し、発達上の問題や障がいを持つ子どもとその親を支援する現場を体験する。スタッフの一人として子どもと関わること、およびケースカンファレンスでケースの報告を行うことを通して、発達の問題・障がいを理解し、必要な発達援助について、考えていく。
②内部実習の場合；1年次に引き続き、学内での子育て支援のプログラムのスタッフの一人として活動する。特定の担当ケースへの関わりだけでなく、集団全体の力学的変化にも着目し、支援プログラム全体の立案や構成についても、主体的に関わることが要求される。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
臨床発達心理学実習Ⅰで学んだことを実習Ⅱに応用できるように、しっかりと復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
実習を通して、臨床発達心理士として必要な力量を獲得しているかが、評価のポイントになる。具体的には、対象児の観察によるアセスメントのしかた、対象児との関わり、ケース報告の文書、ケースカンファレンスでの発表などが総合的に評価される。

〔留意事項（Other Information)〕
外部での実習は、その機関の年間予定に合わせて行われるため、長期休暇中にも行われる。また外部実習先に応じて、実習に関する費用が徴収される。
30回の内容は、実習先によって変化する可能性がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
臨床発達心理士として、保健、福祉、教育分野において実務経験あり。